

舟に積さじとして村方と紛擾を醸したるが、二月村方と和解し、村荷物は古來の如く寄舟に積むべく彌四郎は今後寄舟に干渉せざるべし。但し他村の荷物は自分支配となすべき旨協定せり。

今津にては某年會所座を置けり。其以前に於ける座又は株の制ありしならんも今詳ならず。

今津會所は其設置の年代詳ならず、蓋し古き歴史を有せざるべし。會所は幾人の口數より成立す。口數詳ならざれども、其數多からざりしなり。是を支持するものは今津浦の有富なるものなり。湖北海津鹽津大浦等には會所の設けなし。その會所あるは今津のみなり。寛文七年八月會所の所業專恣なりとて小濱の間屋諸商人船持馬借、熊川の間屋馬借、八幡山の商人、大津の間屋等連署して其廢止を加賀藩に訴へたり。其專恣の條項として擧げしところは、問屋の庭運賃の他に會所の利分を貪り、會所口數所有者の利潤多きに乗じ、彼等勝手の仕事多く、旅人迷惑して若狭街道筋衰微し、從て道中の宿々馬借等も其影響を蒙ること多きも顧みざること、會所にて大船を作り、其船に滿るまで荷物を待ち合せ、日數を費し、又大津八幡佐和山其他浦々への荷物を積合はすを以て着荷遅延し、肴荷くさり荷主の損失大なること、肴荷あい物の類大津着を急ぐ時は仕立舟の運賃を要求し、荷主より指定の大津問屋の荷受検査嚴重なるを避け、指定せざる問屋に荷上げをなすこと等なり。翌八年十一月加賀藩にては其要求を容れて會所を撤廢せしめたり。會所座撤廢されし爲め、其口數を有したりしものは今後船持を以て家職とせんことを願ひ出で、入用銀借用を請ひしかば、九年二月一口以上を持ちしもの

は百五十石積、半口以上持ちしものには百石積、三步以下のものには八十石積の船を持たせ、其銀子を貸與することを許し、十ヶ年に本銀を返済せしむべき旨命せられたり。此時今津甚右衛門に銀五貫匁を貸與されたり、彼も口數を持ちし一人なり。

寛政八年二月湖上荷物延着の爲め荷主商先甚迷惑するを以て大津問屋東江州油商人等、熊川問屋、小濱油問屋吹田彌右衛門四十物問屋尾野屋次兵衛及び仲買業者等今津に集合して相議し今津船持中に談し込み、其結果今津問屋中より小濱仲買中、四十物問屋中、爲登荷問屋中へ一札を差し入れたり。其要旨は江州船持中に懇談して積荷の運漕を敏速ならしむること、穀物肥料油樽其外何なりとも到着五日限りに船積し駄數相當舟積次第出帆すべき事、敦賀其他諸浦よりの荷物出船の時は之より先着をはかる事、魚荷物の船賃は猥りに増加せざること、油樽は立積に限る事等を約せり。

五十川村岡村日爪村の年貢米は馬原村(岡村の枝郷)より今津船にて大津に納むる例なるを以て享保五年同年貢米を馬原にて積出さんとしたるに、船木船より之を停めしかば大津船改役所に訴へたるに船奉行より先づ今津船に積み残りは堅田船に積み、船木船は馬原より引とらしめたり。六年又船木船は今津船を停めて自船にて積送らんとしたるを以て再び大津に訴へたるに兩船にて半分づゝ積むべき旨を命せられたり。七年に亦三ヶ村より今津に年貢米二百俵積送るべき旨申込しに今津は右の訴訟の落着まで船積を停止されたるを以て答しかば、三ヶ村は大津に訴へたるを以て大津にては又兩村をし

て百俵づゝ積出さしめたり。同年十二月今津船持よりは之を大津に訴へ先規の如く今津の特権を承認せんことを求めたり。

南新保村の鹽屋次郎兵衛は俵物商として若狹地方より米穀を買入れ今津より二町許の處を新保船にて船積するに享保十年まではのりまへと稱して一俵に一合を今津船方に納め、十一年よりは三合を納めたりしが、(今津船方にてはのりまへを酒手と稱せり)元文元年船積を停止し陸送せしめ、三年更に是をも停止したるを以て、次郎兵衛より大津船奉行に訴へたるか、今津船持よりは次郎兵衛勝手の仕方ありて今津船の妨となるなりと其特権を主張したり。同四年七月大津舟奉行鈴木小右衛門裁許して新保村濱にての船積を禁じ、若狹よりの荷物は今津浦にて船積すべく、新保地賣米の船積も今津船になすべく、新保船に積取へからず、又のりまへ酒手は之を停め船賃を定むべし、但し新保よりの地頭米積送りは従來の例に依るべしとなり。

木津にては寶永三年當時の有船九艘を以て定數とし、改造することあるも石積は従來を超過すべからざるものとす。木津問屋株九株も亦此時の定めなるべし。仲間九人の内若し潰家のあるときは仲間持とし、望人ありて譲り受けんとする時は仲間一統の承認を要せり。

大溝にては丸船十二艘脇船六艘、都合十八艘株問屋十二株とす。其株の定まりし年代詳ならず。長濱城普請の時當浦船持漁師へ船三艘命せられ、水主等七十日餘相詰めたりと云ふ。天正十九年朝鮮陣

の時船持漁師へ水主五人命せられ、一人に米二十五石宛賜りし事あり。徳川家康上洛の時大津に詰め關ヶ原陣に北浦に船を出して御用を勤め、其時新庄越前守増田右衛門尉觀音寺より文書を賜ふ。元和五年分部氏就封の時、船持等の由緒を聞き、毎年現米三十石を給して御用を勤めしめたり。其支配積浦は打下、針江、藁園、深溝なり。漁船二艘ありて打下より鴨川までを漁區とせり。又船持等の所持せる田地を船組と稱し、高も定まりて一支村の如き有様にて、庄屋を置き直に貢米を納め居れり。永田に丸船二艘あり問屋もあり、大溝株の外なり。田井村に明和二年船問屋一軒あり。此等は自由の經營なりしなるべし。

各村舟數表

| 村名 | 慶長六年(觀音寺漁舟船之帳ノ分) | | | 享保年間(奥地志略) | | | 諸書散見 |
|-----|------------------|----|-------|--------------------|-------|----|------|
| | 獵舟 | 船 | 其他 | 丸舟 | 船 | 年代 | |
| 打下 | 一艘 | 三艘 | 丸棚無一艘 | 丸舟 九十 | 船 四六艘 | 一 | 一 |
| 大溝 | 一 | 二 | 一 | 丸舟 百一、二百廿、廿一、九十九、七 | 船 五七五 | 一 | 一 |
| 永田 | 一 | 一 | 一 | 丸舟 二百七十 | 船 一二 | 一 | 一 |
| 下小川 | 二 | 二 | 一 | 丸舟 二十 | 船 五七 | 一 | 一 |
| 横江 | 一 | 二 | 一 | 丸舟 百二十 | 船 五八 | 一 | 一 |

第二編 第五章 近古時代 第九節 交通

| | | | | | | | |
|--------|------|------|-----------------|---------------------|--|---------------------|----|
| 知内 | 中庄 | 北新保 | 北仰 | 領家 | 南新保 | 今津 | 木津 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 百六十一 | | | 十 百廿 二百八十 | 百八十八 百七十九 九十七 | 四百 四百廿 三百五十五 三百八十八 三百 二百五十五 二百八十八 二百廿 | 百八十八 百七十九 九十七 | |
| 一 | | | 三 | 二四 | 二九 | 二六 | 二五 |
| 三 | | | 三 | 二四 | | 一七 | 一 |
| 萬延元年 | 明和二年 | 明和四年 | 享保六年 | 寶永九年 | | | |
| 百五十七 | | | | | | | |
| 一 | | | | | | | |
| 田地養 四六 | | | | 田地養 三六 | | | |

九五九

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|-----|--------|--------|-----|--------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 貫川 | 田井 | 針江 | 森 | 深溝 | 藁園 | 太田 | 北船木 | 南船木 | 横江濱 | 川島 | 今在家 | 藤江 | 高島郡誌 |
| | | | | | | | 五六 | 二 | | | | | |
| | | 五 | | (深溝) 六 | | | 三七 | 二六 | 八 | | 二四 | 二五 | |
| | | | | | | | | テシマ | | | | | |
| 五十 | 百七 | 百十五 | 百十五 | 四十 | 五十九 | 七十一 | 二百五十五 | 二百八十八 | 三百五十五 | 三百五十五 | 二百八十八 | 二百五十五 | |
| 五 | 二 | 一 | 三 | 二 | 二六 | 一六 | 四七 | 八三 | | | | | |
| 一〇 | 二 | 一四 | 四 | 一六 | 一四 | 二八 | 一二七 | 三九 | | 七 | 三一 | 九九 | |
| | 明和二年 | | 嘉永六年 | | | 明和二年 | 寶永五年 | | | | | | |
| | 百四十五 | | | | | | | | | | | | |
| | 一 | | | | | | 二三 | | | | | | |
| | | | 田地養 四一 | | | 郡山領分 八 | 運上 田養 六七 | | | | | | |

九五八

| | | | |
|----|-------|----------|-----------|
| 西濱 | 三百 | 寶曆十一年 | 九六〇 |
| | 百五十 | 明和二年 | ??三 |
| | 卅五十四 | 寛政元年 | ??一 |
| 海津 | 三百五十一 | 東町 | 田地養 一九二五六 |
| | 九十九 | 明和二年 | 五 六 |
| | 二百一十三 | 中村町(郡山分) | |
| | 百一十九 | 中小路町 | |
| | 四十五 | 十三路町 | |
| | 十三 | 文久二年 | 一一三 |
| | | 百九十一 | 〇三 |
| | | 百四十一 | 二八 |
| | | 二十八 | 二八 |

肩書ノ數字ハ石數ヲ示

川舟 川舟は石田川に浮べて上海道の運送の用に供したるものなり。延寶貞享の頃一時之を通したることありしが、其後之を企畫したるものなかりしに、天保八年小濱の木綿屋源兵衛は當時彼が取引も擴張し入津船荷も増加したるも、馬借不足の爲め四十物荷等の爲登に差支あり、且つ明年加賀米二萬石許小濱經由今津より爲登となりしかば、小濱今津間の運送を敏捷ならしめんと欲し十月北川に於て延享頃より廢絶したる川船の復興利用を計りて小濱瓜生間通航の許可を得たり。翌年より馬借川船にて熊川までは多分に爲登たりしが、荷物は熊川問屋に滞積して、却て上海道馬借の爲めに貨錢を貪らるゝに至りしかば、十三年九月更に追分村より藪生村に至る一里の間に川船を通行せしめ、熊川より追分村までを人足背持にて持ち運ばせ、又藪生村よりは今津まで同じく人足背持にて持ち運ばせ、

運送の進捗を謀らんとし、右の許可を小濱役所に願ひ出で、許可を得たり。其後川舟の施設と其運漕状態とについては文書記録を得ざるが故に此に記述する能はず。

第十節 災 異

天明の飢饉 徳川時代に於ける凶荒として古老の口碑に存し其慘狀を傳ふるものは天明及び天保の凶荒なり。天明より凡五十年の昔元文三年の洪水は後に午年の荒と稱して其被害多大に田畠の荒廢したるもの多く、後の免相に午年荒とあるは此年を云ふなり。海津高の内成谷山畑菅浦出作の六反畑の荒所となりしも此時なり。此年凶作なりしか、其狀今詳に傳はらず。天明三年諸國凶作物價しきりに騰貴す。四年殊に甚し。乞食近村より海津又は今津等に集り諸民の困窮言語に絶す。おば、草又はオ、ヅチ草を食するもの過半、露草を食するは家毎なり。乞食はさるべき家の門口に坐し、中飯時には敢て去るものなし。山野にては杣人おい、こ等の晝飯を盗みとる山人甚多し。米價平年は銀十匁につき二斗一二升なりしを四年六月中旬には海津にての相場東江州上米九升一合白米小賣百二十二文なり。今其頃の海津相場を擧ぐれば

銀一匁に錢九十三文

米 銀十匁に九升一合

餅米 同斷

| | | | | | |
|----|----|--------|----|-----|----------|
| 大豆 | 一石 | 百 匁 | 小豆 | 一石 | 七十匁乃至八十匁 |
| 大麥 | 一石 | 六十匁 | 小麥 | | 八十五匁 |
| 菜種 | | 百十匁 | 稗 | 四斗入 | 十六匁 |
| 酒 | 一升 | 一匁八分九厘 | | | |

五年秋より六年秋までは物價低落したりしも猶米四斗一升入一俵二十五匁許なり。六年秋又不作にして七年春又米一俵四十六匁となる。三月十六日より雨天にて天候よろしからず米價漸次騰貴し、四月六日大阪正米一石百三十五匁帳合(定期)百二十五匁と聞ゆ。十一日夜四ツ時前大雷雨にて雹降り其目方一匁三分より五匁八分位ありと稱す。當時の海津相場

| | | | | |
|-----|-------|-------|------|-------|
| 米一俵 | 四斗一升入 | 銀四十三匁 | 白米一升 | 百六十六文 |
| 小麥 | 十匁に | 一斗三升 | 大麥 | 同 |
| 大豆 | 同 | 一斗四升 | 酒 | 一升 |
| | | | | 一匁八分 |

されど此時は諸民の困難四年の時の如くならず、乞食も其時に比して少なかりき。

天保の飢饉 天明より約五十年にして天保の大凶あり。酉年の飢饉と稱するは是なり。天保七年は正月より天候常ならず。二月より雨降りつゞき六月土用も甚冷氣にて田畠の作物は稔らず。七月となりて暑き日二日許ありしも七八兩日大雨となり、湖水増水し沿湖各村水込み、文化四年の時よりは猶

一三寸高しと云ふ。八日晝時安曇川上古賀村前川原堤百八間決潰し、新米川原堤も百十二間決潰す。十日海津に於ける水込みの深さは川路彌九郎橋の上九寸、中村町濱屋角倉の中にて六寸三分、中村町中にて一尺五六寸あり。願慶寺門前民家まで浸水す。其後も猶雨止まず、海津今津間の往來は凡て上街道を廻り、西濱村端より印内一里塚までは舟渡しなり。猶西濱村田地は街道より上の田まで水込みとなり、收穫皆無の有様なり。七月二十六日大風今津木津の人家石垣を破壊す。八月十三日夜に入りて又大暴風雨となり、各村の大木を打ち折り、或は根こぎにし、山林にても大木山木の折れ倒れたるもの數しらす。又堤防の決潰多く、前代未聞の大風と稱す。凡て六月より八月下旬までは水退かず、隣家の往來も船通行なり。九月十三日より高山に雪降り、其後消えず、村里にも時々降雪を見、下旬には四方の山々眞白となり、收穫の後れたるは雪中となれり。早稻は五分作、中稻は三分七厘作、晚稻は押並て一分八厘作と稱し、諸作は三分五厘作なりと。

今年の洪水は文化四年のに比するに同年は避難民は益までに歸宅するを得たるも今年は益前より水込にて一入の混雜なりしが、猶又文化度は前後豊作にて米價安かりしに、近年は打續き不作にて又昨年も洪水なりしかば、米價の暴騰も甚し。米價は既に六月下旬より日々騰貴したるが買手のみにて賣手なき有様にて、至て拂底にて、湖東湖西地方に買集めに行くもの多し。七月頃の海津にての直段米一俵五十一二匁白米小賣一升百五十文なり。金銀相場は金一兩銀六十匁六七分銀一匁錢九十六文な

り。八月になりては、大津にて新米一俵一兩にて仕切來れりとか。北新保村邊にて米一俵負ひ來るものあり、値段を尋ねしに、今すり二俵にて金一兩三步二朱の内二百四十文戻りたりと答へたり。それも先日より澤村にて強て頼み置き、今請取り來れるなりとぞ。其頃の相場概略(海津にて)

澤米銀百二十匁より三十匁、地米一俵五十匁餘但し高下不定、白米一升小賣百五十文、大豆一石百匁まで、小麥一石八十五匁位、小豆一石八十匁餘、鹽一俵十五匁小賣一俵金貳朱、綿二十二匁、紙名田庄十八匁位、蠟燭五十匁内外、醬油一匁一分、豆麩十六文

十月十一月になりては、益騰貴し、各村用米にも金錢逼迫して世上騒しき事限なし。十月下旬海津中村町にて町内用米として百俵を購入す、其値段は一俵金一兩銀二匁宛にして、一俵四斗一升入と稱すれども四斗六七合なり。十一月月上旬隣町にても買入たるが、金一兩と銀六匁なりき。金相場は昨年よりは下落して銀六十一匁内外、銀立六貫八九百文なり。(海津相場)其他の物品は

大豆一石銀百十匁より、麥白一石銀百五十匁、小麥一石銀百二十五匁より、小豆一石百三四十匁、蕎麥一石百匁、鹽大俵、島十六匁より

其他木綿油蠟燭紙等諸品總て高値にして、大根一本六文七文なり。但し鹽高値の爲め少しは下値になれり。總ての食物は文化度と比較すれば價格三倍とあり。此頃にては米一俵二十四五匁なりしは夢と思はるゝやうなりしと云ふ。然も米穀は猶騰貴して十二月正月には地米一俵一兩一步となれり。

米價騰貴の結果は諸人の困難言語に絶し、山野には車前草、蒲公英、はこべら、御形、芹、艾、蕪菜又は木芽等を摘み取りつくし、又各堺を争ひ立札を立つるに至り、海津方面の山野に他村より歸にて數人車前草摘みに數日間來りしものあり。海津にては他の各村ほどには窮迫せざりしと雖も、猶路は山野に絶えたり。かゝる有様なれば各村とも乞食するもの多く、朽木谷よりは日毎に二十人三十人づゝ古賀村方面に出て來れり。又富者は貧者に逼らるれども救助すべき米穀を得る能はず。冬十一月より又は八年正月よりは各村とも其村の役人等にて窮民救助として粥の施行をなし、又人別に米を割賦するもありしが、世間一統の事にて餘り大勢なるが故に二月三月となりては毎日施行する能はざるに至り、或は一六日に施行したる村もありたり。海津中村町にては十二月四日より大晦日まで白粥日に一度づゝ一人に米一合の割にて施行せり。

各領主に於てもそれく、救濟の方法を講じたるるべけれども今之を詳にするを得ず。郡山領にては願ひ出でし救助米夫食米は之を給與し、夫米は赦免せり。加賀領にては七年九月下旬三村用米を願ひ出でしに聞濟となり、敦賀廻船にて手當のはずなりしに、既に冬海となりて航海危険となりしかば大津或は湖東にて買集むることとなり、十一月下旬今津代官其他の吏員大津に出張して二百俵餘を買入たるも、右は今津の用米に宛て、海津中村町へは代銀にて下し、村々にて買附けるべく命せられたり。又用救米貸米を願ひしに聞濟となり、中村町に對する分二十二石餘下附されたり。

大溝藩にては天保八年下弘部村に對し三度救助米を給し、極難澁人へは一日に一合づゝ五十日間救與され、又中以上の者より作方飯米を願ひ出でしかば五十俵貸與され、作り高に應じ割渡したり。其他の各村も同じかるべし。又九年も凶作なりしを以て此時も救助ありしは勿論なり。今其詳細を知るを得ず。

災異年表

本郡は地勢の關係上水害を被るこゝ多し、從て古來災異絶えざりしなるべし。雖も、記録の存するもの稀にして時代の去るこゝ遠きは詳にすべからず。今僅に知り得たるもの寛文以後を此に収録す。

寛文二年五月朔日、大地震。大溝分部氏の家中倒潰し僅に五戸残り、町屋は三百軒ほどの内二十軒残り。領内の民家は千二十餘軒倒潰せり。死者男女二十人、馬五匹斃死す。志賀高島兩郡の内小野惣左衛門代官所の高一萬四千八百石のところ田畑八十五町餘より込み、在家千五百七十軒倒潰せり、本郡の分詳ならず。湖北田地もより込みて低下し、河川の流れ緩くなれり。朽木谷の奥葛川谷の町居は東の山崩壞して民家埋没し村民悉く死し、崩坂も民家ありしが此時埋没したるなりと傳ふ。此地震源地なりしなり。從て朽木谷の慘害も甚しかるべしと雖も今詳にし難し。

同 九年六月十二日より二十二日迄大雨、大溝領二萬石の内一萬二千石水損と傳ふ。其餘の分詳ならず。

延寶五年九月洪水、堤防破壞し、又大風。

同 八年洪水。

同 九年洪水。

元祿十四年八月洪水。

寶永元年八月洪水山崩あり。

同 四年十月四日大地震、但寛文の時の十分一許なり。

同 五年六月大雨洪水、安曇川鯉尾堤百六間、大堤百二十七間決潰す。湖水定水より増す六尺許、七月二日大風、大溝地方にて潰家百三十軒

内十五軒
勝野町

元文元年大洪水。

同三年六月朔大洪水、山崩あり。熊野山土砂流出し、兩古賀村四十軒潰れ死傷あり。後に午年の荒と稱す。

明和七年五月上旬より雨降らず、八月中旬に及び、田畠旱損多し、湖水一丈餘減す。貫川切戸歩渡り鳥溝より大海まで歩することを得。京都も水枯れ、淀川舟上らす京地米價高値。

安永三年六月二十三日大風、岩劔宮鳥居、毘沙門堂倒る。

天明三年六月十七日暴風雨大波、船舶の破船したるもの多し。

同 年冬、大雪海津にて五尺許、山中村にては棟よりも高し。

同 四年、大水込九月に至りて引く、大凶作。

同 五年傷寒大流行、海津三町にて患者二百人許あり。二月頃までは半ば恢復したるも七月までに百人許死去せり。

同 六年八月三十日大風、朝四ツ時より八ツ時に至る。大木折る。

寛政元年六月十七十八日大洪水、閏六月六日夕大洪水。海津にては兩度とも願慶寺前に及び、西中村町表町、橋より五軒許東までに及ぶ。湖上満水なり世上の沙汰に云ふ元文三年の時よりは三寸五分乃至四寸許低し、同元年辰年と同じと。此時辻川法慶寺は門の口まで舟を着けたり。

同 四年七月二十六日大風、朝六ツ時より夜八ツ時に至る。但前年に比すれば弱しと云ふ。

享和二年六月二十九日洪水、安曇川堤防決潰、太田民家流失十戸、死人七人。

同 年八月六日、二十日、晝すぎより風起り夜中大風、西濱村潰家四五軒半潰十四五軒、今津方面は猶被害多し。又大雨安曇川筋太田村鴨村へ決潰し、決潰堤防百五十間、流失家屋三戸、親子三人死す。

同 年十月二十日夜大地震海津願慶寺堂後庫裡後の石垣崩壊す。

文化四年五月二十三日大洪水、夜半、大溝町山王谷愛宕山の間の峯山崩れあり。土砂流出して大善寺

へ土砂入、方丈庫裡床上三尺乃至五尺あり、本堂は藪の爲めに幸に免れたり。翌日安曇川筋堤防決潰二百間許、太田村に流失家屋四戸死人四五人あり。鴨川筋も野田村上にて決潰し同村浸水、下小川村にても堤防決潰、出鴨村の民一人死す。水嵩は元文三年の時よりは一尺許高しと云。此時は海津西濱方面には流失なし、但し知内川又兵衛堤十九間、蛭口村堤四十間、澤村横堤五十間決潰す。二十六日より又降雨あり六月九日に至る。大溝町に浸水し、被害なきもの一町に僅に二三戸なり。家中町の者は山手又は町方空家へ移り、分部侯も其邸浸水したるを以て、六月十一日清林庵に避難せり。十五日湖水増水五尺七八寸と稱す。十八日西濱海津の民は寶幢院權水寺邊へ小屋を掛け避難するもの多し。

同 九年十二月二十日頃より翌正月に互り大雪、海津平地にて五尺許積る。三四十年來の大雪と稱す。

同 十二年六月二十七日洪水。百瀬川筋堤防一ヶ所、大川筋六ヶ所決潰す。

文政二年六月十二日未刻大地震。海津東濱西濱の内土藏壁落ちしもの二十軒許、寺院の門鐘樓のいざり、人家の廂落ちしもあり。酒波村西林二反許並木十一本共にづれになり、下宮鳥居一尺許位置を變す。今津は土藏の壁落ちざるはなし、曹澤寺大破。大溝は被害最も甚しく、土藏倒れ潰家あり、寺院は本堂門等大破し、家中町屋損せざるなし。

同 三年五月十五日より降雨、六月洪水。

同 八年十二月大雪、海津にて積ること七尺。

同 九年五月二十一日大風油木桐木多く倒る、但民家被害なし。百三十年來の事なりと云。六月三日夜大雷、海津東町に落雷。

同 十三年七月二日地震。

天保七年七月大洪水、沿湖各村皆水込み、八月下旬に至る。八月十三日夜大風雨堤防決潰、山野樹木仆倒、民家の損害多し。

同 八年八月五日洪水。澤川大水にて澤村の堤防二百間餘、知内村堤防百五六十間決潰し、豊熟の田地流失し、知内村床上浸水す。野口村石橋落つ。文化六年の時にも此橋落ち、小松石長四間半のもの一本残りしも此時に折れ落つ。路原國境まで四ヶ所の橋梁の内三ヶ所落つ。寺久保村蛭口村土橋落ち溺死二三人ありと云。今津にても南川出水田地砂入となる。此時の被害は主として北部にあり湖水増水二尺許なり。

同 九年七月五日大雷雨、西濱村印内近傍に落雷。

嘉永元年八月十一日夜風雨、上小川村堤防橋詰より下百間南方六十間許決潰、下小川村床上一尺許浸水、鉤玄寺真迎寺本堂床上に及ぶ。十八川村二軒許土砂入込む。猶萬木川島各村被害多大、殊に朽木谷被害甚しく、市場町中水五尺許あり、流家もあり。

同 三年九月三日、大洪水、安曇川堤防決潰、霜降村の民家床上浸水五六尺に及び、流失したる民家あり、高札場も流失せり。廿一日又洪水。

同 五年八月洪水。

同 六年五月より旱魃、弘部三ヶ村西江寺にて雨乞、畑作不作なれども、田作は豊作なり。

安政二年八月二十日夜大風雨、鴨川出水、二俣川上分れ口にて北へ堤防四十間餘決潰す。田地大溝領分三町餘歩砂入。

同 五年六月二十七日七ツ時より勝野北風湖上一面水煙立ち暮時に大波、海津石垣打越し水裏町に及ぶ、前代未聞と稱す、石垣崩壊大部分なり、西濱村も石垣崩れ潰家一軒あり。

萬延元年五月十日大洪水、十一日朝暴風雨、續て大波起り、海津石垣崩れ、民家土藏大破、中小路町表西町とも浸水し、往來舟を用ふ。西濱は石垣悉く崩壊し濱側の家は大破し、潰家多く、土藏小屋にて流失したるもあり、村民は寺々に避難し、或は山内に掘立を建て引移る。今津殊に甚しく石垣總崩となり潰家あり、土藏小屋の流失あり。加賀藩領下の損害は今津流失三十四軒、大潰九十二軒、半潰二十四軒、土砂入五十二軒、浸水二百六十二軒、海津中村町半潰土砂入家潰倒土藏共十軒、浸水七十軒餘。其他三矢村床上浸水、舟木材材木座の材木流失して川島村近傍に流れ寄る。大溝町中は舟にて往來す。湖上水増すこと七尺餘なり。(海津郡山役所より知内村へ出したる救助米、去年納稅値

段にて米二十四俵半代を救與されたるも、米高値にて十五俵半を買入れ得て下百姓にばかり割賦救與せり。同年十一月救米嘆願す、其額救米七十五俵半拜借米百五十俵、夫米用捨二十俵一斗七升。他各村の分詳ならず。

文久三年十一月大雪、海津にて凡六尺積り、劔熊村にて八尺餘に及ぶ。慶應二年五月十五日洪水、蛭口川山崎の上にて堤防決潰田地高百石許砂入、鴨川安曇川も堤防決潰せり。

同年八月七日大風高波、海津、西濱の石垣崩れ、海津加州本陣を始め民家大破し、土藏流失あり。海津の田畑總て浸水し收穫無し。今津南濱町濱側橋本にて三軒残して其餘は總て潰家となる。川島村阿志都彌神社前松杉の大木倒る、打下村は殊に被害多しと云ふ。

明治元年五月洪水、湖上増水六尺餘、海津にては浸水家屋多く田畑植附なりがたし。今津等は全村浸水して舟にて往來す。霜降村郷藏土臺石半ば水に浸り、正傳寺臺所床上浸水、針江村普門院まで水來り、森村田地三分浸水す。下小川村方面にては二十一日より三日間白蓮山にて祈禱あり、其日より四坪堤に小屋かけ假住居し、二十九日大溝藩より郡奉行代官勘定奉行巡視あり、家毎に米一斗づゝ救與す。五月二十二日より六月二十一日迄一ヶ月間小屋住せり。其後漸次減水したりしが、七月十八日大雨又一尺四寸増水し、其後降雨相續き水嵩も増し、八月十六日霽降十七日晴れたり。

第三篇 郡 治

第一章 皇室關係

御救恤 明治二十九年八月三十日よりの縣内の大洪水は三十餘年來なきところなりと稱せられ、郡内にも河川堤防は缺潰し、家屋は流失し、人畜死傷あり。御救恤として明治天皇皇后兩陛下より滋賀縣下に金七千圓を下賜せらる。其本郡に割當てられたるは五百二十一圓餘なり。更に之を被害の度に應じて各町村に分賦せり。各町村の分賦額左の如し

| | | | |
|-----|--------|-----|---------|
| 海津村 | 四一・七〇一 | 劔熊村 | 〇・五四一 |
| 西庄村 | 一・八八七 | 百瀬村 | 二八・六七四 |
| 川上村 | 三三・六五六 | 今津町 | 八〇・二六六 |
| 三谷村 | 三〇・八〇〇 | 朽木村 | 二・三七二 |
| 廣瀬村 | 一 | 安曇村 | 四七・四八六 |
| 高島村 | 一 | 大溝町 | 二八・二八五 |
| 水尾村 | 二・五二五 | 青柳村 | 九二・一四一 |
| 本庄村 | 九七・〇五二 | 新儀村 | 五二一・六四八 |
| 饗庭村 | 六二・九八一 | 計 | |

御大典の賑恤と奉祝 大正四年十一月十日今上陛下御即位の大禮を京都に行はせられ、同時に全國に御沙汰ありて八十歳以上の老人に木盃及び酒肴料を下賜せられたり。八十歳以上は木杯一個酒肴料五十錢九十歳以上は木杯一個酒肴料一圓百歳以上は木杯一組酒肴料壹圓五拾錢なり。本郡の此恩典に浴したるもの四百十三人、各町村に於けるもの左の如し。

| 村名 | 九十歳以上 | | 計 | 村名 | 九十歳以上 | | 計 |
|-----|-------|------|------|-----|-------|------|------|
| | 百歳未満 | 百歳以上 | | | 百歳未満 | 百歳以上 | |
| 海津村 | 一人 | 一人 | 二人 | 安曇村 | 一人 | 一人 | 二人 |
| 劍熊村 | 一人 | 一人 | 二人 | 高島村 | 一人 | 一人 | 二人 |
| 西庄村 | 一人 | 一人 | 二人 | 大溝町 | 一人 | 一人 | 二人 |
| 百瀬村 | 一人 | 一人 | 二人 | 水尾村 | 五人 | 五人 | 十人 |
| 川上村 | 三人 | 二人 | 五人 | 青柳村 | 一人 | 一人 | 二人 |
| 今津町 | 一人 | 三人 | 四人 | 本庄村 | 一人 | 一人 | 二人 |
| 三谷村 | 一人 | 二人 | 三人 | 新儀村 | 一人 | 一人 | 二人 |
| 朽木村 | 四人 | 一人 | 五人 | 饗庭村 | 一人 | 一人 | 二人 |
| 廣瀬村 | 二人 | 二人 | 四人 | 計 | 二人 | 二人 | 四人 |
| 計 | 十八人 | 十八人 | 三十六人 | 計 | 十四人 | 十四人 | 二十八人 |

○百歳以上のもの本郡内になかりき。

千載一遇の御大典奉祝の誠意を表すべく、郡より高島硯を獻納せり。高島硯は往古より齋田點定の際に使用あらせられし古例なりとの事なりしかば、町村長會の決議を経て、其議を決し、虎斑石の良

石材を以て安曇村大字三尾里土井惣左衛門をして謹製せしめ、形式は縣工業試験場技手森井利喜の考案に基き、大正四年十一月一日製作を了し、十五日縣廳を経て獻納せり。

十一月十二日饗庭野に御大典奉祝大會を舉行し、運動會演武會を催す。運動會は郡内二十一校尋常五年以上の兒童二千三百九十六名職員百七十二名參加し、演武會は在郷軍人之人に參加し、競技回数九十餘組なり。別に競馬會を催せり。參加頭數六十頭なり。大會經費五百二十四圓、内郡より三十圓、各町村より百七十圓を支出し、殘餘は郡尙武會にて負擔せり。翌十二日又消防組は消防大演習を饗庭野に舉行せり。參加組員一千六百九十五名なり。

縣より御大典を記念し、子孫に傳へて聖代の德澤に浴せしむる爲め、神社寺院學校縣民一般に櫛、公孫樹、樟を交付せり。郡にても同一趣旨に基き杉、扁柏、櫟、落葉松、栗等を各町村へ無償配付せり。其數は縣より交付したる苗數神社百九十九個所三百六十五本、寺院二百七十二箇所四百四本、學校四十箇所五十六本、一般郡民八千七百二十六箇所九千二百十本、合計九千九百三十五本なり。郡より交付したる苗數杉四百二十七本、扁柏千十五本、櫟六十八本、落葉松三百九十七本、栗百九十九本、計二千百六本なり。

牧草は牧畜に必要なのみならず、一方窒素肥料として其效力の豊富なるにも拘らず、本郡には其栽培比較的僅少なるを以て、郡農會にては御大典記念の爲め其試作を奨勵し、北海道札幌殖産園より

種子を購入して希望町村に配布したり。

明治三十二年以來郡又は町村、町村農會主催の下に農蠶林畜産業の講習を受けしもの少なからざるも、之を實地に應用せざるに於ては其講習も徒勞に屬するを以て、三十四年高島郡農績會を組織し、此等の講習會員を義務會員とし、本郡斯業の改良發達を計るを目的とし、各農會と氣脈を通じ、時勢に後れざらんことを努めつゝありしが、其會員は約千名に垂とする折柄、御大典舉行ありしを以て、奉祝記念として十二月十四日今津尋常高等小學校に第一回稻立毛品評會、蠶兒飼育競技會を開催し、同時に第二回桑園共進會をも開催せり。

高島郡教育會は十二月十四五兩日今津尋常高等小學校に於て郡教育品展覽會を開催し、奉祝記念と共に兒童が學藝の奨勵を促がし、十五日篤行者表彰式を舉行し、木杯を授與せり。是は近來人情風俗の頽廢して慨嘆に堪へざるものあるを以て、或は孝悌に於て或は節義に於て、又は勤儉公益等に於て各志操堅實にして社會の儀表として推稱するに足るもの十七名を表彰して、大禮記念として世に紹介すると共に、風教の作興に資せんことを期せるなり。其人名は左の如し。

- 田中 すする 明治八年二月二日生、海津村大字海津田中捨次郎妻
- 澤田 まさ 明治三十年一月生、釧熊村大字小荒路
- 黒川 藤松 明治二年八月二十三日生、西庄村大字寺久保

- 曾根源 治郎 明治十三年三月二十一日生、百瀬村大字澤
- 松本 いな 弘化四年六月十五日生、川上村大字桂松本喜久男母
- 中川 寅吉 慶應二年二月二十日生、今津町大字今津
- 杉生 富尾 弘化元年十一月十一日生、三谷村大字天増川杉生諸淨妻
- 藤野 なか 明治二十三年九月二十六日生、朽木村大字村井藤野五兵衛三女
- 松宮 重盛 明治二十一年九月二十一日生、廣瀬村大字長尾
- 吉田 むめ 文久元年二月十五日生、安曇村大字常磐木吉田宇市妻
- 林勝 太郎 明治二十八年十二月二十六日生、水尾村大字鴨
- 小谷 新八 弘化三年六月三日生、高島村大字高島
- 早藤 鹿藏 元治元年七月二日生、大溝町大字勝野
- 霜降 しま 明治六年十二月二十日生、青柳村大字青柳
- 澤井 さわ 明治十八年三月十八日生、本庄村大字横江濱澤井米次郎妻
- 平井 しけ 文久元年十一月二十日生、新儀村大字新庄平井彌藏母
- 清水 莊五郎 天保五年五月八日生、饗庭村大字饗庭

教育會は猶教育功勞者として川上村橋本豊橋、廣瀬村澤清一、水尾村故林泰造を表彰せり。

各寺院僧侶の事業として高島郡慈惠團を組織せり。目的は免囚保護の機關たらしむるにあり。四月八日本團規則及各町村支部準則を決定し、十一月八日評議員會を開きて歳入出豫算を議定し、初めて本機關の開始を見たり。

牛馬商組合は十一月十二日今津町陸軍廠舎第二號地に於て牛馬品評會を開催す。出品頭數牛二百五十頭、馬百八十頭。織物同業組合は安曇村大字西萬木に敷地を定めて事務所を新築し、十月二十二日に高島織物販賣購買組合を組織せり。

郡林造成は地を今津町大字梅原字荒谷にトし御大典記念林として百町歩の造林計畫を立て、三年度より十ヶ年間の繼續事業として毎年十町歩宛造林すべきことを、大正三年の郡會に於て可決し、三年度に於て面積十町歩に扁柏三萬四千八百本、杉四千六百本、落葉松六百本、計四萬本を植栽し、縣より本造林に對し、植樹獎勵金百九圓を下附せられ、四年に於て同面積に扁柏二萬七千二百本、杉六百本、落葉松一萬二千二百本計四萬本を植栽し、縣より植樹獎勵金百十六圓餘を下附せられ、五年度に於て同面積に扁柏二萬五千本、杉五千本、落葉松一萬本、計四萬本を植栽せり。元來此地は地元部落の入會山にして荒廢に傾きし地域なるが、遠からず鬱蒼たる一大森林と化すべし。

各町村、及び神社寺院各町村の團體、各學校、神職會支部等にも各記念事業を施行せり。町村及び團體にては造林多く、又組合を組織し神田を設置し、文庫、倉庫等を建設したるもあり。學校としては

學林を開き、記念樹を植栽し、貯金組合を設け、講話會、運動會を開催せり。

御使差遣 大正十一年十一月三日皇后陛下には伊勢神宮及び桃山御陵御參拜の爲め御西下遊ばされたり。此時本縣に行啓になり、十一月十二日御使を縣社藤樹神社に御差遣ありて奉幣あらせらる。

御成婚記念奉祝 大正十三年六月二日皇太子殿下は久邇宮良子女王殿下と御成婚あらせられしかば其日我郡にても奉祝の爲め、結婚後五十年以上を經過したる百十七組の夫妻に對し、高島郡佛敎護國團及び愛國婦人會滋賀支部高島郡幹事部より木盃一個づゝを贈呈し、各町村にては其村内の高齡者を一堂に會して敬老會を催したるころもあり。別に記念樹記念貯金等の事業を記念として行ひしもあり。

第二章 神社及宗教

神威隊 徳川時代に於て本郡の神官は皆京都吉田家(當時神祇道本所吉田殿大取締所と稱す)の支配に屬し、其神道を奉じ、同家より官職名を受領せり。明治元年正月十七日吉田家より急使を以て郡内神職の上京を促し來れり。此時維新の業正に成りたるを以て、吉田家にては近國近江又は河攝諸國の配下たる神職人數五十人許を上京せしめて勤王の實を擧げんと欲したるを以てなり。十七日夜其書狀弘川村の田谷淡路方に達したるを以て、翌日淡路は之を南方は大久保河内^{今津}松田土佐^{波爾}中村伊豫^{五十城}

戸對馬^{井ノ}平井阿波守^{賀上古}伊藤豊後^{馬場}神尾大内藏^{大等}、北方は萩野薩摩守^{北松本隼人}桂降宮但馬守^{酒波}森田豊前守^{深清水}藤田越後守^{庄中峯}森山城^森小林筑前^{口蛭}浦丹後守^浦藤田和泉守^{津海}等に通告せり。彼等が衆議の結果は一兩人を上京せしめて状況を偵察せしむるに決し、松本森田の兩人を入洛せしめしが、彼等より先んじて既に入京したるもの二百人許あり、皆訓練中にてありしかば、兩人より郡内の神職も入洛すべき旨を報じ來れり。此時既に、入京したる社人を以て神威隊を組織し、加藤能登守が指揮の下に二月五日頃より内侍所の守衛に當れり。其入京したる社人は近畿のみならず、遠く信濃、三河等の者もあり。仍て郡内の神官等も入京したるが、其人數は降宮、萩野は陣笠、陣羽織、着込等を用意して入京し、^詳日不尋て十九日に峰森山城、小林筑前、二十日に平井阿波、二十二日に田谷遠江、藤田越後、二十四日に松田土佐守等なり。高島郡の社人は神威隊第二番隊に屬せり。かくして遠國の神職等漸次上洛したるを以て、近國の分は一先づ歸村せしむることとなり、田谷遠江守は三月六日に歸村せり。其他のものも歸村したるが其日は詳ならず、此前後なるべし。

廢佛毀釋 かくて朝廷より神社の權現又は天王と稱するを止め、佛具を用ふるを禁せられたるを以て、三月十七日蘭生村の熊野社、上弘部村の白山社は社殿の佛像を撤却せり。熊野社の阿彌陀如來は假に長福寺の本尊の側に安置せり。四月、風聞あり、社人は神祇官附屬を命せられ、吉田家の配下を離され、又大津に裁判所を置かれて神社も其支配を受くべしとの事なりしかば、十一日田谷遠江、松

田土佐の二人は太政官、大津裁判所、吉田家の情況偵察の爲め入京せり。是より先き神威隊は四十七人一隊として四月一日坂本の日枝社に下り、同社改革と稱して佛具經文を取出して焼却せり。偶佛像を擁して逃るゝ者あれば捕へて打擲し、又器具の佛語あるものは悉く之を焼却し、奉仕の法體の者は還俗せしめたり。而して神威隊のものは此舉に出で、千有餘年の積念をはらし得たりとて快哉を叫べり。田谷等は入京して此事を聞き兼ねて佛徒の跋扈を憤り居りしかば「我等上京早くば右人數之内に可加者を、當國乍在、加はらざるは實に心残り、此延曆寺傳教坊主、續て後之僧侶共當國之神社を穢せし事夥敷、依而今度之取除方最々喜悅」と稱したり。神威隊は神職は神祇官附屬となりし爲め、吉田家より兵糧を出さざる事となりしかば、自然に解散したりしが、猶同隊の三河の神主三宅肥後守等は竹生島多賀諸社をも同様に破毀せんと欲し、田谷等の近郡なるを以て加勢を勧めたるが、田谷等は十六日に京を出立し、大津に立ち寄り、十七日日枝社の祭禮を拜し排佛の跡を見て十八日に歸郡せり。田谷等は三宅の勸には應せざりしかども、郡内にては此舉に出でんと欲し、此日本津村波爾布神社の松田方に松田、田谷、浦、峰森の四人相會し、第一に波爾布神社の經文取除けの相談を爲し、十九日同社より始めて數社に及べり。彼等の装は鎗長刀等を持ち、陣羽織やうのものを着し、手鎗の石突にて佛像を突刺し、足にて刎ね、經文を引さきなど至て狼藉なりしと云ふ。二十日中ノ庄村にては神主藤田越後方に至り、其支配の大日堂本尊を取出し、庄屋年寄に對し、大津裁判所の令にて神社にある佛語

の類は悉く取除くにつき、此本尊も打碎くか焼捨るかする旨を告げしかば、庄屋年寄は暫時の猶豫を求めて村民に謀る爲めに立ち去りし間に彼等は之を焼却し猶一の建物までも焼きしかば、村民も大に驚き海津役所へ訴へ出でたり。海津天神社にては神主不在なりしかど、留守の者の辯明にて漸く引きとりたりと云ふ。白髭社司高橋伊織は今津大久保河内と相談にて田谷及び浦の二人を大津裁判所に訴へ出でしかば、閏四月四日兩人を招喚せり。六日二人出津、白髭社司の報告は誇大に失したる旨を辯明したり。其結果今詳ならず。波爾布社以下破却焼棄したるものは、田谷淡路の記する所によれば左の如し。而して海津天満宮にも破却すべきもの數點ありしが、由緒書に寶物などあり、上意を待つ爲め其厄を免れたり。

波爾布社。若狭道北國道之處境内にて(四月十九日)午刻過焼却

一大般若經 百卷 二箱 板本

一蓮糸曼陀羅 一幅 大サ六尺ニ三尺 小金襦袢具

道實(眞)公之御眞筆と傳承す 一時之灰と爲し往來之貴賤驚愕す。

波爾布神社取除之品 辰刻頃

一大般若經 三十卷 三筆にて有之至て名筆

一佛書 百枚許

右神輿會於東方取除 當職松田土佐守浦氏峯森氏

津野神社取除之品 未半刻

一南無津野大明神額 一面 裏に寛文十三年九月吉日

一十八神道之書 二部

一稻荷社棟札 一枚其文奉觀請倉稻魂神庄園繁昌五穀成就、横に吐普加身依身多女莫言信尊利根陀見、裏に于時延享三丙寅十一月十八日祠官荻野大炊謹書

右假會於南方取除 當職荻野薩摩守、松田守賢、浦忠連、峯森信卿、田谷永福

日置神社取除之品 申刻

一南無若岩劍大菩薩額 一面 裏に年號北仰と同

一辨才天畫 一幅

一蛇體人面木像 一ツ ビイドロ之玉入

一十八神道行事臺 一ツ

右拜殿於東方取除 當職降宮但馬荻野光和、浦忠連、峰森信卿、田谷永福、松田守賢

桂村神明宮穢物無之

深清水山王十禪師 梵鐘一つ有之當職森田豊前守急速取除被申候様申候

中ノ庄村 山王十禪師取除之品 二十日巳刻

一大乘妙典 一部少々不足に相成桐箱に入神前に有之裏に沙門敬白

一山王宮額 一枚高さ三尺幅一尺五寸裏に文久之年號

一縮緬纏 一ツ

一珠數入行者 一體大さ三寸末社稻荷社中に入有

一大日堂佛像 高さ三尺蓮臺共、裏に信濃國善光寺住僧生信長辨生年三十四歲曆應三年五月十五日と有

一鰐口 一つ徑八寸目形二貫五百目程、銘曰大日如來寶殿前諸願成就御也於江州高島中之庄村于時寛永六年己巳三月五日奉寄進

願主敬白佐久間日向守小原作左衛門有

一神輿戸張少々穢文字有之其儘寄進主姓名有之、于時明曆丁酉春三月吉日小原左近右衛門久勝敬白、同作左衛門政信敬白と有

島井前に於取除 當職藤田越後、永福、守賢、忠連、光和、信卿、降宮正直

大處神社取除之品 午半刻

一大般若經 六百卷桐箱に入

右島居内土橋の於東百卷餘り取除候處晴天に付村民來り火難を恐れ悉く水掛消候夫故峰森家之軒端に埋候、當職峰森山城、信

卿、忠連、光和、永福、正直等也日入頃退去

蛭口村若宮八幡宮

一島井前に石地藏數多有之村民等御上意を守り取除候

大荒彦神社

一法華經 八卷 金泥紺紙桐箱に入村民所望により遣す于今有管神眞筆と云

一境内に三六堂 三間五間位村民取除

神社 明治元年三月神佛の混淆を禁じ、佛像を以て神社に崇祀するを停められしより、權現山王の稱を廢して神社と改めたり。此時又式内の神名に復舊したるものあり。四年五月神社の社格を定められしかば各縣にては郷社又は村社を指定せり。村社は一村今のの氏子あるものとせしかば、一村にて數社を祀りしものは其内の一所を選定して氏神と定めたり。滋賀縣になりて從來の社格を廢し、九年十月一村に一社の村社を指定せり。今の村社の社格は皆此時に定められしものなり。但今津住吉神社は十四年六月の指定なり同時に指定せられし郷社は浦村の大荒比古鞆結神社、酒波村の日置神社、饗庭村の波爾布神社とす。

十四年二月一日海津天神社、森西大處神社、北仰津野神社、弘川阿志都彌天滿宮を、十五年九月十五日拜戸水尾神社、十六年十月十一日安井川大荒比古神社、大正七年六月八日勝野日吉神社を並に郷社に列せられたり。大正四年十月三十日水尾神社を縣社に昇格し、十一年五月四日新設の藤樹神社を同じく縣社に列せられたり。

明治九年四月勝野村に小教院神道事務支局を置く。其事業と廢絶とは今詳ならず。

明治三十九年四月三十日府縣社以下神社の神饌幣帛料供進の件公布せらる。此によりて其神饌幣帛料を供進し得る神社と指定せられしものは

明治四十一年四月二十九日指定

饗庭村饗庭 波爾布神社(郷社)

百瀬村知内 唐崎神社(村社)

安曇村常磐木 三重生神社(村社)

大溝町勝野權田 日吉神社(村社)

同四十三年三月三日指定

西庄村蛭口 日枝神社(村社)

同年九月二十四日指定

高島村拜戸

水尾神社(郷社)

同四十四年三月二十五日指定

饗庭村針江

日吉神社(村社)

同四十五年三月三十日指定

百瀬村森西

大處神社(郷社)

大正二年四月九日指定

高島村畑

八幡神社(村社)

同四年四月七日指定

海津村海津

天神社(郷社)

安曇村三尾里

箕島神社(村社)

同四年十一月三日指定

高島村拜戸

水尾神社(縣社)

安曇村常磐木

田中神社(村社)

水尾村武曾横山

若宮神社(村社)

饗庭村饗庭

若宮八幡社(村社)

同四年十一月六日指定

劍熊村浦

大荒比古 神 社 (郷社)

同五年十一月十一日

大溝町永田

長田神社(村社)

饗庭村深溝

日吉二宮神社(村社)

同六年十一月七日指定

青柳村青柳

日吉神社(村社)

同八年三月二十九日指定

大溝町勝野

日吉神社(郷社)

大正十一年五月四日

青柳村上小川

藤樹神社(縣社)

神社の廢合は明治九年十一月太田村^{新儀}にて村中諸般の大改革を行ふなりと稱して神社の小なるもの佛堂等を廢合したりしが、此事は太田村のみにして他の各村にてはかゝる事なかりしなり。明治三十九年八月十日神社寺院佛堂合併地の讓與に關する件を公布せらる。この勅令^{第二百二十號}に基き本郡内にて行はれし併合は左表の如し。

神社併合表

| 町村名 | 現在社名 | 併合許可年月日 | 併合社名 |
|-----|------------|-------------|---------------|
| 町村名 | 現在社名 | 併合許可年月日 | 併合社名 |
| 劍熊 | 大荒比古 | 大正元年九月廿六日 | 無格社比咩神社(大字山中) |
| 西庄 | (八幡、境内社) | 同 六年八月廿九日 | 同 山末神社(大字石庭) |
| 百瀬 | 春日 | 明治四十五年三月四日 | 同 庚申社(大字辻) |
| 同 | (日枝、境内社) | 大正二年十月七日 | 境内社天満神社 |
| 同 | 天満房前 | 同 | 境内社天満神社 |
| 同 | (阿志都彌、境内社) | 明治四十三年四月十二日 | 同 春彦神社 |
| 同 | 稻荷 | 同 | 無格社紅梅社 |
| 同 | 小海 | 大正元年十一月八日 | 同 大濱神社 |
| 同 | 日吉 | 同 三年三月十八日 | 境内社八幡神社 |
| 安曇 | (田中、境内社) | 同 三年七月廿四日 | 無格社三尾神社(大字田中) |
| 同 | 三尾、佐賀 | 同 二年五月九日 | 同 結神社(大字三尾) |
| 同 | (箕島、境内社) | 同 | 同 八幡神社 |
| 水尾 | (水尾、境内社) | 明治四十四年二月十四日 | 同 秋葉神社(大字拜月) |
| 同 | 八幡 | 同 | 同 神明社 |
| 高島 | 松尾 | 同四十四年七月十日 | 境内社熊野神社 |
| 同 | (長田、境内社) | 大正五年四月廿八日 | 境内社大國主神社 |
| 同 | 天照大神 | 同 八年三月十四日 | 同 猿田彦神社 |
| 同 | 日吉 | 同 | 無格社日吉神社(大字勝野) |

郡内神社表

(大正十一年末現在)

| 町村名 | 現在社名 | 併合許可年月日 | 併合社名 |
|-----|------------|--------------|-------------------|
| 水尾 | 日吉 | 同 八年七月七日 | 同 御靈神社、神明社 |
| 青柳 | 日吉 | 同 七年十月十日 | 無格社日吉神社 |
| 本庄 | (日吉、境内社) | 明治四十四年十月四日 | 同 愛染神社 |
| 同 | 日吉三宮 | 同 | 境内社天神社 |
| 饗庭 | 大國主 | 同 四十三年五月廿七日 | 無格社大神宮(大字饗庭) |
| 同 | 若宮八幡 | 同 四十二年三月八日 | 同 愛宕神社(同) |
| 同 | (若宮八幡、境内社) | 同 | 境内社惠美子神社 |
| 同 | 鹽竈 | 同 日 | 無格社佐太神社、障神社(大字饗庭) |
| 同 | 健速 | 同 四十二年十二月廿五日 | 無格社鹽竈神社(大字饗庭) |
| 同 | 日吉二宮 | 大正五年十一月一日 | 同 大國主神社(大字饗庭) |
| 同 | 同 | 同 | 境内社行座神社 |

第三編 第二章 神社及宗教

| 町村名 | 縣社 | 郷社 | 村社 | 無格社 | 計 |
|-----|----|----|----|-----|---|
| 海津 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 西庄 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |
| 川上 | 1 | 2 | 5 | 1 | 9 |
| 三谷 | 1 | 1 | 5 | 1 | 8 |
| 廣瀬 | 1 | 1 | 4 | 1 | 7 |
| 高島 | 1 | 1 | 4 | 1 | 7 |

| | | | | | | | | | | |
|----------|---|---|----|----|----|---|---|----|----|-----|
| 水尾 | 一 | 五 | 六 | 一一 | 青柳 | 一 | 十 | 四 | 五 | 九 |
| 本庄 | 一 | 六 | 四 | 一〇 | 新儀 | 一 | 一 | 二 | 五 | 八 |
| 饗庭 | 一 | 六 | 六 | 一三 | 計 | 二 | 九 | 九〇 | 九三 | 一九三 |
| 神饗幣帛供進神社 | 二 | 五 | 一三 | 一 | 二〇 | | | | | |

神道教會 金光教は明治二十二年頃より郡民の中之を信するものあり。二十三年六月二十一日に大溝町に教會所を置く。現今教徒二百名信徒四百名あり。九里半街道以南の各村落及び滋賀郡小松木戸葛川の各村に亘りて信者あり。毎月九日二十一日を説教日と定め、婦人太明會、青年會等を設けて宣教に務む。

天理教は明治三十二年古谷勘六川上村大字日置前に宣教所を開く。毎月月並祭を行ひ、新儀劔熊兩村に宣傳す。信者百五十許あり。大正八年四月大溝町にも宣教所を置く。毎月教會にて祭典説教あり信者凡百名。

大溝金光教會所 大溝町大字勝野西町に在り。明治二十三年六月二十一日の創立にして、二十四年布教開始、二十七年二月八日神道金光教會大溝支所設置許可あり。三十二年獨立教會となりて金光教大溝教會所と改稱す。

大溝天理教會伊香立宣教所 大溝町大字勝野南本町に在り。大正八年四月創設。
天理教今津地方宣教所 明治三十二年川上村大字日置前に置き、尋て饗庭村大字饗庭木津に移し、

大正八年五月八日今津町辻川に移す。

寺院 明治二年二月十四日、從來神社寺院は京都寺社奉行の支配に屬したりしを、今後大津裁判所民事局社寺方の支配とす。是より先き元年三月神佛の混淆を禁せられたるを以て、廢佛毀釋の説起り徒に寺院の廢合を圖るありて、人心穩かならず。三年には富山藩にて廢合行はれたる爲め一層の動搖を來たせり。當時太政官より東本願寺の訴願に答へし所は無檀無祿の寺院の廢合を許したるまでなれば、其主旨を誤るべからざる旨を以し、又富山藩に對して、戒飭したるを以て、四年五月東本願寺は門末に諭告して排佛毀釋の朝廷の本意にあらざる旨を諭し、人心をして安定せしめたり。是單に眞宗に於てのみならず、餘宗にても其動搖したるは同じことなりき。

明治四年二月社寺に除地の奉還を命せられたり。是神社寺院の維持に對して一大脅迫なり。五十年一月諸寺院中總本寺本山を除き、無住の向は廢止すべき旨布告せらる。此後郡内の寺院にて廢合したるものあり。多くは曹洞宗の寺院なり。其併合は十一年頃までに行はれたるが、單に名稱の併合に止まりしもありて、廢寺としたるものうちには今に其堂宇の存するものあり。

三浦講は眞宗大谷派の寺院を以て組織す。三浦とは大浦、海津、今津を云ふ。本願寺直末の寺院を以て組織したるものにて其數十五ヶ寺なり。(當時の下寺たりしもの、明治になりて直末となれり。此分は講中たるを得ざりしなり。)其十五ヶ寺は

願慶寺 西榮寺 蓮光寺 誓行寺 正通寺 長法寺
 東漸寺 長順寺 明意寺 淨立寺 法慶寺 西福寺
 明嚴寺 正願寺(大浦) 覺傳寺(黒山)

とす。講は元三浦組と稱す。濫觴は蓮如時代にあり、天文十三年證如の畫像を安置して法義を相續せり。大阪陣の時には組中として之に赴き大阪城に籠城して、講中の手にて織田氏の將酒井右近を討取りたりし事あり。教如より、三浦組衆中へ書を賜ひ、又下間證念よりも城中の事情を報じ來れり。當時組中寺院は二十一ヶ寺なりき。慶長年間三ヶ寺西派に止まり、其後榮敬寺、本正寺(大浦)の二ヶ寺は分離し、寛文の頃は福善寺も猶組中なりしが、其後分離して寛延には右の十五ヶ寺を講中と稱せり。證如は八月十三日の遷化なれば、毎月十三日に法會を修するが故に三浦十三日講と稱したり。一般には三浦講と稱せり。

同じ大谷派の寺院に二十五日講と稱するあり。福善寺等三浦講より分離したる三ヶ寺と海津東西庄の寺院を糾合して組織したる所なり。文政九年に本山表に届出で本山よりは本山相續二十五日講と名けたり。二十五日は蓮如の忌日なる三月二十五日に基きしものにて、同年十二月より法會を執行せり組中は十二ヶ寺にて左の如し。

福善寺 榮敬寺 長光寺 善養寺 榮昭寺 光傳寺

慈專寺 傳正寺 本慶寺 名願寺 願力寺 本照寺(大浦)

本郡に於ける佛教主義の日曜學校は明治四十一年十月本庄村大字四津川正覺寺に少年教會を創設し社會事業の第一歩として教育勅語を基本として、兒童に宗教心の啓培、徳性の涵養を目的として兒童を寺院に集合せしめて訓話したるを嚆矢とす。同教會は大正十年六月津東日曜學校と公稱す。大正二年八月一日高島村大字鹿瀬淨願寺に同寺日曜學校を創設す、是郡内寺院に於ての日曜學校の名ある始とす。翌三年同村正念寺昌泉寺にても之を開き、四年には饗庭村に於て開校し、五年六年の間に於て大溝町の各寺院に於ても之に倣ひ、次て漸次各町村に及べり。左に各町村の状況を擧ぐ。

西庄村、大正十三年四月寺久保、醍醐、蛭口、石庭、牧野、白谷、開田七ヶ所の各寺院に於て創立し、各其大字の兒童を教養す。兒童數の多きは五十餘名に及び、少なきも二十餘名あり。開校は毎月二回とす。

百瀬村、大字澤長法寺にあり。大正十年六月青年法話會創立に際し、少年部として設けしを、十三年三月御成婚記念として分離し澤佛教少年會と稱し、毎月第一日曜日に開く。兒童數約六十餘名。

川上村、濱分日曜學校、三谷日曜學校の二校あり。濱分日曜學校は大字濱分淨立寺に置く、大正十年の創設なり。兒童數約七十名。三谷日曜學校は大字日置前字三谷長谷院に置く。大正十二年の創設なり。兒童數約五十名。共に毎日曜日に開く。

安曇村、村内各寺院聯合にて大正九年三月以來經營し、各寺輪番、毎日曜日に開く。
 高島村大字高島正念寺、大字拜戸昌泉寺の兩校は大正三年の創設なり、児童數正念寺は七十名、昌泉寺は五十名。黒谷佛教日曜學校は大字黒谷慈敬寺に設置す。大正七年六月二十一日の創立なり。同大字の小學兒童全部を收容す。淨願寺日曜學校は鹿瀬の同寺に設置す、大正二年八月一日の創立なり。同大字の小學兒童全部を收容す。巨福兒童教會は大字畑の琳明寺に設置す。大正七年八月一日の創立なり。同大字尋常小學校の兒童全部を收容す。各校とも毎日曜日に開校せり。

大溝町、大正五六年頃各寺院に於て競ひて經營したりしも目下悉く中止せり。

水尾村、大字武曾横山大清寺にて經營するは大正十三年七月の創立なり。毎日曜日に開く。児童數百六十名。大字鴨慈敬寺にて經營するものは大正十一年八月創立、但本校は毎年八月中に限り開く。児童數百五十名。

本庄村、津東日曜學校、大字四津川正覺寺に在り。同寺の經營する所なり。明治四十一年十月少年教會として創立し、大正十年六月津東日曜學校と公稱す。毎日曜日に開く。児童數約三十五名。

新儀村大字太田の三寺共同にて一校を經營す。大正十三年六月の創立なり。毎月一回開校児童數五十名。

饗庭村、各寺院、輪番に日曜日或は祭日に開く。大正四年十一月御大典記念として開校したるなり。

児童數約百四十餘名。以上以外の町村には未だ日曜學校の經營を見ず。

寺院表 (大正十二年末現在)

| 村名 | 天台 | 眞言 | 淨土 | 臨濟 | 曹洞 | 眞宗 | 日蓮 | 計 | 佛堂 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 新儀 | 二 | 一 | 一 | 一 | 二 | 六 | 一 | 一〇 | 三 |
| 本庄 | 四 | 一 | 一 | 一 | 一 | 八 | 一 | 一四 | 二 |
| 青柳 | 四 | 一 | 一 | 一 | 一 | 六 | 一 | 一五 | 三 |
| 水尾 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 一 | 一五 | 四 |
| 大溝 | 五 | 一 | 一 | 二 | 三 | 八 | 一 | 一八 | 三 |
| 高島 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 一 | 一六 | 一 |
| 安曇 | 四 | 一 | 一 | 一 | 七 | 四 | 一 | 一三 | 一 |
| 廣瀬 | 一 | 一 | 一 | 一 | 七 | 四 | 一 | 一三 | 一 |
| 朽木 | 三 | 一 | 一 | 一 | 六 | 一 | 一 | 一三 | 三 |
| 三谷 | 一 | 一 | 一 | 二 | 五 | 三 | 一 | 一〇 | 一 |
| 今津 | 一 | 一 | 一 | 二 | 五 | 五 | 一 | 一三 | 二 |
| 川上 | 一 | 一 | 二 | 一 | 三 | 二 | 一 | 一〇 | 三 |
| 百瀬 | 一 | 一 | 四 | 一 | 六 | 二 | 一 | 一三 | 一 |
| 西庄 | 一 | 一 | 二 | 一 | 五 | 八 | 一 | 一五 | 三 |
| 劍熊 | 一 | 一 | 二 | 一 | 七 | 五 | 一 | 一六 | 一 |
| 海津 | 一 | 一 | 三 | 一 | 一 | 六 | 一 | 一四 | 一 |
| 村名 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|---|-----|----|
| 合 | 計 | 二七 | 二 | 一五 | 七 | 八六 | 九 | 一 | 二四〇 | 四三 |
|---|---|----|---|----|---|----|---|---|-----|----|

基督教 本郡に入りし基督教は日本聖公會、組合基督教會とす。聖公會は明治二十五年牧師永田保次郎が今津町大溝町にて傳道したるを始めとす。四十二年以降は大溝日曜學校と稱して米人マギニス、永田保次郎等毎日曜日に来りて傳道せり。教會として大溝(大字勝野郭内)に置きしは四十三年四月二十七日とす。同教會は大正十三年九月頃に閉鎖せり。組合教會は大正五年十月二日大溝町勝野に設立す。但し定置の牧師なく、年數回京阪神より牧師來りて説教をなすに過ぎず。今に繼續す。同教會に鴻溝日曜學校を置く。大正二年六月八日信者船木廣吉の創設に係る。毎日曜日に開き、兒童數四五十名あり。信者の寄附を以て經營す。

明治四十五年八幡町在住の米國人ヅォーリズ、チエーピン、ソーン兄弟邦人吉田悅藏等近江ミツシヨンを組織し、近江一國に於ける基督教の素人傳道を圖り、湖西に於ける傳道の根據地を求むるが爲めに三月大津より陸路、本郡に來り西近江路を巡視したり。大正四年春夏の間、傳道船ガリラヤ丸(モータボート、噸數九噸、速力八ノット)は毎週一回西近江路沿岸に來航せり。其集合地は勝野、船木崎北畑、太田、深溝、旭、今津、深清水、海津なりとす。同船の今津に寄港したるは六月頃にして天神社前に於て南石福次郎、吉田悅藏二人の説教したるを今津傳道の初めとす。其後同地北濱の民家を借

受けて根據地を定めたりしを、十一年更に今津基督教會館を新築して之に移れり。近江ミツシヨンは何れの教派にも屬せず、其傳道費はヅォーリズ建築事務所、近江セールズ株式會社の寄附に依るものなり。

第三章 戸口

戸口及び土地は國家成立の基本にして既に徳川時代に於て人別改の制あり。維新後戸籍法布かれて戸口の制定まり、其調査も行はれたるが、當時の調査今存在せず。之を詳し得るは明治十三年一月の調査にあり。此時の調査にては一郡の戸口一萬二百四十戸、人數四萬八千四百七十七人とす。内農三千百五十四人、工四百六十二人、商九百四十八人、雜一萬六千九百二十一一人あり。其頃の調査年月不詳に係る舊町村現大字の戸口を擧ぐれば左の如し。

戸口表

| | 人口 | 戸數 | 農 | 工 | 商 | 雜 |
|------------|-------|-----|-----|----|-----|---|
| 海津 | 一、三五五 | 三三七 | 二九五 | 二〇 | 二二 | 一 |
| 西濱 | 六三四 | 一五二 | 一五二 | 一 | 一 | 一 |
| (海津村)計 | 一、九八九 | 四八九 | 四四七 | 二〇 | 二二 | 一 |
| 小荒路 | 四四二 | 一〇四 | 九〇 | 八 | 六 | 一 |
| 第三編 第三章 戸口 | | | | | 九九七 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| 大沼 | (百瀬村)計 | 日置前 | 桂 | 深清水 | 酒波 | 福岡 | 北仰 | 濱分 | (川上村)計 | 今津 | 南新保 | 弘川 | 大供 | 下弘部 | 上弘部 | 蘭生 | 梅原 | 岸脇 | (今津町)計 |
| 二四〇 | 二、二三〇 | 七三九 | 三一八 | 五八三 | 一一五 | 四一四 | 二七七 | 五四五 | 二、九九一 | 一、六八四 | 一九四 | 四四一 | 一六〇 | 二五九 | 二四七 | 二五〇 | 三九五 | 二〇〇 | 三、八三〇 |
| 五四 | 四九四 | 一六二 | 八三 | 一二八 | 四八 | 九八 | 五六 | 一一二 | 六八七 | 三九〇 | 三九 | 九八 | 三三 | 五七 | 五八 | 五〇 | 八〇 | 五三 | 八五八 |
| 五四 | 四九四 | 一六一 | 六九 | 一一五 | 四四 | 七八 | 五五 | 一〇九 | 六三一 | 八二 | 三二 | 九五 | 三〇 | 四八 | 五二 | 四四 | 八〇 | 五三 | 五一六 |
| | | | | 〇 | | | | | 一七 | 一七 | | | 二 | 二 | 一 | 四 | | | 三三 |
| | | | | 〇 | | 〇 | 〇 | 〇 | 八七 | 三六 | 二 | | | 八 | 四 | 二 | | | 一〇三 |
| | | | | | | | | | 二〇四 | 三 | | | | | | | | | 二〇六 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|----|-----|-------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 高島郡誌 | 野口 | 在原 | 浦中 | 山下 | 下中 | (劍熊村)計 | 蛭口 | 寺久保 | 石庭 | 牧野 | 白谷 | 上開田 | 下開田 | (西庄村)計 | 新保 | 森西 | 澤内 | 知内 | 中庄 | |
| 三三三 | 二四〇 | 二三三 | 五一 | 三二五 | 一、六二四 | 五二五 | 二五二 | 二一八 | 二九〇 | 二〇八 | 二四〇 | 一九二 | 一九二 | 一、九二五 | 三二八 | 一四五 | 四八三 | 五五六 | 一四三 | 三三五 |
| 八二 | 五五 | 五六 | 五〇 | 八五 | 四三二 | 一一八 | 六二 | 五〇 | 七〇 | 五二 | 五五 | 三九 | 四四六 | 七一 | 三三 | 一一七 | 一一一 | 二八 | 七〇 | 七〇 |
| 八〇 | 五五 | 四八 | 五〇 | 七七 | 四〇〇 | 一一八 | 五三 | 五〇 | 七〇 | 五〇 | 五二 | 三〇 | 四二三 | 七一 | 三三 | 一一七 | 一一一 | 二八 | 七〇 | 七〇 |
| | | | | 二 | 三 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 二 | 二 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 田中 | (廣瀬村)計 | 南古賀 | 中野 | 長尾 | 上古賀 | 下古賀 | (朽木村)計 | 小川 | 大野 | 村井 | 枋生 | 平良 | 宮前坊 | 岩瀬 | 柏 | 古川 | 古屋 | 中生 | |
| 一、七〇二 | 二、六二〇 | 四一二 | 三三八 | 四二三 | 八六九 | 五七八 | 四、二八四 | 九八 | 一四九 | 二四四 | 二八九 | 七六 | 二七四 | 二六七 | 一五五 | 二〇九 | 一三六 | 一〇一 | 一一九 |
| 三八四 | 五三二 | 八九 | 六三 | 八三 | 一七九 | 一一八 | 八二〇 | 一七 | 二五 | 四四 | 五四 | 一一 | 五五 | 五七 | 三六 | 三八 | 二五 | 二〇 | 二〇 |
| 三八三 | 五一〇 | 八九 | 六三 | 八三 | 一六一 | 一一四 | 八一七 | 一七 | 二五 | 四四 | 五四 | 一一 | 五五 | 五七 | 三六 | 三八 | 二五 | 二〇 | 二〇 |
| | 一〇 | | | 八 | 二 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 三 | | | 〇 | 二 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 三 | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小入谷 | 能家原 | 桑洞谷 | 雲子原 | 地子原 | 麻生 | 荒川 | 野尻 | 市場 | (三谷村)計 | 狭山 | 天增川 | 杉山 | 椋川 | 途谷 | 角川 | 追分 | 北見 | 南見 | 保坂 |
| 六四 | 二〇一 | 九七 | 三〇七 | 二七〇 | 三九一 | 二三〇 | 一〇七 | 五〇〇 | 一、八二二 | 八四 | 二二〇 | 一三一 | 三四三 | 六〇 | 三四六 | 一一九 | 二二八 | 一一四 | 一七七 |
| 一二 | 三六 | 一六 | 五九 | 四三 | 七三 | 四七 | 二三 | 一〇八 | 三八〇 | 一七 | 四六 | 三七 | 六九 | 一三 | 七〇 | 二五 | 四五 | 二一 | 三七 |
| 一二 | 三六 | 一六 | 五九 | 四三 | 七三 | 四七 | 二三 | 一〇五 | 三八〇 | 一七 | 四六 | 三七 | 六九 | 一三 | 七〇 | 二五 | 四五 | 二一 | 三七 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------|--------|--------|-------|-----|-----|-----|
| 針江 | 六二二 | 一二六 | 一一一 | 七 | 八 | |
| 深溝 | 六二六 | 一二六 | 一二六 | 一 | 一 | |
| (饗庭村)計 | 四、二六〇 | 八六五 | 八〇五 | 三五 | 二五 | |
| 總計 | 四七、三三三 | 一〇、三一五 | 九、三二八 | 二二〇 | 四〇二 | 三九七 |

戸口累年の増減は之を對照するの材料を得ざるを以て、此に最近數年の分を擧ぐ。即ち左の如し。

| | | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 大正七年 | 二九、九九六 | 二九、一七七 | 五九、一七五 | 二二、七七八 | 二四、六九七 | 四八、四四五 | 九、八六五 |
| 同十二年 | 三〇、一四七 | 二九、三三二 | 五九、三六八 | 二二、七三六 | 二四、〇四六 | 四七、七六四 | 九、八〇八 |
| 同十四年 | 三〇、二九六 | 二九、三五四 | 五九、六五二 | 二二、七五五 | 二二、九二五 | 四七、六四〇 | 九、七三五 |

左に大正十四年の各町村別戸口表を擧ぐべし。

町村別戸口表 (大正十四年十二月末調)

| 大字名 | 本籍人口 | | 現住人口 | | 世帯數 |
|---------|-------|-------|------|-----|-------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 海津村大字海津 | 八四三 | 七六三 | 五三三 | 五五九 | 一、〇九二 |
| 西濱 | 三六〇 | 三三九 | 二六二 | 二四三 | 五〇五 |
| 計 | 一、二〇三 | 一、一〇二 | 七九五 | 八〇二 | 一、五九七 |
| 劍熊村 | 二七六 | 二六三 | 一九九 | 一八五 | 三六四 |
| 小荒路 | 二七六 | 二六三 | 一九九 | 一八五 | 三六四 |
| 野口 | 二二九 | 二二〇 | 一五六 | 一四四 | 三〇二 |

| | | | | | | |
|-----|-------|-------|-----|-----|-------|-----|
| 在原 | 一四九 | 一二四 | 一三三 | 一三三 | 二四五 | 五六 |
| 山中 | 一六〇 | 一六四 | 一〇五 | 一一八 | 三三三 | 五四 |
| 下浦 | 三二二 | 三三六 | 一六〇 | 一四九 | 三〇九 | 七七 |
| 計 | 一、二九 | 一、二四 | 九三 | 一〇〇 | 一九三 | 四八 |
| 西庄村 | 一六三 | 一六二 | 一三三 | 一三六 | 二七一 | 五七 |
| 蛭口 | 三三五 | 三六一 | 二二九 | 三〇三 | 五四二 | 二四 |
| 石庭 | 一三三 | 一〇八 | 八一 | 六九 | 一五〇 | 三九 |
| 牧野 | 一九一 | 一九一 | 二二七 | 一九九 | 二六六 | 五九 |
| 白谷 | 一九九 | 一〇三 | 一〇四 | 八二 | 一八六 | 四〇 |
| 上開田 | 一三六 | 一四八 | 八八 | 一〇五 | 一九三 | 五〇 |
| 下開田 | 一三〇 | 一四八 | 七六 | 九七 | 一四三 | 三六 |
| 計 | 一、一九六 | 一、一九〇 | 八四八 | 九〇三 | 一、七五一 | 三九六 |
| 百瀬村 | 六四 | 六六 | 三七 | 三七 | 七四 | 一八 |
| 森西 | 七二 | 九一 | 五九 | 七二 | 一二九 | 二六 |
| 澤内 | 二九二 | 二九二 | 二四三 | 二四〇 | 四八三 | 二六 |
| 知内 | 四九 | 三九二 | 三八 | 二七七 | 五九五 | 二九 |
| 新保 | 二五〇 | 二三四 | 一七七 | 一四六 | 三三三 | 七九 |
| 中庄 | 三三五 | 三二〇 | 一七六 | 一五九 | 三三五 | 六六 |
| 大沼 | 一六五 | 一五〇 | 一三〇 | 一二六 | 二四六 | 五三 |

| | | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 西 | 五五五 | 五五五 | 一〇九五 | 四五九 | 四七九 | 九六六 | 一五六 |
| 番 | 九六 | 九六 | 一九四 | 八六 | 八六 | 一七二 | 三四 |
| 常 | 四七一 | 四三三 | 九〇三 | 四一七 | 三九五 | 八二 | 一四三 |
| 計 | 二、六〇四 | 二、五〇一 | 五、一〇五 | 二、二八四 | 二、二五四 | 四、五三六 | 七五五 |
| 高島村 | 三〇〇 | 三三六 | 六五六 | 二二二 | 二六 | 四九三 | 一〇七 |
| 拜 | 二〇二 | 三三三 | 四三三 | 一四 | 一七二 | 三六 | 四 |
| 鹿 | 三三 | 二六 | 二六七 | 一〇八 | 一一 | 三九 | 四八 |
| 黒 | 二五四 | 三三三 | 四八六 | 一五六 | 一五二 | 三〇 | 六 |
| 計 | 一、〇八九 | 一、〇八九 | 三、四〇 | 一三七 | 一三三 | 二六〇 | 五一 |
| 大溝町 | 一、〇〇〇 | 一、〇八四 | 二、一八二 | 七七九 | 八九 | 一、六〇八 | 三三 |
| 永 | 二五九 | 二五 | 五二四 | 八〇 | 九三 | 一、七六三 | 四〇 |
| 音 | 二五三 | 二二七 | 四七九 | 二〇〇 | 二二 | 四三三 | 九〇 |
| 計 | 一、七七一 | 一、七五〇 | 三、四六一 | 一、二〇九 | 一、二八九 | 二、四九八 | 五五二 |
| 水尾村 | 五五七 | 五六一 | 一、一八 | 四五三 | 四五〇 | 九〇三 | 二〇四 |
| 宮 | 一四九 | 一三六 | 二八七 | 一一九 | 一一四 | 二二 | 四六 |
| 野 | 二二九 | 一三三 | 二六一 | 一〇二 | 一一八 | 二二〇 | 四八 |
| 武 | 二八八 | 二七三 | 五六一 | 三三三 | 二二九 | 四四二 | 九九 |
| 横 | 三六六 | 三四九 | 七五 | 二五五 | 二七六 | 五三二 | 二六 |
| 計 | 一、四八九 | 一、四五三 | 二、九四二 | 一、一五 | 一、二七七 | 二、三三六 | 五三 |

| | | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 古 | 七三 | 六七 | 一四〇 | 六 | 六 | 一三七 | 三 |
| 桑 | 四一 | 四三 | 八四 | 四〇 | 四五 | 八五 | 一四 |
| 平 | 七〇 | 三四 | 七 | 三 | 三 | 七 | 一三 |
| 小 | 二〇五 | 一七六 | 三六三 | 一五 | 一四〇 | 一一〇 | 一八 |
| 村 | 一三五 | 一一九 | 二五四 | 一五 | 九八 | 二二 | 七 |
| 大 | 八五 | 八七 | 一七二 | 五 | 六〇 | 二五 | 七 |
| 古 | 一一八 | 二五 | 三三三 | 八五 | 七七 | 一六二 | 三 |
| 柏 | 一一三 | 九四 | 二〇六 | 七三 | 六七 | 一四〇 | 二 |
| 岩 | 一六九 | 一四五 | 三三四 | 一三〇 | 一三七 | 二五七 | 五 |
| 計 | 二、六九〇 | 二、五二六 | 五、二〇六 | 二、一八四 | 二、〇六五 | 四、四九 | 八三七 |
| 廣瀬村 | 三七七 | 三七六 | 七五三 | 二八二 | 三〇五 | 五八七 | 一〇六 |
| 上 | 五〇四 | 五一〇 | 一、〇一四 | 四二二 | 四三二 | 八四三 | 一〇九 |
| 長 | 二二七 | 二二四 | 四五一 | 一九七 | 一九七 | 三九四 | 七 |
| 中 | 一九〇 | 一九五 | 三八五 | 一五二 | 一八〇 | 三三二 | 五 |
| 南 | 二二五 | 一九一 | 四〇六 | 一八三 | 一六三 | 三四六 | 七〇 |
| 計 | 一、五三三 | 一、四八六 | 三、〇〇九 | 一、三三五 | 一、二七六 | 二、五〇一 | 四八一 |
| 安曇村 | 一、一七三 | 一、一三三 | 二、二九六 | 一、〇三九 | 一、〇二二 | 二、〇五二 | 三三二 |
| 三 | 三〇九 | 三〇八 | 六二七 | 二八三 | 二八二 | 五六五 | 八九 |

| | | | | | | | | |
|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 青柳村 | 青柳 | 五七七 | 五三三 | 一、一〇〇 | 四六一 | 四五五 | 九六 | 一七一 |
| 上小川 | 上小川 | 一八五 | 一七三 | 三五八 | 一六五 | 一七一 | 三三六 | 五九 |
| 下小川 | 下小川 | 三四二 | 三三七 | 六五六 | 三〇〇 | 二八〇 | 五八〇 | 一〇六 |
| 横江 | 横江 | 一三〇 | 二二五 | 二五五 | 一一一 | 一一一 | 三三三 | 四一 |
| 計 | 計 | 一、三三三 | 一、二四八 | 二、三六一 | 一、〇三七 | 一、〇一七 | 二、〇五四 | 三七七 |
| 本庄村 | 北船木 | 六〇八 | 五八三 | 一、一九一 | 四五四 | 四八四 | 九六 | 二〇三 |
| 南船木 | 南船木 | 四三四 | 四三〇 | 八五四 | 三三四 | 三四〇 | 六五四 | 二五六 |
| 川島 | 川島 | 三〇五 | 二九五 | 六〇〇 | 三三九 | 二四二 | 四七一 | 一〇七 |
| 横江濱 | 横江濱 | 一七三 | 一六八 | 三四一 | 二二四 | 一四二 | 二六六 | 五三 |
| 四津川 | 四津川 | 五四四 | 五五九 | 一、一〇三 | 四六〇 | 四六二 | 九三 | 一八八 |
| 計 | 計 | 二、〇五四 | 二、〇三五 | 四、〇八九 | 一、五六一 | 一、六七〇 | 三、三五一 | 七〇六 |
| 新儀村 | 安井川 | 四四四 | 四六〇 | 八九四 | 三三九 | 三五四 | 六七三 | 一三四 |
| 新庄 | 新庄 | 五〇七 | 五〇九 | 一、〇一六 | 四〇八 | 四〇八 | 八二六 | 一四三 |
| 北畑 | 北畑 | 一六一 | 一六八 | 三三九 | 一一三 | 一三三 | 二四六 | 五四 |
| 藁園 | 藁園 | 七七六 | 八〇四 | 一、五八〇 | 六〇五 | 六八五 | 一、二九〇 | 二五九 |
| 太田 | 太田 | 五四五 | 五九〇 | 一、一三五 | 四一九 | 四六八 | 八九七 | 一八二 |
| 計 | 計 | 二、四三三 | 二、五三二 | 四、九五四 | 一、六七四 | 二、〇四八 | 三、九三三 | 七七三 |
| 饗庭村 | 饗庭 | 九〇四 | 八二四 | 一、七三六 | 六四〇 | 六三三 | 一、三六三 | 二七〇 |
| 熊野本 | 熊野本 | 三六四 | 三三二 | 六八五 | 二九五 | 二七六 | 五七三 | 一一三 |
| 旭 | 旭 | 四七五 | 四七六 | 九五三 | 三六六 | 二六三 | 七四九 | 一六三 |

| | | | | | | | | |
|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 針江 | 針江 | 三六九 | 三六〇 | 七六九 | 二七〇 | 二八五 | 五五五 | 一四四 |
| 深溝 | 深溝 | 四六三 | 四二〇 | 八九三 | 三五六 | 三六〇 | 七二六 | 一六〇 |
| 計 | 計 | 二、五九五 | 二、四三三 | 五、〇六六 | 一、九三七 | 一、九二六 | 三、八五五 | 八〇〇 |
| 總計 | 總計 | 三〇、二九八 | 二九、三五四 | 五九、六五二 | 二二、七五五 | 二二、九二五 | 四七、六四〇 | 九、七五五 |

國勢調査 從來の戸口調査は世の變遷に伴ひ、社會の複雑となるに従ひ、其調査方法十分ならざるを以て、大正九年十月一日を以て國勢調査を施行せられたり。國勢調査は即ち國家社會の實況を調査し、其國に於ける社會組織の内容と國民生活の實狀とを審にし、善政の基礎を作るが目的にして、之が爲め先づ全國一齊に一人一人に就いて實地の調査を行ひしものなり。此に據て國勢の基本を正確に知り、國政の經營に於て無駄なからんを欲するなり。其本郡に於ける結果は次に表示するが如くなるが、其要點を擧ぐれば、一萬四百五十世帯、四萬八千四百五十二人なり。本郡の面積四十一方里七五なれば一方里に千百六十人を有することゝなる。本縣平均一方里の人口三千三十人に對して千八百七十人少く、其半にも及ばず。本縣各郡の人口密度を見るに五千一人以上野洲郡、四千一人乃至五千人神崎、犬上、坂田三郡、三千一人乃至四千人栗太、蒲生、愛知三郡、二千一人乃至三千人滋賀、東淺井二郡、二千人以下甲賀、伊香、高島三郡とす。其内本郡は最低位にあり。男女の比較は女百人に對し男九十九人強にして男の百人を越ゆる町村は海津、劔熊、三谷、朽木四村なり。新儀村の九十一人強を最少とす。世帯より見る時は五人世帯最多數にして四人世帯、三人世帯、六人世帯之に次ぐ。職

業關係より見る時は農業者第一位にして、工業之に次ぎ、商業、公務自由業者の順位にあり。猶次表
について其詳細を知るべし。

國勢調査表 (第一回)

世帯及人口

| 郡 | 世帯 | 總人數 | | 口數 | | 女百ニ對スル男 | 世帯 | 總人數 | 世帯 | | 平均人員 | 世帯 | 總人數 | 男 | 女 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-----|------|-------|-------|-------|---|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | | | | 男 | 女 | | | | | |
| 郡 | 1,045 | 4,452 | 2,415 | 2,037 | 99.7 | 1,045 | 4,787 | 2,359 | 2,428 | 4.6 | 67 | 5,556 | 2,918 | 2,638 | |
| 海津 | 399 | 1,679 | 843 | 836 | 100.8 | 399 | 1,670 | 835 | 835 | 4.2 | 2 | 9 | 8 | | |
| 劍熊 | 44 | 1,733 | 884 | 849 | 104.5 | 44 | 1,733 | 884 | 849 | 4.1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 西庄 | 43 | 1,826 | 893 | 933 | 95.7 | 43 | 1,826 | 893 | 933 | 4.4 | 1 | 1 | 1 | | |
| 百瀬 | 59 | 2,351 | 1,166 | 1,185 | 98.4 | 59 | 2,348 | 1,163 | 1,185 | 4.4 | 2 | 3 | 3 | | |
| 川上 | 69 | 3,251 | 1,608 | 1,643 | 97.8 | 69 | 3,251 | 1,608 | 1,643 | 4.6 | 1 | 1 | 1 | | |
| 今津 | 95 | 4,330 | 2,164 | 2,166 | 99.9 | 95 | 4,330 | 2,164 | 2,166 | 4.7 | 1 | 3 | 5 | | |
| 三谷 | 35 | 1,718 | 872 | 846 | 103.7 | 35 | 1,715 | 869 | 846 | 4.8 | 1 | 3 | 3 | | |
| 朽木 | 1,007 | 5,017 | 2,766 | 2,251 | 103.7 | 1,007 | 5,017 | 2,766 | 2,251 | 4.7 | 3 | 4,000 | 2,000 | | |
| 廣瀬 | 54 | 2,328 | 1,144 | 1,184 | 97.4 | 54 | 2,328 | 1,144 | 1,184 | 4.2 | 2 | 2 | 2 | | |
| 安曇 | 86 | 4,074 | 1,980 | 2,094 | 94.5 | 86 | 4,074 | 1,980 | 2,094 | 4.7 | 4 | 14 | 14 | | |
| 高島 | 34 | 1,633 | 791 | 842 | 95.0 | 34 | 1,633 | 791 | 842 | 4.7 | 1 | 5 | 9 | | |

| 郡 | 世帯 | 總人數 | 男 | 女 | 世帯 | 總人數 | 男 | 女 |
|----|----|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|
| 大溝 | 57 | 2,559 | 1,255 | 1,304 | 57 | 2,559 | 1,255 | 1,304 |
| 水尾 | 52 | 2,340 | 1,124 | 1,216 | 52 | 2,340 | 1,124 | 1,216 |
| 青柳 | 39 | 1,985 | 987 | 998 | 39 | 1,985 | 987 | 998 |
| 本庄 | 75 | 3,416 | 1,677 | 1,739 | 75 | 3,416 | 1,677 | 1,739 |
| 新儀 | 85 | 4,192 | 2,001 | 2,191 | 85 | 4,192 | 2,001 | 2,191 |
| 饗庭 | 86 | 4,061 | 1,980 | 2,081 | 86 | 4,061 | 1,980 | 2,081 |

| 普通世帯 | 世帯 | 總人數 | 口數 | | 世帯 | 總人數 | 口數 | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | 男 | 女 | | | 男 | 女 |
| 一人世帯 | 1,033 | 4,787 | 2,359 | 2,428 | 1,033 | 4,787 | 2,359 | 2,428 |
| 二人世帯 | 77 | 776 | 422 | 354 | 77 | 776 | 422 | 354 |
| 三人世帯 | 157 | 2,324 | 1,124 | 1,200 | 157 | 2,324 | 1,124 | 1,200 |
| 四人世帯 | 156 | 4,576 | 2,261 | 2,315 | 156 | 4,576 | 2,261 | 2,315 |
| 五人世帯 | 166 | 6,676 | 3,269 | 3,407 | 166 | 6,676 | 3,269 | 3,407 |
| 六人世帯 | 174 | 8,610 | 4,230 | 4,380 | 174 | 8,610 | 4,230 | 4,380 |
| 七人世帯 | 151 | 9,126 | 4,416 | 4,710 | 151 | 9,126 | 4,416 | 4,710 |
| 八人世帯 | 115 | 7,105 | 3,560 | 3,545 | 115 | 7,105 | 3,560 | 3,545 |
| 九人世帯 | 56 | 4,544 | 2,232 | 2,312 | 56 | 4,544 | 2,232 | 2,312 |
| 合宿所 | 37 | 3,544 | 2,232 | 2,312 | 37 | 3,544 | 2,232 | 2,312 |
| 旅店下宿屋 | 2 | 3,544 | 2,232 | 2,312 | 2 | 3,544 | 2,232 | 2,312 |
| 病院 | 2 | 3,544 | 2,232 | 2,312 | 2 | 3,544 | 2,232 | 2,312 |
| 準世帯 | 6 | 4,710 | 2,312 | 2,398 | 6 | 4,710 | 2,312 | 2,398 |
| 九人世帯 | 26 | 2,376 | 1,156 | 1,220 | 26 | 2,376 | 1,156 | 1,220 |
| 十人世帯 | 100 | 1,000 | 494 | 506 | 100 | 1,000 | 494 | 506 |
| 十一人乃至十五人 | 56 | 652 | 322 | 330 | 56 | 652 | 322 | 330 |
| 十六人乃至二十人 | 5 | 88 | 54 | 34 | 5 | 88 | 54 | 34 |
| 二十一人乃至廿五人 | 2 | 42 | 26 | 16 | 2 | 42 | 26 | 16 |
| 廿六人以上 | 2 | 42 | 26 | 16 | 2 | 42 | 26 | 16 |
| 準世帯 | 6 | 55 | 36 | 19 | 6 | 55 | 36 | 19 |
| 合宿所 | 37 | 436 | 216 | 220 | 37 | 436 | 216 | 220 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 郡 | 海 | 劍 | 西 | 百 | 川 | 今 | 三 | 朽 | 廣 | 安 | 高 | 大 | 水 | 青 | 本 | 新 | 豐 |
| 津 | 熊 | 庄 | 瀨 | 上 | 谷 | 木 | 瀨 | 庄 | 熊 | 津 | 上 | 谷 | 木 | 瀨 | 庄 | 熊 | 津 |
| 總數 | 一七、四二六 | 二五、七九二 | 二五、二四四 | 七、四八二 | 二、九六八 | 四、七二一 | 三、七四一 | 六、四八二 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 |
| 〇歲以下 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |
| 〇歲以上 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |
| 男 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |
| 女 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |

年 齡 (トシ)

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 郡 | 海 | 劍 | 西 | 百 | 川 | 今 | 三 | 朽 | 廣 | 安 | 高 | 大 | 水 | 青 | 本 | |
| 津 | 熊 | 庄 | 瀨 | 上 | 谷 | 木 | 瀨 | 庄 | 熊 | 津 | 上 | 谷 | 木 | 瀨 | 庄 | |
| 總數 | 一七、四二六 | 二五、七九二 | 二五、二四四 | 七、四八二 | 二、九六八 | 四、七二一 | 三、七四一 | 六、四八二 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | 一、二七〇 | |
| 〇歲以下 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |
| 〇歲以上 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |
| 男 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |
| 女 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 | 一、四六〇 |

| | | | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 郡 | 海津 | 劍熊 | 西庄 | 百瀨 | 川上 | 今津 | 三谷 |
| 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 |
| 本業者 | 一、五〇五 | 一、三〇七 | 一、四二九 | 一、五〇二 | 一、七二九 | 一、三三四 | 一、四四七 |
| 本業者及從業人員 | 一、九〇七 | 一、三〇七 | 一、四二九 | 一、五〇二 | 一、七二九 | 一、三三四 | 一、四四七 |
| 農業者 | 一、〇二九 | 一、〇二九 | 一、〇二九 | 一、〇二九 | 一、〇二九 | 一、〇二九 | 一、〇二九 |
| 從業人員 | 七、六五四 | 七、六五四 | 七、六五四 | 七、六五四 | 七、六五四 | 七、六五四 | 七、六五四 |
| 水產業 | 一、〇五 | 一、〇五 | 一、〇五 | 一、〇五 | 一、〇五 | 一、〇五 | 一、〇五 |
| 鑛業 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 |
| 工業 | 二、四二二 | 二、四二二 | 二、四二二 | 二、四二二 | 二、四二二 | 二、四二二 | 二、四二二 |
| 商業 | 一、〇三三 | 一、〇三三 | 一、〇三三 | 一、〇三三 | 一、〇三三 | 一、〇三三 | 一、〇三三 |
| 從業人員 | 九、六六六 | 九、六六六 | 九、六六六 | 九、六六六 | 九、六六六 | 九、六六六 | 九、六六六 |

職業

| | | | | | | | |
|------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|----|
| 本業者 | 八九一 | 一、〇八七 | 六六六 | 七四 | 二三四 | 二六 | 二四 |
| 從業人員 | 一、〇九五 | 一、〇八七 | 六六六 | 七四 | 二三四 | 二六 | 二四 |
| 總數 | 一、〇六九 | 九六八 | 七八九 | 八〇八 | 一〇三 | 二八六 | 一九 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 郡 | 海津 | 劍熊 | 西庄 | 百瀨 | 川上 | 今津 | 三谷 | 朽木 | 廣瀨 | 安曇 | 高島 | 大溝 | 水尾 | 青柳 |
| 男 | 二、八四〇 | 二、二一六 | 九、八三〇 | 九、六六八 | 一、一九三 | 三、二六三 | 一、二〇九 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 |
| 女 | 二、二一六 | 一、二一六 | 九、八三〇 | 九、六六八 | 一、一九三 | 三、二六三 | 一、二〇九 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 |
| 有配偶 | 九、八三〇 | 九、六六八 | 一、一九三 | 三、二六三 | 一、二〇九 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 |
| 無配偶 | 二、二一六 | 一、二一六 | 九、八三〇 | 九、六六八 | 一、一九三 | 三、二六三 | 一、二〇九 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 |
| 死別 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 | 一、一九三 |
| 離別 | 二、二一六 | 一、二一六 | 九、八三〇 | 九、六六八 | 一、一九三 | 三、二六三 | 一、二〇九 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一、〇四一 |

配偶關係

| | | | | | | | | | |
|------|-----|------|-----|----|----|----|----|----|----|
| 本業者 | 四〇七 | 一、六六 | 二六二 | 四六 | 三三 | 二二 | 一六 | 二七 | 二五 |
| 從業人員 | 四〇七 | 一、六六 | 二六二 | 四六 | 三三 | 二二 | 一六 | 二七 | 二五 |
| 總數 | 四〇七 | 一、六六 | 二六二 | 四六 | 三三 | 二二 | 一六 | 二七 | 二五 |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 水尾 | 大溝 | 高島 | 安曇 | 廣瀬 | 朽木 | 三谷 | 今津 | 川上 | 百瀬 | 西庄 | 劔熊 | 海津 |
| 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 |
| 一八 | 三四 | 一五 | 一三 | 一三 | 一〇 | 三五 | 八三 | 一一 | 二八 | 一一 | 一四 | 四五 |
| 三八 | 五五 | 一十 | 一九 | 七五 | 五三 | 二一 | 七四 | 一一 | 三二 | 一一 | 七 | 六三 |
| 八七 | 二六 | 五三 | 八五 | 八三 | 九七 | 五七 | 〇五 | 四〇 | 〇六 | 六九 | 五九 | 二六 |
| 六三 | 七〇 | 六四 | 五六 | 四三 | 五七 | 五二 | 二六 | 五六 | 四六 | 五四 | 五〇 | 四六 |
| 五二 | 〇六 | 一 | 七六 | 三五 | 二二 | 三四 | 六八 | 二八 | 〇〇 | 三五 | 一 | 七九 |
| 二四 | 六八 | 一 | 五四 | 九九 | 六七 | 二五 | 一 | 五四 | 四四 | 四三 | 一 | 五二 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 四 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 五〇 | 三九 | 一 | 〇三 | 三〇 | 二六 | 一 | 三〇 | 六七 | 二 | 三 | 一四 | 三 |
| 〇四 | 〇六 | 二 | 四九 | 六九 | 五 | 一 | 八三 | 六三 | 六三 | 一 | 三 | 一 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|
| 郡 | 饗庭 | 新儀 | 本庄 | 青柳 | 水尾 | 大溝 | 高島 | 安曇 | 廣瀬 | 朽木 |
| 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 |
| 二八三 | 一〇五七 | 一〇三七 | 九〇九 | 五九四 | 七一九 | 五七〇 | 四六一 | 一〇四七 | 五八七 | 一〇九一 |
| 一八〇 | 一〇八三 | 一〇七四 | 七六六 | 四三〇 | 五〇五 | 七四五 | 二六〇 | 一〇四七 | 四五四 | 一〇八五 |
| 一八二 | 八四〇 | 七六六 | 七四七 | 四四六 | 五五五 | 三三九 | 四四〇 | 八四九 | 五三九 | 一〇七四 |
| 八七 | 七三九 | 七四〇 | 五四一 | 三〇八 | 二七一 | 二二一 | 三〇六 | 六三三 | 四二七 | 六六六 |
| 二二 | 一三 | 八三 | 一 | 一 | 二六 | 一 | 一 | 一六 | 一三 | 一 |
| 一四 | 五三 | 一 | 五六 | 一 | 二一 | 一 | 一 | 五一 | 二 | 一 |
| 九七 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一四 | 一五 | 一六 | 一八 | 四九 | 五七 | 七三 | 二九 | 三三 | 三五 | 六四 |
| 一 | 二二 | 二四 | 二六 | 七五 | 七四 | 三三 | 二〇 | 二四 | 二四 | 四九 |
| 一三 | 四九 | 四〇 | 三六 | 四四 | 六三 | 六八 | 四九 | 七三 | 四六 | 一 |
| 二〇 | 三〇 | 四四 | 三九 | 六五 | 一四 | 六五 | 九四 | 二七 | 五五 | 一 |

職業

公務、自由業

其他ノ有業者

家事使用人

無職業

本業者 從屬者 本業者 從屬者 本業者 從屬者 本業者 從屬者 本業者 從屬者 本業者 從屬者

| | | | |
|----|----|----|----|
| 青柳 | 本庄 | 新儀 | 饗庭 |
| 女男 | 女男 | 女男 | 女男 |
| 14 | 13 | 34 | 15 |
| 32 | 35 | 32 | 22 |
| 30 | 35 | 35 | 32 |
| 33 | 34 | 36 | 33 |
| 1 | 13 | 08 | 38 |
| 11 | 25 | 74 | 77 |
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 62 | 42 | 33 |
| 1 | 86 | 33 | 58 |

出生地、殖民地人、外國人

殖民地人 外國人

| | | | | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 郡 | 海津 | 劍熊 | 西庄 | 百瀬 | 川上 | 今津 | 三谷 | 朽木 | 廣瀬 |
| 總數 | 36,127 | 20,330 | 17,837 | 10,165 | 3,795 | 6,490 | 3,630 | 3,630 | 3,630 |
| 男 | 19,066 | 11,493 | 8,211 | 5,621 | 2,179 | 3,493 | 2,179 | 2,179 | 2,179 |
| 女 | 17,061 | 8,837 | 9,626 | 4,544 | 1,616 | 3,000 | 1,451 | 1,451 | 1,451 |
| 殖民地人 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 外國人 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

第二回の國勢調査は大正十四年十月一日に行はれたり。其結果は未だ悉く發表されざれども、其既に報告されたるものについて見るに、世帯數一萬七十六世帯にして第一回よりは三百七世帯を減し、總人口四萬六千二百十六人にして第一回の時よりは千六百八十一人を減せり。猶左に世帯人口及び年齢の一郡の總數のみを擧ぐべし。(其他は未發表)

世帯及人口

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 安曇 | 高島 | 大溝 | 水尾 | 青柳 | 本庄 | 新儀 | 饗庭 |
| 3,211 | 1,739 | 1,456 | 1,802 | 1,567 | 2,943 | 3,175 | 3,359 |
| 1,739 | 744 | 925 | 966 | 874 | 1,532 | 1,660 | 1,776 |
| 1,472 | 721 | 832 | 836 | 693 | 1,412 | 1,515 | 1,581 |
| 863 | 167 | 822 | 526 | 418 | 473 | 1,017 | 802 |
| 241 | 47 | 300 | 156 | 123 | 146 | 341 | 333 |
| 63 | 20 | 52 | 36 | 35 | 37 | 66 | 50 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

| 年 | 總數 | | 未婚 | | 有配偶 | | 死別 | | 離別 | |
|-------|-------|--------|--------|--------|---------|-------|-------|------|------|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 總數 | 四六、二六 | 三三、九七三 | 一三、一七三 | 一〇、四三三 | 九、四二二 | 九、三六六 | 一、五六三 | 三、二六 | 一〇、一 | 三、九 |
| 〇歳—四歳 | 五、九三四 | 二、九七一 | 二、九六三 | 二、九七一 | 二、九六三 | — | — | — | — | — |
| 五—九 | 五、四六一 | 二、七三五 | 二、七三六 | 二、七三五 | 二、七三六 | — | — | — | — | — |
| 一〇—一四 | 五、二六四 | 二、六六〇 | 二、六六四 | 二、六七九 | 二、五八一 | — | — | — | — | — |
| 一五—一九 | 三、三四九 | 一、七四一 | 一、六〇八 | 一、七三六 | 一、四七三 | — | — | — | — | — |
| 二〇—二四 | 二、八四二 | 一、四六六 | 一、三七五 | 一、二二六 | 三、六九 | — | — | — | — | — |
| 二五—二九 | 二、八二七 | 一、四四七 | 一、三六〇 | — | 七、七 | — | — | — | — | — |
| 三〇—三四 | 二、六六二 | 一、四〇九 | 一、二七三 | — | 八、九〇 | — | — | — | — | — |
| 三五—三九 | 二、六六一 | 一、三三三 | 一、三四八 | — | 一、三五五 | — | — | — | — | — |
| 四〇—四四 | 二、六六九 | 一、四六四 | 一、四四五 | — | 二、二二二 | — | — | — | — | — |
| 四五—四九 | 二、九六一 | 一、四六五 | 一、五三六 | — | 四、一、二六六 | — | — | — | — | — |
| 五〇—五四 | 二、二九五 | 一、一五三 | — | — | 九、九〇 | — | — | — | — | — |
| 五五—五九 | 一、九七六 | 九、五五 | 一、〇三二 | — | 七、九四 | — | — | — | — | — |
| 六〇—六四 | 一、六三六 | 七、七七 | 八、五九 | — | 六、〇二 | — | — | — | — | — |
| 六五—六九 | 一、四三三 | 六、二二 | 八、〇二 | — | 四、三六 | — | — | — | — | — |
| 七〇—七四 | 一、〇七六 | 四、五一 | 六、二七 | — | 四、三六 | — | — | — | — | — |
| 七五—七九 | 五、八八 | 二、三三 | 三、五六 | — | 二、三五 | — | — | — | — | — |

人口動態 縣一般の平均點より本郡の人口動態を見るときは生産婚姻は低率にして、却て死亡の高率にあるを見る。又離婚に於ても高率を示せり。大正十二年に於ける縣の婚姻は人口千人に付八人三分二厘にして本郡は七人六分一厘、離婚〇・六分三厘に七分七厘、生産縣の三十二人六分八厘に對し三十人六分一厘なり。死亡は縣の二十三人九分六厘に對し二十五人一分七厘とす。又生産より見る時女百人に付縣にては百四人三分二厘なるもの本郡は百一人六分六厘、死亡は女百人に男百人八分なるもの百十二人五分二厘とす。猶縣外出入關係等は次表によつて之を觀察すべし。

人口動態實數表

| 年 | 婚姻 | | 離婚 | | 生 | | 死 | | 現在 | | 生産ノ増 | 死亡ノ差 |
|------|-----|----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|----|----|------|------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | |
| 大正七年 | 四〇五 | 四四 | 八二〇 | 八五三 | 一、六七三 | 八六九 | 八七二 | 一、七四一 | 八一 | 五三 | 一三四 | 六三 |
| 同十二年 | 四三二 | 六六 | 六六 | 九〇一 | 一、八二七 | 七九一 | 七〇三 | 一、四九四 | 五九 | 四〇 | 九九 | 三三 |

| | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 大正七年 | 六、八四 | 〇、七四 | 二、六、二七 | 二、七、七 | 九六、三 | 一、五、八三 | 二、六、九七 | 二、九、八六 | 二、九、四三 | 九九、六六 | 一、一、五 |
| 同十二年 | 七、六二 | 〇、七七 | 三、〇、六二 | 一、六、七 | 一〇一、六 | 一四七、五〇 | 二、六、二四 | 二、四、〇六 | 二、五、一七 | 二、二、五三 | 七、四四 |

人口縣外關係表 (各年末現在)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 府縣 | 北海道 | 青森 | 巖手 | 秋田 | 山形 | 宮城 | 福島 | 茨城 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 同十二年 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

| | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 栃木 | 群馬 | 埼玉 | 千葉 | 東京 | 神奈川 | 新潟 | 富山 | 石川 | 福井 | 長野 | 岐阜 | 山梨 |
| 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 | 同十二年 |

海外移住 本郡民の海外移住したるの始は今詳ならざれども、明治十七年に今津町大供の人堀田淺次郎が北米合衆國に渡航したるもの或はその始めなるべし。本郡民は一般に海外移住の人員多からず今日までに於て各町村に於て見るに饗庭村民の移住民が四十七名に及びしを最多とす。三谷村青柳村には未だ一人の渡航者なし。今各町村に於ての初航者と其動靜及び各町村民の累計を擧ぐれば左の如し。

| 町村名 | 氏名 | 大字名 | 出稼移住年月日 | 移住先 | 職 | | 歸國年月日 | 其ノ後ノ累計 |
|-----|--------|-----|--------------|---------|------|--------|-----------------|--------|
| | | | | | 移住前 | 移住後 | | |
| 海津 | 角拓 舜 | 西濱 | 明治三十八年七月十二日 | 北米合衆國 | 僧侶 | 僧侶 | 米國ニテ死亡 | 二名 |
| 同 | 八木 吾市 | 同 | 同 | 同 | 農業 | 農業 | 明治四十四年十一月十日 | 二名 |
| 劍熊 | 栗原 安藏 | 浦 | 大正八年八月一日 | 支那上海英租界 | 織物業 | 諸織物商店員 | 在 | 二名 |
| 西庄 | 青谷源太夫 | 牧野 | 明治四十一年四月二十日 | 布哇、ホノルル | 農業 | 自動車運轉手 | 在 | 七名 |
| 百瀬 | 西村 米藏 | 新保 | 明治四十一年 | 朝鮮 | 日稼 | 不詳 | 在 | 一五名 |
| 川上 | 岡本 秀市 | 深清水 | 明治二十七年十一月十一日 | 臺灣花蓮港 | 農業 | 旅館 | 大正四年八月十日 | 九名 |
| 今津 | 堀田 淺次郎 | 大供 | 明治十七年 | 北米合衆國 | 農業 | 旅館 | 明治三十七年一度歸國シ再ビ渡米 | 六名 |
| 三谷 | 松浦 勘治郎 | 柏 | 明治三十二年 | 北米合衆國 | 農業 | 農業 | 在 | 八名 |
| 安曇 | 安原 平一 | 田中 | 明治三十六年十月十八日 | 關東州 | 警察勤務 | 汽鐵社員 | 在 | 一五名 |

| | | | | | | | | |
|----|--------|------|--------------|-----------|------|---------|------------|----|
| 高島 | 林 仁太郎 | 知 | 明治三十五年五月二十七日 | 布哇 | 農業 | 農園監督 | 在 | 一名 |
| 大溝 | 村谷 磯三郎 | | 明治三十七年 | ニア州フレス市 | 農業 | 農業第二保險業 | 在 | 四名 |
| 水尾 | 萬木 富藏 | 武曾横山 | 明治三十九年 | 米國桑港 | 菓子製造 | 農園人夫 | 在 | 一名 |
| 青柳 | 木村 伊之助 | 北船木 | 明治二十五年二月 | 北米カナダ | 農業 | 漁業 | 明治四十年十月 | 九名 |
| 新儀 | 宇田 音松 | 園 | 明治三十年五月十三日 | 北米カリフォルニア | 農業 | 無職 | 大正十一年十一月三日 | 一名 |
| 饗庭 | 内田 金治郎 | 熊野本 | 明治二十七年十一月 | アラサ郡オーバン | 無職 | 會社員 | 在 | 四名 |

移住民員數表 (大正十年)

(大正十三年七月末現在)

| 前年未現在 | 年内移住 | 年内退去 | 本年末現在 | 年内移住民ノ職業 | | | | |
|------------|------|------|-------|----------|---|---|----|----|
| | | | | 農 | 漁 | 工 | 商 | 其他 |
| 北海道 | 一一二 | 一一 | 一八 | 二 | 一 | 四 | 四 | 一一 |
| 臺灣 | 五八 | 二一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 四 | 一一 |
| 樺太 | 八 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 朝鮮 | 一三五 | 一九 | 二〇 | 七 | 一 | 五 | 四 | 一九 |
| 外國 | 一六四 | 七 | 一一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 七 |
| 合計 | 四七七 | 五九 | 五一 | 九 | 一 | 五 | 二二 | 五九 |
| 大正九年 | 五〇三 | 五四 | 八〇 | 五 | 一 | 四 | 一四 | 五九 |
| 大正八年 | 四六八 | 八〇 | 四五 | 五 | 一 | 二 | 一九 | 五四 |
| 第三編 第三章 戶口 | | | | | | | | 八〇 |

| 地名 | 田 | 畑 | 宅地 | 山林 | 林地 | 原野 | 雜地 | 除稅地 | 計 |
|--------|--------|-------|--------|-------|----|-----|-------|-------|-------|
| 海津 | 一八,八七九 | 一五〇,二 | 七,九一三 | 二,五五三 | — | 七〇〇 | 二四八,二 | 二四八,六 | 四,三〇〇 |
| 西濱 | 四一,〇四〇 | 六,七三 | 二,八七一 | 一,〇八四 | — | — | 一五〇,五 | 五〇,九 | 三,六五八 |
| (海津村)計 | 九一,五五〇 | 二二,七五 | 一〇,七九〇 | 三,六三九 | — | 七〇〇 | 二九八,二 | 三〇,五 | 四,九六〇 |
| 小荒路 | 二七,八四二 | 一,五三三 | — | — | — | — | — | — | — |
| 野口 | 三三,五七 | 七三,四 | — | — | — | — | — | — | — |
| 在原 | 九,七五九 | 五,七六 | — | — | — | — | — | — | — |
| 浦中 | 三,九八〇 | 六〇,八 | — | — | — | — | — | — | — |
| 山中 | 二五,〇四九 | 六五,七 | — | — | — | — | — | — | — |
| 下 | 二,四六九 | 三二,六 | — | — | — | — | — | — | — |
| (觀熊村)計 | 二六,三六三 | 一四一,七 | — | — | — | — | — | — | — |
| 蛭口 | 四,九三〇 | 一,三八八 | — | — | — | — | — | — | — |
| 寺久保 | 一五,二八四 | 二,四七三 | — | — | — | — | — | — | — |

| 地名 | 田 | 畑 | 宅地 | 山林 | 林地 | 原野 | 雜地 | 除稅地 | 計 |
|--------|-------|-------|----|----|----|----|----|-----|---|
| 石庭 | 〇,一八〇 | 三,五〇三 | — | — | — | — | — | — | — |
| 牧野 | 三,〇三三 | 五九,六 | — | — | — | — | — | — | — |
| 白谷 | 三,七九二 | 一,二二三 | — | — | — | — | — | — | — |
| 上開田 | 三,二四九 | 一五,七 | — | — | — | — | — | — | — |
| 下開田 | 一,一九七 | 二,二二三 | — | — | — | — | — | — | — |
| (西庄村)計 | 二,六〇〇 | 六〇,五 | — | — | — | — | — | — | — |
| 新保 | 二,四七三 | 一,五九一 | — | — | — | — | — | — | — |
| 森西 | 九,五七四 | 一〇,一七 | — | — | — | — | — | — | — |
| 澤内 | 四,五九九 | 八,六〇七 | — | — | — | — | — | — | — |
| 辻内 | 三,八六八 | 二,二〇八 | — | — | — | — | — | — | — |
| 中庄 | 三,九〇一 | 一,七三三 | — | — | — | — | — | — | — |
| 大沼 | 一,三六三 | 一,〇三〇 | — | — | — | — | — | — | — |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|----------|---------|----------|---------|---------|----------|-----------|----------|---------|---------|
| 小入谷 | 能家 | 桑原 | 雪洞谷 | 地子原 | 麻生 | 荒川 | 野尻 | 市場 | (三谷村)計 | 狭山 | 天增川 | 杉山 |
| 三、一三六、四 | 九、六三三、〇 | 四、三〇一、三 | 一四、一五九、三 | 九、八〇、八 | 一五、九五三、六 | 八、五四九、九 | 五、〇一八、二 | 一〇、八二四、〇 | 五、三〇六、三 | 一〇、九三三、六 | 九、七七七、七 | 一、八四八、六 |
| 八、七一、六 | 二、七〇、八 | 二、九二、二 | 二、九〇、二 | 五、〇〇、一 | 八、八五、二 | 八、八七、四 | 六、九七、五 | 一、二八一、八 | 四、五三三、四 | 二、四三、二 | 二、八四三、三 | 三、五二二、二 |
| 一〇八、七 | 三、八五、二 | 一、七三、八 | 五、五八、〇 | 三、六四、三 | 九、〇九、三 | 七、八、三 | 二、九四、〇 | 二、二八、一 | 三、七五〇、七 | 八、八、八 | 二、四八、八 | 二、九二、五 |
| 二、四七、二 | 三、四七、八 | 七、一、一 | 三、八五、一 | 一、七九、〇 | 二、三〇、九 | 四、八五、五 | 三、七四、五 | 六、五、六 | 一、三、九、八、四 | 四、三、七 | 一、〇、二、九 | 一、五二、六 |
| 七、三 | 二、四六、四 | 二、四、一 | 五、四九、〇 | 三、四、九 | 六、七、九 | 九、七、二 | 八、五、七 | 九、五、六 | 一、五、六、〇、〇 | 一、八、五、二 | 一、〇、六、〇 | 一、四八、三 |
| 二、三、九 | 一、〇、〇、八 | 六、一、一 | 一、〇、二、八 | 五、九二、一 | 二、一、〇、〇 | 二、一、〇、〇 | 二、一、〇、〇 | 三、三、一 | 一、三、五、五、四 | 二、一、〇、八 | 三、三、一 | 三、七、八 |
| 五、八 | 二、二、三 | 二、九、四 | 二、五、七 | 二、九、〇 | 二、六、七 | 二、五、〇 | 二、四、二 | 三、〇、六 | 四、三、七 | 一、〇、四 | 三、一、一 | 二、七、五 |
| 三、四、八、八 | 四、八、二、二 | 四、六、八、八 | 一、五、三、七 | 二、九、三、八 | 二、一、三、九 | 二、一、三、九 | 二、一、三、九 | 二、一、三、九 | 二、一、三、九 | 二、一、三、九 | 二、一、三、九 | 二、一、三、九 |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| (朽木村)計 | 小川 | 大野 | 村井 | 枋生 | 平良 | 宮前坊 | 岩瀬 | 柏瀬 | 古川 | 古屋 | 中牧 | 生杉 |
| 一、四、七、九、七 | 二、六、四、四 | 二、五、六、六 | 四、七、九、八 | 六、六、八、四 | 二、二、九、一 | 二、二、三、七 | 三、〇、七、九 | 五、九、九、二 | 五、一、四、八 | 五、四、八、七 | 六、三、六、三 | 六、三、九、六 |
| 三、九、四、二、二 | 一、八、七、六 | 六、〇、一、一 | 九、五、三、〇 | 七、九、二 | 一、八、〇、三 | 一、〇、〇、六 | 二、〇、一、八 | 八、九、五、八 | 一、二、八、一 | 二、九、九、〇 | 二、一、五、四 | 五、三、一、一 |
| 一〇、四、〇、三 | 一、六、〇、八 | 三、〇、四、五 | 三、四、一、一 | 五、〇、四、三 | 二、九、一、六 | 七、四、一、一 | 一、〇、八、五 | 三、八、八 | 三、六、四 | 二、七、五、九 | 二、七、九、六 | 二、五、六、五 |
| 七、〇、七、七 | 四、七、〇、一 | 一、七、四、〇 | 五、六、三、〇 | 五、〇、九、五 | 二、七、四、一 | 三、七、七、三 | 七、一、一 | 二、一、四、五 | 四、六、八、三 | 一、一、六、二 | 三、三、三 | 四、九、〇 |
| 六、四、三、六 | 三、三、四 | 二、六、一、〇 | 七、八、七 | 七、一、三、二 | 一、九、三、七 | 七、一、三、九 | 七、一、一 | 三、三、三、六 | 七、四、九、三 | 四、六、六 | 一、三、二 | 一、九、八 |
| 一、一、六 | | | | | | | 四、一、〇 | | | 〇、三 | | 〇、九 |
| 二、七、一、三 | | | | | | | 一、四、四、〇 | | | 四、五、二、五 | 五、二、〇 | 二、〇、二 |
| 一、一、四、二、二 | 一、九、三、五 | 一、八、九、二 | 九、八、六 | 二、三、六、八 | 三、三、三 | 七、七、一 | 二、九、〇、二 | 三、三、〇、四 | 七、七、一 | 七、一 | 二、二、五 | 一、九、二 |
| 五、四、七 | 五、三 | 三、五 | 五、四 | 一〇、三 | 四、六 | 一、二、一 | 五、四、五 | 九、三 | 二、四 | 六、四 | 六、六 | 六、一、〇、〇 |
| 一、七、八、七 | 三、三、四、三 | 一、八、九、一 | 六、八、九、四 | 五、五、一、五 | 二、九、一、〇 | 四、二、六、三 | 六、八、七、九 | 二、四、八、八 | 八、二、四、一 | 一、八、四、七 | 六、八、二、二 | 六、八、二、二 |

| 町村名 | 田 | | 畑 | | 宅地 | | 山林 | | 原野 | |
|-----|--------|-----------|-------|----------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 反別 | 地價 | 反別 | 地價 | 反別 | 地價 | 反別 | 地價 | 反別 | 地價 |
| 海津 | 二六八 | 四七、六九八 | 二二 | 三、六三三 | 二三八 | 二六、六〇六 | 三七八 | 三、三七七 | 七六 | 一〇三 |
| 劍熊 | 二四〇〇 | 九四、二四三 | 三三 | 三、七三三 | 二七三 | 二一、八〇〇 | 八九〇 | 三、〇〇一 | 七二 | 四三 |
| 西庄 | 二五九六 | 一〇三、〇九〇 | 五九 | 八、七七〇 | 一八五 | 一四、九八八 | 七三三 | 四、八九四 | 四七 | 二九 |
| 百瀬 | 二九〇一 | 一〇九、九六三 | 二四 | 二、五八二 | 二四六 | 二〇、九四一 | 五九九 | 四、八九九 | 六五 | 三九 |
| 川上 | 四六九四 | 一九二、六〇七 | 一〇三 | 二、四九〇 | 三二八 | 一九、〇九九 | 二、〇六三 | 四、三三〇 | 二、五九六 | 六七 |
| 今津 | 五〇八七 | 一九〇、七三八 | 三六 | 六、六九二 | 二九六 | 四四、四〇〇 | 一八八 | 二、七四五 | 一、二四五 | 一三 |
| 三谷 | 一五九八 | 四〇、七七七 | 四七 | 三、二七九 | 二一九 | 六、五九二 | 一、三四六 | 一、五四四 | 四六 | 二四 |
| 朽木 | 四七五七 | 一七、六五五 | 九〇 | 八、三三二 | 三六〇 | 一八、四七三 | 六、六四二 | 七、六八九 | 二九 | 六〇 |
| 廣瀬 | 三六一二 | 一三、七五五 | 四三 | 五、五五五 | 二九四 | 二四、八五八 | 九、一六〇 | 四、〇四四 | 二七 | 七八 |
| 安曇 | 五五六七 | 三三、九〇一 | 一七 | 三、八七四 | 三九七 | 四四、七八一 | 一四七 | 二、八二七 | 二〇 | 九一 |
| 高島 | 二五九四 | 一〇一、一〇九 | 五 | 七、六二二 | 一七九 | 一三、五九八 | 六、五五五 | 二、五〇五 | 六九 | 四九 |
| 大溝 | 二三六〇 | 八九、六三三 | 二二 | 五、一三二 | 二〇一 | 一五、三三七 | 一八二 | 二、五八二 | 二七 | 八五 |
| 水尾 | 五〇〇三 | 二三四、三四四 | 一五 | 三、三三七 | 二七七 | 一五、七九三 | 三、二三四 | 二、五八八 | 八〇 | 二九 |
| 青柳 | 三六四八 | 一五〇、八〇三 | 三〇 | 六、七六四 | 二〇三 | 一〇、三三七 | 二、三五五 | 二、五三七 | 一四 | 三五 |
| 本庄 | 二八七四 | 八七、五五五 | 八 | 二、六八〇 | 一八七 | 一〇、三三三 | 二、二八 | 一、八九八 | 九 | 二五 |
| 新儀 | 五四六五 | 二二九、〇三〇 | 四 | 八、九一六 | 三七四 | 四一、五二二 | 六、六九九 | 三、三五二 | 四 | 二七 |
| 饗庭 | 五八〇九 | 二三一、九六八 | 三九 | 九、八二三 | 二七二 | 四〇、八〇九 | 四、三四四 | 五、四九一 | 四 | 二七 |
| 合計 | 六、一五六三 | 二、四七四、七三六 | 一、二九二 | 二、四〇、八三五 | 四、四四八 | 四四二、三三六 | 一、五、七九二 | 五、八、一八二 | 七、五〇一、七 | 五、七、七九七 |

大正九年
大正八年

六、一九六二
六、二四四七

八、八八二
九、一〇〇

一、四〇、七五九
一、四六、二六二

四、四四九
四、四四二

一、五、七八五
一、五、七六六

五、八、三三
五、八、一七五

七、五、四一
七、五〇六

五、八、四七
五、九、二五

五、八、四七
五、九、二五

| 町村名 | 池沼其他 | | 合計 | | 町村名 | 池沼其他 | | 合計 | |
|-----|------|-----|------|---------|------|------|--------|------|-----------|
| | 反別 | 地價 | 反別 | 地價 | | 反別 | 地價 | 反別 | 地價 |
| 海津 | 三〇 | 五、四 | 三〇 | 六、三、一 | 高島 | 一 | 一、六三、四 | 一 | 一、六三、四 |
| 劍熊 | 〇四 | 一三 | 〇四 | 一、九〇、五八 | 大溝 | 一 | 七、五四、三 | 一 | 一、三、七〇一 |
| 西庄 | 〇三 | 八 | 〇三 | 一、五六、八九 | 水尾 | 〇一 | 九四、三九 | 〇一 | 二、六六、〇四三 |
| 百瀬 | 四、五 | 二七 | 四、五 | 一、六九、六一 | 青柳 | 八〇 | 四六、一五 | 八〇 | 一、八〇、三七 |
| 川上 | 二六、五 | 四三 | 二六、五 | 二、五三、三九 | 本庄 | 四三 | 四七、二七 | 四三 | 一、四一、九三九 |
| 今津 | 五〇 | 二 | 五〇 | 二、〇二、二二 | 新儀 | 〇四 | 二二 | 〇四 | 二、七二、九六〇 |
| 三谷 | 〇一 | 一九 | 〇一 | 二、〇二、二二 | 饗庭 | 一五、九 | 一、六六 | 一五、九 | 二、六九、二五 |
| 朽木 | 〇一 | 四 | 〇一 | 二、〇二、二二 | 合計 | 一九六 | 九、七九 | 一九六 | 三、一、三、八〇五 |
| 廣瀬 | — | — | — | — | 大正九年 | — | — | — | 三、一、三、八〇五 |
| 安曇 | 〇一 | 三 | 〇一 | 九六三、二 | 大正八年 | — | — | — | 三、一、三、八〇五 |

高島郡免租地表 大正十年末

| 種類 | 反別 | 筆數 | 種類 | 反別 | 筆數 |
|------|-----|----|-------|-------|-----|
| 學校敷地 | 八、九 | 三六 | 墳墓敷地 | 二、三、七 | 四六六 |
| 府縣社地 | 〇、一 | 一 | 大葬場敷地 | 未滿 | 一 |
| 鄉村社地 | 二、〇 | 九二 | 用惡水路地 | 〇、四 | 二七 |

第三編 第四章 土地

一〇三三

| | | | | | |
|---------|---------|-----|--------|---------|-------|
| 溜池 | 一七・九 | 一七三 | 公會堂敷地 | 一〇・二 | 四 |
| 保安林 | 一〇八・三・九 | 一二六 | 文庫公開敷地 | 〇・一 | 一 |
| 町村役場敷地 | 〇・六 | 二三 | 縣物置場敷地 | 未滿 | 一 |
| 警察官衙敷地 | 〇・二 | 一三 | 屠殺場敷地 | 〇・一 | 二 |
| 水産試験場敷地 | 〇・四 | 一三 | 合 計 | 一、一五七・七 | 一、一三五 |
| 隔離病舎敷地 | 一・三 | 二五 | | | |

郡民が土地所有の状態は左表について考察すべし。

民有地所有者別表 (大正十年末)

| 所有地 | 同町村内人 | | 他 郡 方 人 | | 合 計 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 本郡人 | 他 郡 | 縣外人 | 計 | |
| 田 | 六、二八七・七 | 一、九一〇・四 | 一、二四七・〇 | 一、一四六・六 | 三、七五五・五 |
| 畑 | 二、四三六・三 | 一、四一四・四 | 二、二四七・〇 | 四、六四三・九 | 三、七五五・五 |
| 宅地 | 一、二七〇・〇 | 一、四一四・四 | 一、一七〇・〇 | 二、二八四・九 | 六、七三六・〇 |
| 山林 | 四、三二一・八 | 九、一七二・九 | 四、四九二・九 | 三、五八二・二 | 一、二七五・四 |
| 山野 | 一、五七〇・〇 | 三、二五五・五 | 五、〇五〇・五 | 八、七二二・二 | 四、〇〇七・七 |
| 其他 | 七、四六六・一 | 一、八〇〇・〇 | 九、〇三三・〇 | 一、五〇六・六 | 三、三五六・六 |
| 其他 | 一、七九七・九 | 二、〇〇六・六 | 三、三三三・三 | 六、六六六・六 | 三、三五六・六 |

郡民同町村外土地所有表 (大正十年末)

| 所有地 | 本 郡 内 | | 縣内他郡市内 | | 他 府 縣 内 | | 計 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 本郡内 | 縣内他郡市内 | 他府縣内 | 計 | 他府縣内 | 計 | |
| 合 計 | 三、三〇九・〇 | 二、〇六八・四 | 一、二九七・三 | 四、一七四・三 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、七〇七・〇 |
| 大正九年 | 二、九一六・一 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、八二二・六 |
| 大正八年 | 二、八六六・三 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 二、六八八・九 |
| 田 | 一、九二八・四 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、七六七・四 |
| 畑 | 二、八六五・三 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 二、六八八・九 |
| 宅地 | 一、八二二・二 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、八二二・六 |
| 山林 | 九、〇七〇・〇 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、〇〇二・一 |
| 山野 | 三、五九・五 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 四、三二一・七 |
| 其他 | 一、五八〇・〇 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、五八〇・〇 |
| 其他 | 八八・八 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 九一・五 |
| 其他 | 七六・七 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 八三・三 |
| 合 計 | 八七六・三 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 九八七・〇 |
| 大正九年 | 九二三・一 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、〇三四・五 |
| 大正八年 | 八二七・三 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 一、〇三四・五 |
| 同 八 年 | 二、〇六四・九 | 一、九七九・三 | 一、二九七・一 | 四、一四三・二 | 一、〇四四・四 | 二、〇九一・七 | 二、一三三・一 |

第五章 郡治組織

廢藩置縣 明治元年正月に於ける本郡の領主を擧ぐれば

幕府直轄

諸侯領 大溝、郡山、金澤、吉田、川越、會津、伯太、小濱、鞠山、福知山、淀、膳所

旗本領 朽木之綱、朽木勇太郎、朽木五郎左衛門、朽木靱負(良綱領)、西郷新太郎、酒井富之助、

渡邊平十郎(茂領)、渡邊鎮之助、渡邊嘉一郎、蜂屋飛驒、眞野庄次郎、眞野久左衛門、

伏屋龜之助、小野七之助、佐藤修理

なりとす。

此月將軍徳川慶喜、大政を奉還す。因て同月大津代官石原清一郎が邸を收めて大津裁判所を開く。三月二十三日總督長谷信篤着任す。此日、今後同裁判所にて近江若狹二國を支配すべきを以て、訴訟は同所に提出すべき旨を令す。閏四月二十七日總督歸洛し、裁判所を改めて縣とし縣令を置く。五月六日御料は大津役所の支配たる旨を令す。是より先き正月十日會津藩主松平容保の官位を褫き、其封土を收む。大津縣支配する所は幕府領及び舊會津藩領なりとす。又旗本領も其知行は舊に依ると雖も支配は大津縣に屬せり。即ち大津縣支配何某知行所と稱す。旗本領を大津縣支配となしたる月日は詳ならず。又一時に其支配に收めたるに非ず。明治元年の其支配下にありしものは

蜂屋氏、眞野氏兩家、朽木良綱領、渡邊茂領、伏屋氏、小野氏、佐藤氏

にして、其他は猶舊によりて各領主の支配下にあり。二年十二月萬石以下の祿制を定め、麩米を給して領知を上地すべき旨を命せられ、旗本は凡て士族とし、各其地方に貫族せしめ、又其家來三代以上及び以下ともそれ／＼相應の扶助を給與することゝなれり。朽木本家の之綱は此時京都にあり、三年五月朽木に歸住す。本郡に貫族したるは猶朽木勇太郎の東萬木村に於けるあれども、後に東京に移れり。(朽木五郎左衛門も本郡西萬木村貫族のはすなれども今詳ならず。)其家來に支給されし扶助とは今の退職賜金の事にして、四年正月に支給されたり。此に一時と五ヶ年賦とあり。五ヶ年賜金の合計より五分を減したるものを一時賜金高とせり。即ち高六十俵未満四十俵までのものは年に三十兩つゝを給與し、一時賜金となるときは百二十七兩二分を給與されたり。

是より先き六月十七日各藩同じく領土を奉還す。因て舊に依て藩名を定め、舊領主に家祿を賜ひ、以て藩知事に任じ(大溝藩知事の任命は六月二十二日なり)其舊領を治せしむ。同年八月七日吉田藩を豊橋藩と改稱し、三年三月二十三日敦賀藩^{鞠山}を鞠山藩と改稱す。九月十七日鞠山藩を小濱藩に併合す。此に於て本郡は大津縣及び大溝、郡山、金澤、豊橋、川越、伯太、小濱、福知山、淀、膳所の十藩の治下にあり。四年六月二十三日大溝藩知事分部光謙上表して職を辭す。仍て大溝藩を廢して大津

縣に併合す。(引渡しは十月十二日大津縣廳に於てす、村々庄屋年寄出津せり。)七月十四日各藩を廢して縣となす。此時本郡は大津縣等十縣の治下にあり左の如し。

- 大津縣治所大津 舊公領、旗本領、會津藩領、大溝藩領
- 郡山縣治所大和郡山 舊郡山藩領
- 金澤縣治所加賀國金澤 舊金澤藩領
- 豐橋縣治所三河國豐橋 舊吉田藩領
- 川越縣治所武藏國川越 舊川越藩領
- 伯太縣治所和泉國伯太 舊伯太藩領
- 小濱縣治所若狹國小濱 舊小濱藩領、鞠山藩領
- 福知山縣治所丹波國福知山 舊福知山藩領
- 淀 縣治所山城國淀 舊淀藩領
- 膳所縣治所近江國膳所 舊膳所藩領

十一月二十二日右の各縣を廢し、其舊藩時代の區劃を除き、新に坂田郡長濱に長濱縣を置き、地理的區劃に従て其管轄區域を定め、愛知以北の五郡及び高島郡の六郡を之に屬せしむ、此時海津に長濱縣出張所を置き、本郡一圓を管せしむ。五年二月二十七日長濱縣を彦根に移し、犬上縣と改稱す。同年

九月二十八日犬上縣を廢して滋賀縣に併合す。之より本郡も亦其管轄に屬す。此と同時に海津の縣出張所は廢止されたり。

郡役所 明治十一年七月郡區町村編制法公布せられ、戶籍法によりて施行せられたる區分を廢せらる(區分成立は次項參照)十二年五月十六日高島郡役所の位置を今津村に定む。即ち今津曹澤寺の堂宇を借入れて廳舎とし七月一日開廳す。今猶同廳舎を使用す。三十一年十一月一棟を増築して郡參事會室とし、三十三年四月亦一棟を増築して會議場とす。郡設置以來の郡長は左表の如し。

郡長表

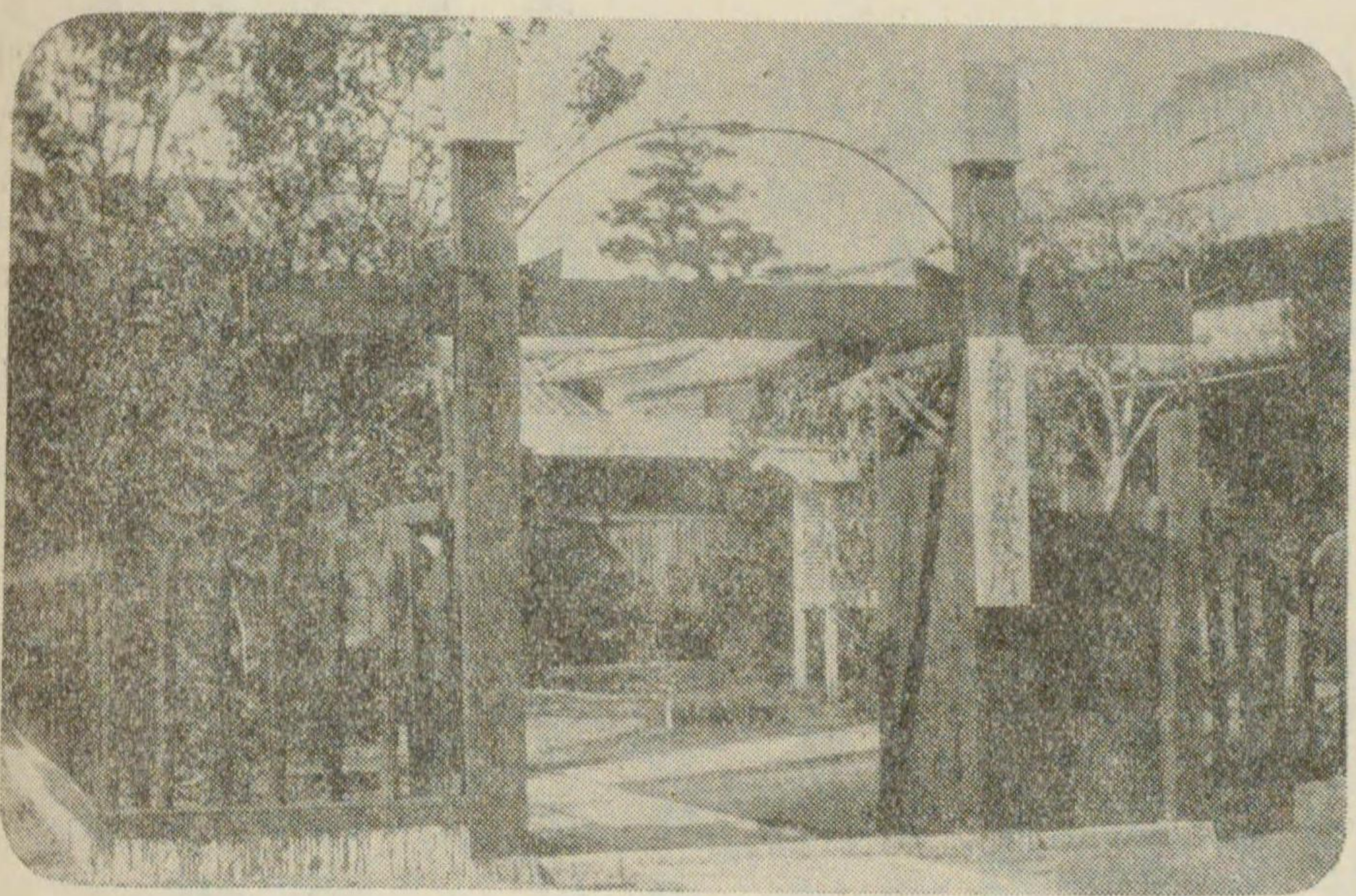
| 郡長 | 就任年月日 | 轉任年月日 | 轉任先 |
|-------|------------|------------|----------|
| 木戸良峯 | 明治十二、六、二 | 明治十八、二、十七 | 辭職 |
| 大塚杉三 | 同 十二、二、十七 | 同 一九、七、十二 | 廢官 |
| 山邨總俊 | 同 十九、八、廿五 | 同 廿四、九、廿六 | 坂田東淺井郡長 |
| 藤居忠三 | 同 廿四、九、廿六 | 同 廿九、一、十 | 辭職 |
| 原源太郎 | 同 廿九、一、十 | 同 卅、七、十五 | 非職 |
| 町原亮 | 同 卅、七、十五 | 同 卅一、三、十 | 同 |
| 河毛三郎 | 同 卅一、三、十 | 同 四十四、七、十二 | 北海道小樽支廳長 |
| 鶴飼元吉 | 同 四十四、七、十二 | 同 四十五、三、卅 | 坂田郡長 |
| 小川靜次郎 | 同 四十五、三、三十 | 大正二、一、十六 | 大津市長 |
| 北村時男 | 大正二、一、十六 | 同 五、三、十七 | 栗太郡長 |

瀬戸山高光
佐野眞次郎
松山藤太郎

同 五、三、十七
同 七、八、十七
同 十二、二、十五

同 七、八、十七
同 十二、二、十五
至郡役所廢止

大分縣大野郡長
依願退職



高島郡役所

行政區劃 明治四年冬戶籍法發布されたる爲め、五年三月宗門改帳の制を廢し、四月に戶籍を編製す。始めて各戸に番號を附す。此時高島郡を十四區に分ち、一區毎に區内の選舉にて總戶長總副戶長、各一人を置く。九月町年寄、庄屋、年寄、横目、丁代等を廢し、各村に戶長、副戶長を置く。同月犬上縣下を六大區に分ち、第一大區愛知郡、第二大區犬上郡、第三大區坂田郡、第四大區淺井郡、第五大區伊香郡、第六大區高島郡とす。(此月犬上縣を廢して滋賀縣に併合す、此時大區の制廢止せられしなるべしと雖も今詳ならず。)六年三月總戶長、總副戶長を區長副區長と改稱し、區長の役所を何區長役場と稱す。十二月一ヶ村戶長一人、副戶長二人と定む。十二年五月各區及び區長副區長を廢し、六月二十二日區長事務を新設の郡役所に引繼ぎたり。

明治五年四月に定められたる所の十四區は明治八年二月改正せらる。多くは從來の區分に準據したり。異同は僅に打下村の第十二區に屬せるを第十一區に改めたるに止まる。八年二月の改正區分表左の如し。此時の一郡を百三十ヶ村三ヶ町と稱す。(百三十村は轆轤、坊、横山を一村として數へしが故なり。此三村を本郷に合すれば百二十七村なり。但し當時此三村は別に戶長を置きし故に一村に數へしものなるべし。)

高島郡區分表 (明治八年二月改定)

- 第一區 海津東町、海津中村町、海津中小路町、西濱村、知内村、蛭口村、石庭村 三町四ヶ村
- 第二區 在原、野口、小荒路、山中、浦、下ノ、白谷、牧野、上開田、下開田、寺久保 十一村
- 第三區 辻、森西、澤、新保、中ノ庄、深清水、桂、北仰、中ノ町、濱分、大沼 十一村
- 第四區 伊井、三谷、岸脇、梅原、平崎、構、井ノ口、北生見、追分、角川、保坂、杉山、天増川、狭山、途中谷、酒波十六村
- 第五區 南新保、今津、弘川、大供、下弘部、上弘部、藺生、南生見 八村
- 第六區 木津、岡、日爪、五十川、米井、辻澤、今市、平井、安養寺、河原市、南井ノ口、下古賀、上古賀 十三村
- 第七區 田井、森、霜降、針江、藁園、太田、北船木、新庄、北畑、堀川、山形、深溝 十二村
- 第八區 長尾、中野、南古賀、田中、五番領 五村
- 第九區 三重生、十八川、西萬木、青柳、横江、川島、南舟木、四津川、横江濱 九村
- 第十區 武會、武會村ノ内横山、野田、宮野、鴨、三尾里、上小川、下小川 八村
- 第十一區 勝野(舊名大溝町、石垣村、打下村合併改稱) 一村

第十二區 音羽、永田、拜戸、伊黒、鹿ヶ瀬、黒谷、畑 七村

第十三區 上柏、下柏、荒川、古川、大野、村井、栃生、小川、平良、雲洞谷、地子原、麻生、麻生村ノ内轆轤、椋川、宮前、宮前村ノ内坊 十六村

第十四區 市場、野尻、岩瀬、能家、桑原、古屋、小入谷、生杉庄屋、中牧小林 九村

本郡の各村は本郷枝郷を立て、又小村分立したりしを、地券發行の際等に整理して、明治五年六年七年の間に併合せられしものあり。明治八年二月の現在村名は右に收めし十四區分表の如し。明治十二年郡區町村編成法實施に際し又併合せられたるものあり、此時の町村數は一町百九村たり。此後廢止併合なし。(其併合と年月は第一編第二章町村誌參照すべし。但其年月は確なる記録を存せず、各村の所傳に據りしが、誤謬なきを保しがたし。)郡區編成法實施後は從來の如く各村に戸長を置き、其私宅を役場とす。時に戸數の少なきものは二三村を聯合して一戸長を置きしものあり、長尾、中野の二村を一戸長としたるが如し。又此時海津三町を併合して海津町とし一戸長とす。戸長の選任は從來の如く民選にして、郡長の監督を受けて戸籍、兵事、學事、租稅等の事務を採れり。十八年七月一日より、民選戸長の成績良好ならずとして之を地方官の選任に改め、同時に戸長の所轄區域を改正擴張し又役場も從來の私宅を停めて別に之を置かしむ。而して其役場を稱するに其所在地を擧げて其他を村數にて呼び、例之は海津町外一ヶ村戸長役場又は今津村外八ヶ村戸長役場と稱したるが如し。この聯合町村の區域は後の町村制實施の際に町村分合の基準となりたるものにて、現今の町村の區域は實に

此時に始まり。其聯合區域と役場所在地とは左の如し。

聯合各村表

| 役場番號 | 稱呼 | 聯合區域 | 役場 |
|------|----------|----------------------------|-------------------|
| 一 | 海津町外一村 | 海津村に同じ | 福善寺。後海津二二五一番地に移る。 |
| 二 | 小荒路村外五ヶ村 | 劔熊村に同じ | 小荒路九十九番屋敷 |
| 三 | 寺久保村外六ヶ村 | 西庄村に同じ | 寺久保五十番屋敷 |
| 四 | 新保村外六ヶ村 | 百瀬村に同じ | 無量寺 |
| 五 | 桂村外六ヶ村 | 川上村に同じ | 芳春院 |
| 七 | 今津村外八ヶ村 | 今津町に同じ | 法慶寺庫裡 |
| 六 | 保坂村外九ヶ村 | 三谷村に同じ | 横井徳左衛門宅 |
| 十七 | 市場村外七ヶ村 | 市場、岩瀬、宮前坊、野尻、荒川、地子原、雲洞谷、麻生 | |
| 十八 | 大野村外四ヶ村 | 大野、柏、古川、村井、栃生 | |
| 十九 | 古屋村外七ヶ村 | 古屋、中牧、生杉、小入谷、能家、桑原、平良、小川 | |
| 十 | 南古賀村外四ヶ村 | 廣瀬村に同じ | 光盛寺、十八年十一月集會所に移す |
| 十一 | 田中村外三ヶ村 | 田中、三尾里、五番領、常樂木 | 田中村二七五番地(南市) |
| 十六 | 高島村外四ヶ村 | 高島村に同じ | 西光寺本堂 |
| 十五 | 勝野村外二ヶ村 | 大溝町に同じ | 現今大溝町役場 |
| 十四 | 鴨村外三ヶ村 | 水尾村に同じ | 字稻荷に置き、十九年慈敬寺内に移す |
| 十三 | 青柳村外四ヶ村 | 青柳、上小川、下小川、横江、西萬木 | 現今青柳村役場 |

- 十二 南船木村外四ヶ村 本庄村に同じ
- 九 新庄村外四ヶ村 新儀村に同じ
- 八 饗庭村外四ヶ村 饗庭村に同じ

樂受寺客殿、十九年頃山本清兵衛宅に移す
眞行寺、後大藤兵七宅に移し、又字乾二十二番屋敷に移す
字宮前四九三番地

明治二十一年四月十七日法律第一號にて町村制公布せられ、翌二十二年四月一日より實施せらる。是現制なり。此時從來の町村名を廢し、新に村を立つ。其區域は聯合町村の區域に基きしものにて、相違の點を擧ぐれば、市場外七ヶ村、大野村外四ヶ村、古屋村外七ヶ村を併合して一村として朽木村とし、田中村外三ヶ村と西萬木村とを合せて一村として安曇村とし、青柳村外四ヶ村より西萬木村を除きて一村として青柳村としたり。此西萬木村を青柳村より分離したるは水利關係田中村と同一區域に屬して待井より用水を引き、享保以來田中村等と共に東萬木村と水利を争ひし事あり、自然融和の圓滿を缺きしに因るなり。此時立てし所は十七ヶ村とす。從來の各町村名は是を大字とし、其名を存す其新村名左の如し。

- 海津村 劔熊村 西庄村 百瀬村 川上村 今津村 三谷村 朽木村 廣瀬村
- 安曇村 高島村 大溝村 水尾村 青柳村 本庄村 新儀村 饗庭村

明治三十五年十一月大溝村に町制を布きて大溝町と稱し、三十九年十月今津村も亦町制を布きて今津町と稱す。即ち二ヶ町十五ヶ村となる。各町村の大字名は第一篇地誌第二章町村參照すべし。

聯合戸長制定後は各村に村總代を置きしが、町村制實施後は假に大字總代と稱せしを、各村に於て漸次區長と改め、本庄村が最後として四十五年四月一日以後區長と改めたるより此に全く全町村、區長名を用ふるに至れり。

町村役場

海津村 大字海津第二二五一番地に置く。

劔熊村 大字小荒路の聯合戸長役場を襲用し、三十年四月同大字長善寺の一部を借受けて移轉し、三十二年六月同大字第四六七番ノ四に移轉す。以て今に至る。

西庄村 大字寺久保の聯合戸長役場を襲用し來りしを、大正四年十一月二十二日大字蛭口字醒醐第八一九番地に移轉す。以て今に至る。

百瀬村 聯合戸長役場と同じく大字新保無量寺に置き、三十年同大字平山久吉宅に移り、三十四年同大字於故第九一八番ノ一に移轉す。以て今に至る。

川上村 大字桂芳春院の舊戸長役場を襲用し來りしを二十六年大字日置前字田中第三五二番地に新築して移轉す。本村大字は六大字なれども之を十二區に分ちて各區に區長及び代理者を置けり。

今津町 今津法慶寺に置きしを、二十七年九月二十二日大字今津一八八番地に移し、三十二年七月二十六日廳舎を今津東校々舎に充てしを以て、同大字二〇四番地に移る。以て今に至る。

三谷村 聯合戸長役場を襲用して大字保坂横井徳左衛門方に置く。二十八年三月十日同大字小字越中山に移轉す

以て今に至る。

朽木村 初め市場聯合戸長役場を使用したるが、二十三年六月類焼し、大字市場慶寶寺に移る。四十年十一月二十七日、舊市場小學校々舎を改造して之に移る。以て今に至る。

廣瀬村 大字下古賀石黒茂平宅に置き、二十七年四月二十三日東圓寺に移り、三十一年七月五日大字南古賀七七番屋敷に移り、三十九年六月更に下古賀に移る。現今の役場是なり。

安曇村 大字田中宇南市の舊聯合戸長役場を使用す。三十四年八月同大字四二六番地に移り、四十二年三月同大字四二九番地に移り、以て今に至る。

高島村 大字高島西川儀左衛門に置き、二十九年十二月一日字中坊第四二九番地に移り、以て今に至る。

大溝町 聯合戸長役場(勝野第二九七番地)を襲用して今に至る。

水尾村 舊聯合戸長役場を襲用して慈敬寺内に置く。四十年同寺隣地に新築移轉す。以て今に至る。

青柳村 舊聯合戸長役場を襲用して、以て今に至る。

本庄村 大字南船木の舊聯合戸長役場を襲用したりしが、二十二年九月十一日安曇川氾濫して其害を被りしかば一時同大字山本勇平方に置き、二十三年山本儀兵衛宅に移り、二十九年九月湖水氾濫して又床上三尺以上の浸水を受け、一時本庄北尋常小學校に移りしに、十一日の暴風激浪に又破壊されんごしたりしかば、安曇川堤防上に避難し、臨時小屋掛にて村民救済復興に努めたり。同月下旬西光寺本堂を假役場として此に移り、三十年山本儀兵衛宅を修理して再び此に移り、大正四年十一月同大字味第二四九番地に移る

今の役場是なり。

新儀村 大字新庄の舊戸長役場を襲用したりしを、大正六年六月三十日大字新庄八四二番地に移り今に至る。

饗庭村 初め舊聯合戸長役場を使用したりしが二十二年六月大字饗庭三五五番地に移轉し、大正十二年六月同大字字東三一七番地に新築移轉し、今に至る。

第六章 議會

國會 明治二十二年二月法律第三號を以て衆議院議員選舉法を制定せらる。其議員選出は一府縣を數多の選舉區に分ち一選舉區より一名又は二名の議員を選出せしむ。此時滋賀縣は四區に分たれ五名の議員を選出せしめらる。即ち

- 第一區 滋賀郡、高島郡 一人
- 第二區 甲賀郡、野洲郡、栗太郡 一人
- 第三區 犬上郡、愛知郡、神崎郡、蒲生郡 二人
- 第四區 西淺井郡、東淺井郡、伊香郡、坂田郡 一人

とす。二十三年七月第一回選舉を行はれ第一區よりは膳所町杉浦重剛を選出す。翌年同氏辭職の爲め補缺選舉行はれ、本郡廣瀬村大字長尾川島宇一郎當選す。第二回二十五年二月の選舉にまた同人當選

す。同年十二月三十日衆議院解散せられ、翌二十七年三月一日選挙を行はる。此時大溝村大字勝野中田長茂當選す。六月二日再び解散せらる。

三十五年三月選挙區を改正して大選區の制とし、市部一人、郡部五人とす。大正八年五月再び小選挙區を置く。舊によりて滋賀郡と同一區なり。(第一區大津市、第二區滋賀高島、第三區甲賀野洲栗太、第四區蒲生神崎、第五區愛知犬上、第六區坂田東淺井伊香各一人)九年の選挙に際し、本法によりて施行せらる。此時安曇村安原仁兵衛(政友會所屬)當選す。十四年五月、再び改正せられて小區劃を廢し、一縣五人とす。

縣會 明治十一年七月府縣會規則制定せられ、一郡又は一大區より五人以下の議員を選出して府縣の行政に參與せしめらる。依て滋賀縣にては十一月各郡の縣會議員選挙委員を定め、翌年三月各郡より一定の議員を選出せしめて四月大津に滋賀縣會を開く。此を縣會の始とす。此時本郡の定數四名なり。其任期は四ケ年にして二ケ年半數改選とす。二十三年府縣制布かれて新に縣會の制を定めらる。此時本郡より選出したるは二人なり。是本郡の定員にして爾來異動なく以て今日に至れり。第一回以來本郡の議員當選者は左の如し。

高島郡選出縣會議員表

| | | | | | |
|------|--------|-----------|-------|------|--------|
| 勝野村 | 福井彌平 | 長尾村 | 川島宇一郎 | 平ヶ崎村 | 松本彦平 |
| 田中村 | 西川長兵衛 | (以上第一回當選) | | | |
| 安井川村 | 多谷重一 | 勝野村 | 福井三四郎 | 長尾村 | 稻垣治兵衛 |
| 永田村 | 大友與四郎 | 濱分村 | 岩佐徳一 | 今津村 | 橋本兵次郎 |
| 青柳村 | 藤井新右衛門 | 海津町 | 磯野源兵衛 | 勝野村 | 中田長茂 |
| 西庄村 | 野崎源左衛門 | 川上村 | 前川源治郎 | 饗庭村 | 川原林徳明 |
| 今津村 | 前川理八 | 西庄村 | 赤崎太四郎 | 永尾村 | 高島信茂 |
| 大溝町 | 白崎清兵衛 | 新儀村 | 西川廉吉 | 新儀村 | 河合與右衛門 |
| 今津町 | 石田與太郎 | 安曇村 | 安原仁兵衛 | 西庄村 | 大西平吉 |
| 饗庭村 | 上原海老四郎 | | | | |

郡會 明治二十三年五月法律第三十六號を以て郡制を定め、郡に自治體の權能を附せり。郡の機關は郡會及び郡參事會より成立す。郡參事會は郡長及び名譽職郡參事會員四名を以て組織し、名譽參事會員三名は郡會議員中より互選し、一名は府縣知事にて郡會議員若くは郡内町村の公民中より選任す。郡會は各町村選出議員と大地主議員とより成り、郡長を議長とす。各町村は一名の郡會議員を選擧し其任期は六年にして毎三年に其半數を改選す。大地主とは郡内にて町村税を賦課せらるゝ土地にして其地價總計壹萬圓以上を有するものを云ふ。其選出議員は町村選出議員定數外に其定數の三分一の員數を大地主にて互選す。任期は三年とし毎三年に全數を改選す。又大地主の數、定數に至らざる時は選挙によらずして當然議員たり。町村選出議員の被選挙權は町村公民にして町村會の選挙に參與する

を得るものとす。三十二年三月法律第六十五號にて郡制を改定す。此時大地主議員を廢し、議員は直接選舉法によりて之を選び、議長、郡參事會員は議員の互選とせり。

高島郡にては明治三十一年四月一日を以て郡制施行されたるを以て同月三十日議員の選舉を行へり各町村一名を選舉し其數十七名、郡制廢止まで異同なし。當時郡制に依りて郡長を議長としたりしが翌年十月六日議員によりて議員外より議長副議長を選舉せり。本郡にては大地主なかりしを以て大地主議員なし。議員選舉は大正十二年三月郡制廢止までに六回舉行されたり。

郡會議員表

第一回 (明治三十一年四月三十日當選)

| 住 所 | 氏 名 | 生 年 月 日 | 備 考 |
|----------|---------|-------------|-----|
| 海津村大字海津 | 石井田 典三松 | 安政二年四月十日 | |
| 劍熊村大字小荒路 | 大村 愼五郎 | | |
| 西庄村大字石庭 | 野崎 源左衛門 | 慶應二年十二月二十七日 | |
| 百瀬村大字新保 | 黒川 孫 夫 | | |
| 川上村大字日置前 | 松 本 彦 平 | 安政三年六月十七日 | |
| 今津町大字今津 | 玉木 新兵衛 | 慶應三年十月二日 | |
| 三谷村大字角川 | 善 積 久 吉 | | |
| 朽木村 | 平 井 久 吉 | | |

(議長代理者)三十一年八月八日辭職

| | | | |
|---------|-------------|------------|--|
| 廣瀬村大字長尾 | 川島 宇一 郎 | | |
| 安曇村大字 | 枝 治 兵 衛 | | |
| 高島村大字高島 | 西 川 新 内 | 安政元年一月十四日 | |
| 大溝村大字永田 | 白崎 清兵衛 | 同 六年七月二十三日 | |
| 水尾村大字 | 高 島 信 茂 | | |
| 青柳村大字 | 志 村 市 太 郎 | | |
| 本庄村大字川島 | 中 田 長 富 | 安政元年七月二十三日 | |
| 新儀村大字 | 足 立 平 左 衛 門 | | |
| 饗庭村大字饗庭 | 川 原 林 橋 郎 治 | 文久三年十一月二十日 | |
| 廣瀬村大字 | 横 井 芳 兵 衛 | | |
| 新儀村大字藁園 | 川 合 藤 左 衛 門 | | |
| 大溝村大字勝野 | 福 井 彌 平 | | |
| 海津村大字海津 | 磯 野 源 治 郎 | 萬延元年一月五日 | |
| 新儀村大字藁園 | 西 川 廉 吉 | | |

第二回 (明治三十六年十月五日當選)

| | | | |
|---------|----------|------------|--|
| 海津村大字海津 | 石井田 典三松 | 安政二年四月十日 | |
| 劍熊村大字浦 | 前川 捨次郎 | 文久元年九月二十二日 | |
| 西庄村大字蛭口 | 赤崎 太四郎 | 安政二年三月二十五日 | |
| 百瀬村大字澤 | 岡本 四良右衛門 | 同 二年九月八日 | |
| 川上村大字福岡 | 前川 源治郎 | 同 五年四月五日 | |

四十年九月二十四日辭職

同 年八月二十九日補缺
三十二年一月二十六日補缺

(議長代理者)三十二年二月二十三日補缺
三十二年十月六日議長

同 日副議長

| | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| 今津村大字上弘部 | 早川清一 | 同 | 六年六月二十四日 |
| 三谷村大字椋川 | 山田富藏 | 同 | 二年七月二十八日 |
| 朽木村大字市場 | 熊瀬伊右衛門 | 同 | 三年二月二十一日 |
| 廣瀬村大字上古賀 | 井上徳藏 | 明治四年十月二十四日 | |
| 安曇村大字田中 | 山崎鶴吉 | 慶應三年四月四日 | |
| 高島村大字鹿ヶ瀬 | 金田惣吉 | 安政五年三月十九日 | |
| 大溝町大字勝野 | 井上直和 | 同 | 四年八月十八日 |
| 水尾村大字鴨 | 林 紋次 | 弘化三年六月二十一日 | |
| 青柳村大字上小川 | 北川嘉右衛門 | 嘉永三年二月二十三日 | |
| 本庄村大字川島 | 中田長富 | 安政元年七月二十三日 | |
| 新儀村大字新庄 | 大藤兵五郎 | 同 | 四年四月七日 |
| 饗庭村大字熊野本 | 桑原八左衛門 | 慶應二年十二月四日 | |
| 新儀村大字北畑 | 吉廣義右衛門 | 明治八年十月十三日 | |
| 百瀬村大字澤 | 岡本佐治平 | 嘉永四年四月十二日 | |
| 百瀬村大字中庄 | 伊吹甚三郎 | | |
| 青柳村大字下小川 | 田中米藏 | | |

第三回 (同四十年十月五日當選)

| | | | |
|----------|--------|-----------|--|
| 海津村大字海津 | 磯野源治郎 | 萬延元年一月五日 | |
| 鯉熊村大字小荒路 | 高木榮藏 | 安政二年九月十三日 | |
| 西庄村大字蛭口 | 松村彌左衛門 | 明治六年八月七日 | |

第四回 (同四十年十月五日當選)

| | | | |
|-----------|--------|-------------|---------|
| 百瀬村大字中庄 | 伊吹三次郎 | 慶應二年六月十五日 | |
| 川上村大字深清水 | 足立市太良 | 明治五年六月二十一日 | |
| 今津町大字今津 | 前川利吉 | 慶應三年七月十一日 | |
| 三谷村大字角川 | 角川米吉 | 明治五年五月十三日 | |
| 朽木村大字市場 | 吉川佐兵衛 | 慶應二年六月十五日 | |
| 廣瀬村大字上古賀 | 井上徳藏 | 明治四年十月二十四日 | |
| 安曇村大字田中 | 安原仁兵衛 | 同 | 七年十月十八日 |
| 高島村大字黒谷 | 岸田源八 | 慶應元年十一月十四日 | |
| 大溝町大字永田 | 白崎清兵衛 | 安政六年七月二十三日 | |
| 水尾村大字武曾横山 | 廣部榮藏 | 明治三年十二月二十日 | |
| 青柳村大字下小川 | 田中米藏 | 慶應三年七月十三日 | |
| 本庄村大字川島 | 中田長富 | 安政元年七月二十三日 | |
| 新儀村大字太田 | 淺見安左衛門 | 同 | 三年九月十七日 |
| 饗庭村大字饗庭 | 川原林橋郎治 | 文久三年十一月二十日 | |
| 川上村大字日置前 | 松本彦平 | | |
| 西庄村大字石庭 | 野崎源兵衛 | 慶應二年十二月二十七日 | |

第四回 (明治四十四年十月五日當選)

| | | | |
|----------|-------|------------|--|
| 海津村大字海津 | 江端榮治郎 | 明治五年八月二十七日 | |
| 鯉熊村大字小荒路 | 高木興市 | 元治元年十月十二日 | |
| 西庄村大字蛭口 | 赤崎太四郎 | 安政二年三月二十五日 | |

(副議長)大正元年九月二十一日死亡

| | | |
|----------|--------|------------|
| 百瀬村大字知内 | 中川太七 | 明治三年十一月十九日 |
| 川上村大字日置前 | 松本彦平 | 安政三年六月十七日 |
| 今津町大字弘川 | 前川理平 | 文久二年七月二十一日 |
| 三谷村大字角川 | 角川米吉 | 明治五年五月十三日 |
| 朽木村大字小入谷 | 山本道太郎 | 同十三年五月一日 |
| 廣瀬村大字下古賀 | 熊谷重勝 | 慶應元年三月十日 |
| 安曇村大字三尾里 | 前川藤吉 | 同三年十二月二日 |
| 高島村大字高島 | 西川新内 | 安政元年一月十四日 |
| 大溝町大字勝野 | 河方八十郎 | 慶應二年七月三日 |
| 水尾村大字鴨 | 加藤傳藏 | 元治元年十二月五日 |
| 青柳村大字青柳 | 藤井菊治郎 | 明治二年八月五日 |
| 本庄村大字川島 | 中田長富 | 安政元年七月二十三日 |
| 新儀村大字北畑 | 吉廣義右衛門 | 明治八年十月十三日 |
| 饗庭村大字深溝 | 上原海老四郎 | 同十一年九月十六日 |
| 劍熊村大字山中 | 圓水忠三郎 | 安政元年六月十二日 |
| 本庄村大字北船木 | 小島儀助 | 明治五年十月十五日 |

第五回 (大正四年十月五日當選)

| | | |
|----------|-------|-------------|
| 海津村大字海津 | 松本忠治郎 | 明治八年七月二日 |
| 劍熊村大字小荒路 | 清水善造 | 明治元年九月四日 |
| 西庄村大字石庭 | 野崎源兵衛 | 慶應二年十二月二十七日 |

大正四年四月二十五日死亡
大正元年十二月十五日補缺
同四年七月二十日補缺

| | | |
|----------|--------|------------|
| 百瀬村大字澤 | 寺田平兵衛 | 明治十二年六月十日 |
| 川上村大字福岡 | 前川新兵衛 | 同九年一月七日 |
| 今津町大字梅原 | 石田興太郎 | 同五年十一月五日 |
| 三谷村大字途中谷 | 安本安次郎 | 文久二年八月六日 |
| 朽木村大字栲生 | 田中三四郎 | 慶應元年三月四日 |
| 廣瀬村大字中野 | 中村常五郎 | 明治六年一月十三日 |
| 安曇村大字田中 | 早藤貞一郎 | 同十年八月十二日 |
| 高島村大字黒谷 | 岸田源八 | 慶應元年十一月十四日 |
| 大溝町大字永田 | 白崎清兵衛 | 安政六年七月二十三日 |
| 水尾村大字宮野 | 鈴木嘉藏 | 明治十二年三月一日 |
| 青柳村大字上小川 | 松田鶴松 | 慶應三年六月三日 |
| 本庄村大字北船木 | 小島儀助 | 明治五年十月十五日 |
| 新儀村大字安井川 | 桑原小太郎 | 慶應三年二月八日 |
| 饗庭村大字熊之本 | 桑原六兵衛 | 文久元年四月十三日 |
| 饗庭村大字饗庭 | 川原林橋郎治 | 文久三年十一月二十日 |
| 青柳村大字青柳 | 馬場三郎助 | 明治十六年七月九日 |

第六回 (大正八年十月五日)

| | | |
|---------|-------|-------------|
| 海津村大字海津 | 古川岩次郎 | 明治十九年三月二十九日 |
| 劍熊村大字山中 | 粟津松治郎 | 慶應三年四月二十五日 |
| 西庄村大字蛭口 | 赤崎太四郎 | 安政二年三月二十五日 |

(議長七年ヨリ)
(副議長)
(議長至六年)
七年十一月十五日死亡
六年八月十二日辭職
六年十一月一日補缺
八年二月五日補缺

| | | | |
|-----------|--------|-------------|----------------------|
| 百瀬村大字中庄 | 伊吹良三 | 明治十六年七月二十六日 | |
| 川上村大字深清水 | 藤原悦治 | 同十七年十月二十七日 | |
| 今津町大字弘川 | 前川理平 | 同十九年十月八日 | |
| 三谷村大字角川 | 善積勇治郎 | 慶應三年一月十四日 | (議長十年十一月ヨリ) |
| 朽木村大字村井 | 上藤吉松 | 明治五年十月十三日 | |
| 廣瀬村大字中野 | 清水安治 | 同十年三月二十八日 | |
| 安曇村大字西萬木 | 地村寅藏 | 同十三年十月五日 | |
| 高島村大字黒谷 | 柳原藤十郎 | 慶應二年十一月十六日 | |
| 大溝町大字勝野 | 村田猪三郎 | 明治十六年三月二十日 | |
| 水尾村大字武曾横山 | 八田完吉 | 同五年一月二十日 | (議長十年十月マデ) |
| 青柳村大字青柳 | 馬場三郎助 | 同十六年七月九日 | |
| 本庄村大字四津川 | 早藤英良 | 明治元年十一月十一日 | |
| 新儀村大字太田 | 清川幸助 | 同十一年九月二十三日 | |
| 饗庭村大字饗庭 | 川原林橋郎治 | 文久三年十一月二十日 | (議長十一年三月ヨリ) |
| 西庄村大字上開田 | 大西平吉 | 明治五年十月十八日 | (副議長十年二月ヨリ)九年八月二十日補缺 |

町村會 明治十一年郡區町村編制法に於て町村に町村會を設くる事を許し、十三年四月區町村會法發布せられ、區町村の公共に關する事件、及び其經費の支出徵收法を議するが爲に區町村會及び其事の關係する數町村聯合町村會を設くることを明にせらる。本郡に於ける町村會聯合町村會の事今詳にする資料を得ず。唯本庄村に於て十八年に三十二人の議員を有したることを知るべきのみ。其選出數は

南船木四津川横江濱川島各村六人づゝ、北船木村八人とす。二十二年四月町村制實施せられ、町村會を組織せしめられ、町村の代議機關成立して町村は獨立の自治團體となれり。是現制なり。

各町村會議員の定數は各町村とも十二人とす。町村制實施當時より今日に至るも異動なし。

選舉有權者表

| | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 大正七年 | 二、六七三 | 四、〇〇三 | 六、四四四 | 五・二八 | 七・九一 | 一三・三一 |
| 同十二年 | 四、六三〇 | 六、六三二 | 六、六〇七 | 九・六九 | 一三・八八 | 一三・八三 |

町村會

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 町 | 會 | 村 | 會 | 合 | 計 |
| 會數 | 議員 | 會數 | 議員 | 會數 | 議員 |
| 定數 | 現員 | 定數 | 現員 | 定數 | 現員 |
| 選舉有權者 | 選舉有權者 | 選舉有權者 | 選舉有權者 | 選舉有權者 | 選舉有權者 |
| 大正七年 | 二 | 二四 | 三三 | 二四 | 三三 |
| 同十二年 | 二 | 二四 | 三三 | 二四 | 三三 |

第七章 財政

租稅 明治元年八月、諸國稅法、其土風を辨せずして新法を施行する時は民情に戻るにより、一兩

年は姑く舊慣に仍るべきことを達せらる。四年七月二十四日布告して藩を廢し縣を置きしにより、租税は一般の法則に改むべしと雖も、因襲の久しき、一時に改正せば却て民情に悖るべし、因て本年は悉く舊慣に仍らしむ。同年十一月大藏卿大久保利通等地租改正の意見を上る。從來の租税は主として農にとりて國計を立てたりしが、其田租も各藩、境を接して輕重の差甚しきものあり、政府は西洋商税の法を採り農税を輕し、且又負擔を公平ならしめんと欲し、即ち正院は其意見を採り、改租施設の方略を商議し、先づ地券法二十八條を定め、十二月先づ之を東京内に行ひ、尋で各府縣管内の市街地及び其貫族地に行ふ。五年二月地所賣買の自由を全國に公布し、且其賣買毎に地券を附與するの規則を公布す。七月地券規則を追訂し、全國民有の地所其賣買の有無に關せず、一般に地券を發行し、本年十月を限り其發行を卒へしむべき事を各地方長官に督令せり。滋賀縣にては各區に命じて地引繪圖を提出せしめ、又十二月各郡に地租改正取調掛を任命す。

六年二月九日、各地方市街地士族卒居住地従前地子免除の分本年より悉皆收租せしむ。六月八日田畑石高の稱を廢し、總て反別を以て稱せしむ。七月二十八日、全國の地租を改定するの詔を發せらる。同日布告して舊來水陸二田貢納の制は皆之を廢し、地券の整查を了するに從て地價三分の一を以て地租と定め、米納を廢して貨幣を以て納めしめ、且又以前官廳及び郡村の公費を地所に賦課したるものは總て地價に換賦し、其金額は本租金の三分の一より超過するを得ざらしむ。十年一月減租の勅あり、

地價百分の二分五厘と定めらる。

六年七月三日滋賀縣は八等出仕中村耕を以て地券專務總括を命じ、九月五日大屬に進めて地券專務長とす。太政官より七月三十日達して九年を以て各地方一般改正の期限と定め盡力成績を奏せしむ。本郡にては六年七年の間に於て其事業を終り西濱村は六年四月野帳を提出し、八月下調帳及び繪圖を提出す。九月地券を下附せらる。七年より八年一月に互りて更正野帳(地券臺帳)を作製せり。從來の租税徵收法に因襲して免定を發したるは明治六年を最後なりとす。同免定には六月の太政官達に従ひて石高の稱を廢し、反別を以てしたる他に様式に於て藩政時代のものと同異なるところなし。而して滋賀縣令松田道之代理滋賀縣參事籠手田安定の名を以て發せられたり。

地所の名目は六年三月定めて八種とす。一、皇宮地、二、神地、(宗廟、山陵及官國幣社府縣社の所在地)三、官廳地、(官省使寮司府縣廳の本廳支廳、裁判所、海陸軍本營分營を置くの地)、四、官用地(官省使寮司府縣、一時の官用に供する地)五、官有地(各所の公園並に山林野澤湖沼の類、從來無税の地所にして官簿に記載するの地)、六、公有地(原野秣草場の類郡村市坊、一般に公同共有する有税若くは無税の地)、七、私有地(人民所有の水田、陸田、宅地、其他各種の地)、八、除税地(郡村市坊に屬する埋葬地、榜示場、行刑場、並に道路、堤塘、郷社佛寺等の地)是なり。十一月地所名稱の區別を改定し、官有地、民有地の二に大別し、更に數種に細別す。其官有地に屬するもの、第一種

地券を發せず、地租を課せず、區費を賦せず、其地は皇宮地、皇城離宮等、及び神地伊勢大廟、山陵官國幣社、府縣社、民有地に非ざる神祠佛寺とす。第二種、地券を發し、地租を課せず、區費を賦す。府縣所有の地所は地券を發せずして唯之を帳簿に記載す。其地は皇族賜邸、及び官用地、院省、使寮司府縣の本廳支廳、裁判所、警視廳、陸海軍の本營分營、其他政府の許可を得たる所用の地所とす。第三種、地券を發せず、地租を課せず、區費を賦せず、若し人民の請望に應じて其地所を貸與する者あれば即ち其借地料及び區費を賦課す。其他は山嶽、丘陵、林藪、原野、河海、湖沼、池澤、溝渠、堤塘、道路、水田、陸田、宅地等の民有地に非らざる者、鐵道線路の基地、電信架線の基地、燈明臺の基地、各地の舊蹟名區及び公園等の民有地に非ざるもの、人民所有の權利を失ひたる地所、民有地に非ざる堂宇の基地、並に墳墓の基地、行刑場とす。第四種は地券を發せず、地租を課せず、區費を賦す、其地は佛寺、大中小の學校、説教場、療病院、濟貧院等の民有地に非ざるものとす。民有地に屬するものは第一種、地券を發し、地租を課し、區費を賦す。其地は人民各自所有たる確認を帯びたる耕地、宅地、山林等とす。此等の地を賣買するは人民の自由に一任すと雖も、潰地、墾地等の如く大に其地形を變換するは官の許可を得せしむ。第二種、地券を發し、地租を課し、區費を賦す。其地は人民數人或は一村或は數村、其所有の確認を帯びたる學校、病院、郷倉、牧場、秣場、神社、佛寺等の官有地に非らざるもの、此等の地所を賣買するは其所有者公同の自由に一任すと雖も、潰地、墾

地の如き、大に地形を變換するは官の許可を得せしむ。第三種、地券を發し、地租を課せず、區費を賦せず、其地は官有地にあらざる墳墓の場地、及び民有に係る用悪二水路、溜池、堤塘、井溝の基地なりとす。此地目に基き改正せられたる土地の反別地價は十四年一月の現在に係るもの、既に土地の章に收められたれば之を參照すべし。當時の地租金九萬貳千四百六拾壹圓貳拾九錢壹厘とす。舊高と地價との對照は次表に擧ぐるが如し。

舊高地價對照表

| 町村名 | 石 | 高 | 舊 | 反 | 別 | 新 | 反 | 別 | 地 | 價 |
|-----|-------|-----|-------|---|-----|-------|-----|--------|--------|---|
| 海津 | 九〇九 | 八五六 | 一、〇九四 | 反 | 九〇五 | 四、二二〇 | 反 | 三〇〇 | 三二、六五八 | 四 |
| 西濱 | 一、五〇六 | 七六三 | 七四四 | 七 | 一 | 二、一七七 | 五〇八 | 四六、四三六 | 三八 | |
| 小荒路 | 五二二 | 八六〇 | 五〇八 | 五 | 〇一 | 二、四九五 | 二〇三 | 三一、九三二 | 〇五 | |
| 野口 | 三一三 | 二二〇 | 三七〇 | 二 | 〇四 | 七、五八〇 | 一一八 | 一九、四八六 | 四一 | |
| 在原 | 一六九 | 七六五 | 三四七 | 三 | 〇八 | 三、五三一 | 〇〇五 | 一一、一三八 | 三六 | |
| 浦中 | 四九七 | 五二〇 | 四一三 | 四 | 九一八 | 一、六八七 | 五二四 | 二四、七六九 | 四二 | |
| 山中 | 五八 | 三八三 | 四九六 | 八 | 二 | 一、六四一 | 四一七 | 二六、九三七 | 三五 | |
| 下口 | 五三七 | 九三〇 | 四一七 | 二 | 二五 | 一、七四五 | 八一四 | 二七、四一九 | 〇五 | |
| 蛭口 | 一、一九九 | 〇九九 | 一、四七〇 | 九 | 二九 | 一、四七〇 | 九二九 | 五一、二五八 | 二八 | |
| 寺久保 | 三七四 | 三八〇 | 一、〇一六 | 九 | 一一 | 一、〇一六 | 九一一 | 一九、七八一 | 六八 | |
| 石庭 | 四二一 | 七三〇 | 四、六七四 | 四 | 二一 | 四、六七四 | 四二一 | 一五、八一三 | 六九 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 南新保 | 今津 | 濱分 | 北仰 | 福岡 | 酒波 | 深清水 | 桂 | 日置前 | 大沼 | 中庄 | 辻内 | 知内 | 澤西 | 森西 | 新保(北) | 下開田 | 上開田 | 白谷 | 牧野 |
| 二七二・四四二 | 一、一六二・九一七 | 一、一二一・九四九 | 一、一六二・九一七 | 七七四・六九五 | 三六一・三五六 | 一、三三五・三七七 | 一、三三三・三三七 | 六九三・九八九 | 一、七四九・一九〇 | 一、〇三二・〇九〇 | 二二一・一五一 | 九一二・七四〇 | 一、五六〇・六九四 | 一、五七・六八七 | 八二四・一二〇 | 三三九・九〇〇 | 五九九・三〇四 | 二二一・一三七 | 五六九・七五三 |
| 一八七・〇二八 | 一、〇六三・六一四 | 一、〇六三・六一四 | 一、〇六三・六一四 | 五八六・〇二八 | 六九四・二二三 | 一、六三三・〇二四 | 一、六三三・〇二四 | 五一九・八一五 | 一、八〇九・〇二五 | 四一六・八一二 | 二五三・四〇〇 | 二五三・四〇〇 | 二四八・六一四 | 二四八・六一四 | 五七八・三二三 | 二四八・六一四 | 一、二四四・八一五 | 一、二四四・八一五 | 二、七四一・〇〇六 |
| 三三三・五一三 | 一、七三四・七一九 | 一、七三四・七一九 | 一、七三四・七一九 | 六三七・七一〇 | 一、〇五三・〇一一 | 二、一五二・〇二二 | 二、一五二・〇二二 | 七三二・〇二九 | 二七、五二九・一〇四 | 七〇六・三二一 | 九五六・七二七 | 七、三三三・四〇一 | 九三〇・一〇八 | 一、六八〇・九一二 | 一、八一七・九一九 | 三、五四三・六〇八 | 一、二四九・三二〇 | 一、二四九・三二〇 | 四、三四四・九一五 |
| 一三、二五六・七五 | 一、〇六三・六一四 | 一、〇六三・六一四 | 一、〇六三・六一四 | 四七、六一五・九一 | 二九、七〇九・八九 | 二、七二二・〇二九 | 二、七二二・〇二九 | 二二、七二二・〇二九 | 五〇、二一五・七八 | 一三、〇八三・一八 | 五三、五三九・八五 | 二九、七〇九・八九 | 四七、六一五・九一 | 一、〇六三・六一四 | 一、〇六三・六一四 | 二六、五二五・〇八 | 一三、一〇三・九四 | 二三、六六九・八三 | 二四、七七九・七二 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|----------|-----------|
| 大弘川 | 下弘部 | 上弘部 | 蘭生 | 梅原 | 岸脇 | 保坂 | 南生見 | 北生見 | 追分 | 角川 | 途中 | 椋川 | 杉山 | 天增川 | 狭山 | 市場 | 野尻 | 荒川 |
| 一、一〇〇・四四三 | 六三一・〇〇〇 | 四〇二・五八八 | 二五八・六二〇 | 七四八・一七八 | 六八四・八七九 | 八二五・五二〇 | 八七五・五〇〇 | 一二八・二三四 | 三五・六〇五 | 三五〇・〇一一 | 四〇・六二八 | 一七九・五七八 | 九七・六二一 | 四七・八八四 | 一八・四六五 | 一九一・四六〇 | 六五・三七〇 | 一一九・二〇〇 |
| 七九三・七二二 | 九〇五・二二四 | 三九七・四二八 | 一六一・〇〇七 | 五七八・七〇四 | 五〇八・七一九 | 八九・八二〇 | 九二・〇二三 | 一三五・五二四 | 四九・五〇八 | 三三〇・〇〇〇 | 三三〇・〇〇〇 | 一、一七九・五七八 | 九七・六二一 | 四七・八八四 | 一八・四六五 | 一九一・四六〇 | 六五・三七〇 | 一一九・二〇〇 |
| 一、一七八・一一一 | 九〇四・三〇九 | 一、三一四・九二二 | 八四四・八〇七 | 一三、一七二・七〇三 | 七五三・七〇九 | 一、七六〇・九〇三 | 七〇四・二〇九 | 六三〇・六二七 | 一、五三五・一一五 | 三、五五三・六二九 | 四四三・九〇九 | 五、七九一・〇二九 | 一、七一八・八二七 | 一、二二九・四二七 | 四九九・二二〇 | 一、二二六・九一四 | 七〇一・四一五 | 五、二八五・一二五 |
| 六二、〇二七・七九 | 二八、七五一・六七 | 二二、八九七・一三 | 一三、八八九・二三 | 三、六二四・〇〇 | 二二、七四四・一五 | 五、一五二・〇三 | 四、五七五・二四 | 七、〇一〇・四八 | 二、二二四・六二 | 一九、八一・三三九 | 二、〇五六・九六 | 一六、五二九・三四 | 二、六六九・三七 | 一、六〇〇・〇八 | 三七五・五三 | 一五、一一四・三三 | 六、二一一・八三 | 一一、二八九・〇七 |

| | | | | |
|-----|---------|---------|------------|-----------|
| 麻生 | 一六三・三三三 | 三三三・七〇二 | 一一、一一四・三〇二 | 一八、五四三・八七 |
| 地子原 | 一一二・二一八 | 一七九・一〇八 | 四、七七六・三〇二 | 一一、〇五五・六五 |
| 雲洞谷 | 二七四・八〇四 | 四〇八・五〇三 | 六、〇四一・一〇一 | 一五、三七五・七四 |
| 桑原 | 三〇・三一〇 | 一六二・八〇二 | 二、五五三・七〇三 | 四、六八四・八一 |
| 能入家 | 一八四・〇〇〇 | 一五七・二一八 | 四、九二三・一二九 | 一〇、五八四・九三 |
| 小入谷 | 六八・二四四 | 二二五・五一一 | 六三九・〇二四 | 三、四九二・八六 |
| 生杉 | 一五九・二二五 | 二二五・五一一 | 一、〇二〇・八一三 | 六、八二九・六九 |
| 中牧 | 六一一・〇六二 | 二一一・七二四 | 六六三・八一 | 六、八一・二四 |
| 古屋 | 六一・〇一六 | 一八四・五〇四 | 一、八四七・四〇六 | 七、〇七六・一九 |
| 古川 | 一三一・〇三〇 | 一八四・五〇四 | 四、九九七・九〇七 | 八、二四一・一三 |
| 柏川 | 五四・一七四 | 二二一・五〇五 | 二、四八八・九〇三 | 七、六二五・五四 |
| 岩瀬 | 一四三・五一〇 | 二二一・五〇五 | 八八八・二二七 | 六、四四八・八八 |
| 宮前坊 | 二二三・六六二 | 三七二・二一〇 | 四、二六三・八一二 | 一四、九五四・六八 |
| 平良 | 二〇・三五〇 | 五三・〇二九 | 二、九一三・三〇〇 | 二、六五五・七二 |
| 枋生 | 一一九・六九〇 | 一 | 五、五一三・七〇六 | 八、七四四・一二 |
| 村井 | 六〇・八三三 | 一 | 五、九四八・六一〇 | 六、八九四・四五 |
| 大野 | 三七・八〇〇 | 一 | 一、八九二・〇〇一 | 三、八〇九・三九 |
| 小川 | 七一・七六〇 | 一二四・二〇九 | 四、八五五・四一二 | 三、三四三・六四 |
| 下賀 | 八一六・三七九 | 一 | 三、五三五・三〇一 | 五七、六九六・五七 |
| 上古賀 | 六二二・五〇〇 | 一 | 六、九八九・四一七 | 六二、〇四四・三四 |

| | | | |
|------|-----------|-----------|------------|
| 長尾 | 四二九・一九一 | 四、一五九・三二五 | 二七、七五三・三八 |
| 中野 | 二七七・三二七 | 三、〇四七・八〇六 | 二四、八〇〇・一七 |
| 南古賀 | 五八一・九一〇 | 一、八一〇・九〇六 | 三二、三〇二・三六 |
| 田中 | 三、二四三・三三五 | 六、一二八・一〇七 | 一九九、六七四・四三 |
| 三尾里 | 五七一・〇九一 | 五三七・六二六 | 四〇、八三六・六四 |
| 西万木 | 一、八四七・六七〇 | 一、五〇七・五〇一 | 一〇五、四五九・五五 |
| 五番領 | 二八五・五五五 | 二四四・三二七 | 二一、一四〇・九六 |
| 常磐木 | 一、二七五・二五三 | 一、二九五・六二六 | 八九、八八四・九三 |
| 高島 | 五二〇・一二八 | 五、二〇〇・五一四 | 四八、四二六・六八 |
| 拜戸 | 三七三・一八六 | 二、三八四・七二四 | 三一、八七八・一五 |
| 鹿ヶ瀬 | 一七〇・〇〇〇 | 四、〇五〇・六一六 | 二二、〇一一・九四 |
| 黒谷 | 二八〇・〇〇〇 | 四、一四二・〇二二 | 二八、三六九・五九 |
| 畑谷 | 一八二・五三〇 | 二、八七六・〇一六 | 一一、八五一・三五 |
| 勝野 | 六五六・二〇八 | 二、九三九・四二三 | 六八、五九七・二四 |
| 永田 | 一、二六八・〇二二 | 一、〇五七・九一三 | 四五、四〇二・七八 |
| 音羽 | 四一四・五四〇 | 三、六三九・八二五 | 二一、九二三・五一 |
| 鴨野 | 一、五三三・三七九 | 二、一一一・八〇六 | 一三四、九八二・二二 |
| 宮野 | 七〇三・六二五 | 八三三・七一九 | 四八、四一二・三二 |
| 野田 | 三二八・六七〇 | 八二三・〇一二 | 三七、四五二・一八 |
| 武曾横山 | 一、八三五・五八〇 | 五、六五二・七二一 | 一一五、〇一三・二〇 |

| | | | | |
|-----|-----------|---|-------------|--------------|
| 青柳 | 二、二〇三・四五〇 | — | 二、〇二七・四一三 | 一一六、二七一・九二 |
| 上小川 | 四四七・一〇三 | — | 四四一・八一二 | 二五、五二三・四六 |
| 下小川 | 一、二七二・六九二 | — | 一、七四八・一一一 | 六一、二一三・九九 |
| 横江 | 四五三・七七〇 | — | 三八〇・四一五 | 一四、四八一・八三 |
| 南船木 | 六三一・四五〇 | — | 七二九・九二六 | 二三、二一三・二八 |
| 北船木 | 八四六・八三〇 | — | 一、三二四・九一八 | 四一、九一一・〇九 |
| 川島 | 一、六〇〇・三六六 | — | 一、三〇一・〇〇五 | 六〇、〇七八・七九 |
| 四津川 | 八二九・三〇四 | — | 八三〇・五一六 | 三〇、二一五・〇六 |
| 横江濱 | 一六・〇〇〇 | — | 八二・〇〇五 | 三、四一三・四六 |
| 新庄 | 七七九・九二六 | — | 一、〇六八・一一二 | 四二、三二二・〇七 |
| 安井川 | 六六〇・一六七 | — | 一、一六三・二〇七 | 五四、一〇八・七一 |
| 北畑 | 九六四・二六〇 | — | 六九四・六二五 | 四八、三五二・四四 |
| 藁園 | 二、二四五・六四七 | — | 一、八七三・八一三 | 八六、三七〇・七〇 |
| 太田 | 三四五・六五一 | — | 一、九二二・九〇八 | 八七、三四六・三二 |
| 饗庭 | 二、五一六・五六二 | — | 一、三、一五三・六〇六 | 一一八、三三四・一二 |
| 熊野本 | 八一二・〇三五 | — | 一、八七七・〇一三 | 四四、九一二・二〇 |
| 旭 | 二、七五七・九九七 | — | 一、七〇五・三二一 | 一五〇、四二七・二五 |
| 針江 | 三六二・〇五四 | — | 一、二一六・七一一 | 四二、三〇七・七〇 |
| 深溝 | 一、三〇〇・九七〇 | — | 一、〇五五・四一七 | 一八、七一八・六七 |
| 計 | — | — | 三二九、八六〇・〇〇二 | 三、六九八、四四四・九一 |

右表中舊反別は田畑宅地の反別高にして、新反別は其村所屬の山林原野等一切を包括したる高なるが故に、其差異の甚しきものあるなり。

從來運上冥加等の名目の下に徴收せられたる雑税は八年一月一日限り廢止せられたり。

十七年三月地租條例を制定して從來の地租改正條例等を廢止せらる。地券は二十二年三月廢止せられ、今の登記の法を布かる。(地價は第四章土地參照すべし)

二十二年五月今津村大字今津第百十二番地に滋賀縣收稅部の出張所を設置したるを今津稅務所の權與とす。二十三年十月收稅部出張所を廢して今津直稅分署、今津間稅分署を置かる。二十六年十二月一日二分署は廢止され、新に今津收稅署を置かる。二十九年十一月一日又收稅署は廢止されて今津稅務署を置かれ、其管轄區域を高島郡一圓と定めらる。以て今日に至る。

本郡の國稅地方稅について其沿革を記述すべき資料を得ざりしを以て此に之を記述するを得ざるは遺憾なり。

國稅縣稅町村稅表

| 町村名 | 國稅 | 縣稅 | 町村稅 | 一戸當 | 一人當 |
|------------|-------------|-------|--------|--------|--------|
| 海津 | 大正八年 一九七三四 | 四二三四 | 八、六七五 | 八四、三四九 | 一七、三七 |
| 同 | 同 九年 六、〇八〇 | 六、五五六 | 一一、七二六 | 六二、七六三 | 二〇、八九五 |
| 同 | 同 十年 一三、〇八二 | 八、三四七 | 一一、五三五 | 八六、四九三 | 二〇、四五二 |
| 第三編 第七章 財政 | | | | | 一〇七七 |

| 同 | 廣 瀨 | | | | | 朽 木 | | | | | 三 谷 | | | | | 今 津 | | | | | |
|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
| | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 |
| 一〇八、四〇七 | 一一〇、二六〇 | 一九、〇三六 | 一九、一五三 | 一四、三九四 | 一八、二八五 | 一八、〇二七 | 一九、七三九 | 三三、〇八〇 | 三三、二一〇 | 一八、四〇一 | 一七、三三二 | 三、四九四 | 二、四三六 | 二、五七六 | 二、七三四 | 一、二六二 | 四一、四五三 | 四三、九三〇 | 三五、一六〇 | 三六、七四六 | 三七、五七九 |
| 二四、八四六 | 一四、四七二 | 一五、一三七 | 一三、四三〇 | 一五、〇六四 | 一一、四六一 | 六、九五〇 | 二一、〇三〇 | 一八、六七五 | 一九、四四四 | 一四、四四〇 | 九、〇四八 | 六、四二六 | 五、四八九 | 六、四〇九 | 五、一三六 | 三、一五三 | 二七、四二六 | 二五、〇二四 | 一八、八九五 | 一一、六四七 | |
| 三〇、七二七 | 一九、四四四 | 一四、四一八 | 一七、一五六 | 一五、七五六 | 一七、五六〇 | 一〇、四一〇 | 二五、七三七 | 三二、八八六 | 二四、二九八 | 三三、五五六 | 一六、〇六一 | 二二、七二八 | 二二、六九五 | 一一、〇五五 | 一〇、六六三 | 八、四四五 | 二六、八〇七 | 二二、六二六 | 一九、〇四八 | 一七、二六六 | |
| 一〇七九 | 一八九、五三二 | 九八、五六六 | 九九、六八一 | 九三、〇八六 | 九六、三四六 | 六九、七九七 | 七六、八七八 | 八五、三六〇 | 七九、三六五 | 七六、一四二 | 五〇、一七四 | 七二、三五八 | 六六、三三九 | 六六、四五三 | 五五、四六四 | 三七、四四二 | 九九、四六六 | 一〇七、六七九 | 九九、九一六 | 八九、三〇〇 | 七二、二七四 |
| 二二五、四六九 | 一八九、五三二 | 九八、五六六 | 九九、六八一 | 九三、〇八六 | 九六、三四六 | 六九、七九七 | 七六、八七八 | 八五、三六〇 | 七九、三六五 | 七六、一四二 | 五〇、一七四 | 七二、三五八 | 六六、三三九 | 六六、四五三 | 五五、四六四 | 三七、四四二 | 九九、四六六 | 一〇七、六七九 | 九九、九一六 | 八九、三〇〇 | 七二、二七四 |
| 三九、八九五 | 三四、二四二 | 一八、五五五 | 一九、九四四 | 一八、五四六 | 二〇、二九四 | 一五、五六一 | 一五、七四九 | 一六、五五一 | 一五、〇六四 | 一二、七〇二 | 九、七七九 | 一一、九二四 | 一一、五三四 | 一一、四七九 | 一〇、二四六 | 七、〇一七 | 一九、四九八 | 二二、四七六 | 一九、三三六 | 一四、八七五 | |

| 川 上 | | | | | 百 瀬 | | | | | 西 庄 | | | | | 劍 熊 | | | | | | |
|---------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 十二年 | 十一年 |
| 二二、五三〇 | 二四、六五〇 | 二〇、四六〇 | 三三、一八〇 | 三三、二六二 | 七、五四一 | 七、七七七 | 七、七七九 | 八、二六七 | 八、一四八 | 六、二六六 | 六、七三六 | 六、五七九 | 六、六五七 | 一五、〇七八 | 五、四〇二 | 五、五三二 | 五、八元 | 六、〇七〇 | 八、六六五 | 一八、七五七 | 一九、九七六 |
| 三三、一五七 | 一九、五九六 | 二二、五七九 | 一六、二五〇 | 九、九三三 | 一四、九六〇 | 一三、二六五 | 一四、六六六 | 一一、一〇五 | 六、七九二 | 一一、六九三 | 一〇、三〇七 | 一一、六六一 | 八、七四〇 | 五、一三〇 | 一〇、四六四 | 九、〇六二 | 一〇、四七〇 | 七、八八二 | 四、六六七 | 八、五四五 | 七、三九三 |
| 二五、二〇五 | 二八、〇四九 | 二四、二五三 | 二六、〇一七 | 一六、四三四 | 一三、四三七 | 一八、一八七 | 一三、一五五 | 一九、〇四八 | 一三、七九六 | 八、九一三 | 二二、四七〇 | 二二、一五五 | 二二、九四五 | 九、六一九 | 一三、〇〇一 | 一三、九二九 | 一三、六七三 | 一一、三三一 | 八、五〇六 | 一〇、七〇三 | 一二、四四〇 |
| 一〇六、六四四 | 一一、六二二 | 一〇三、五六二 | 九六、九一三 | 八六、三三七 | 六九、一一二 | 七九、五七二 | 七〇、一四二 | 七五、六三〇 | 五六、九〇七 | 六六、三三六 | 七二、六六七 | 七二、四四四 | 六九、九九二 | 七一、八七〇 | 七四、八四一 | 六八、八〇五 | 七三、三七二 | 六三、三四〇 | 五四、三七三 | 一〇〇、五四二 | 一〇六、一五三 |
| 二〇、九六五 | 二二、七四九 | 二二、七四九 | 一九、九五三 | 一五、九〇八 | 一六、八九六 | 一六、八〇七 | 一五、六四二 | 一六、五四六 | 一一、二三四 | 一五、九六五 | 一七、三四四 | 一七、四五四 | 一五、八一 | 一六、四二四 | 一七、一七六 | 一六、一六一 | 一七、〇三六 | 一四、七一 | 一二、七六七 | 二四、五五八 | 二四、五五八 |

郡町村財務 郡制の定むるところにては、郡の支出は郡有財産の収入其他の雑収入を以てし、猶不足するときは郡内の各町村に分賦す。其分賦の割合は各町村前年度の直接國稅及び府縣稅の徵收額に依り、各町村は其分賦せられたる額を其豫算に編入して町村稅として徵收すべきものとす。本郡の財産収入、雑収入の額は極めて僅少にして歳入の大部分は町村分賦額に依れり。町村に於ても其必要の支出及び法律命令に依て賦課せられし支出は、郡に於けるものと同じく、財産より生ずる収入、其他の雑収入を以てし、不足ある場合は町村稅及び夫役現品を賦課徵收することとせられたるが、各町村に於ても郡と同じく財産の収入、雑収入を以て町村會計の支出を維持するに足らず、大部分は町村稅の賦課を以てせり。

郡及び町村の會計年度は政府の年度に準じ、其年度の収入支出は、豫知し得べき金額を見積り、其年度の一定期間前に歳入出豫算表を調製して、郡會、町村會の議決を取るべきものとす。郡歳出に於て主位にあるものは勸業費なり。會議費又は土木費之に次げり。臨時部に於ては勸業費、土木費の補助費を其主要なるものとす。町村に於ての歳出は教育費第一位を占め、役場費之に次ぐ。

郡費歳出入累年決算表

| 明治四十五年 大正元年 | 町村分賦額 | | 臨時計 | 經常 | 最高支出 | 臨時 | 最高支出 | 計 |
|----------------|-------|----|--------|-------|-------|--------|--------|--------|
| | 其他 | 其他 | | | | | | |
| 同 二年 | 三,〇〇〇 | 八八 | 一七,三〇〇 | 三,〇〇〇 | 六,六〇〇 | 一九,〇〇〇 | 一三,〇〇〇 | 二六,〇〇〇 |
| 同 三年 | 二,四〇〇 | 二九 | 五,五七 | 七,二〇〇 | 七,八九 | 六,〇〇〇 | 二,三九九 | 一三,八九二 |
| 同 四年 | 一,五〇〇 | 三八 | 四,四九 | 七,一〇 | 七,一〇 | 五,〇九 | 一,九〇〇 | 一三,〇〇〇 |
| 同 五年 | 一,〇八〇 | 二七 | 二,〇〇〇 | 三,一八 | 七,二二 | 四,三〇 | 一,九七七 | 一三,五五五 |
| 同 六年 | 一,四七九 | 四〇 | 二,一五六 | 四,〇〇 | 七,五六一 | 四,四八一 | 二,一七一 | 一三,〇四四 |
| 同 七年 | 一,五八一 | 四六 | 二,八三 | 四,八五 | 七,八七 | 五,九四 | 三,一四六 | 一三,七五二 |

町村費歳入出決算表 (單位未滿四拾五入セリ)

| 町村名 | 大正十年度 | | | | 大正十一年度 | | | | 大正十二年度 | | | |
|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-----------|-------|------------|--------|-----|-----|-----|
| | 經常部 | 臨時部 | 經常部 | 臨時部 | 經常部 | 臨時部 | 經常部 | 臨時部 | 經常部 | 臨時部 | 經常部 | 臨時部 |
| 同 八年 | 一四,七九 | 五二六 | 二,三三六 | 二七,六〇 | 九,四八 | 勸業費 五,三三八 | 五,九一七 | 勸業補助費 三,三六 | 一五,三六六 | | | |
| 同 九年 | 二二,七七一 | 一,三四三 | 四,九〇 | 二七,〇五 | 一五,四〇 | 勸業費 七,二五五 | 七,九〇七 | 勸業補助費 三,三六 | 二三,三三八 | | | |
| 同 十年 | 三,五九七 | 一,三三九 | 一八,九七 | 四,五三四 | 一七,〇三 | 勸業費 七,七四 | 三,七〇 | 土木費 一四,一一〇 | 三九,八三 | | | |
| 同 十一年 | 四,四七五 | 六 | 八七,八六 | 九,三九 | 六,五九 | 土木費 四,五七 | 八七,七三 | 勸業補助費 四,〇〇 | 九二,三九 | | | |
| 町村名 | 大正十年度 | | | | 大正十一年度 | | | | 大正十二年度 | | | |
| 海津 | 一六,八〇 | 一五,四九 | 七六 | 一四,九二 | 二二,六五 | 二五 | 一五,二七 | 一,九九 | 七四 | | | |
| 劍熊 | 三,七七八 | 二〇,七七一 | 一,五五六 | 一六,一九 | 一四,九六 | 八四七 | 一八,一六 | 一六,〇三 | 四〇 | | | |
| 西庄 | 五〇,七七 | 四二,六六 | 四,四七 | 二六,四六 | 三,八六 | 二六五 | 一八,四六 | 一五,九八 | 二八四 | | | |
| 百瀬 | 五〇,三七 | 四,〇〇 | 三,六七 | 三六,二七 | 二九,九二 | 二,九四 | 三七,三九 | 三,七八 | 七七 | | | |
| 川上 | 六,七九 | 元,七七八 | 二七,五八 | 三八,八四 | 二九,九四 | 八,一五 | 三五,四九 | 二七,三六 | 七,五八 | | | |
| 今津 | 五五,四四 | 三,八六一 | 二〇,四五 | 四八,七二 | 三二,八一 | 一五,三三 | 三七,五五 | 三,三〇 | 一,六〇 | | | |
| 三谷 | 二〇,三九 | 一九,三六一 | 七三六 | 一九,五九 | 一六,六八 | 九八六 | 五一,二四 | 二四,九六 | 一一,七四 | | | |
| 朽木 | 九,六七 | 三三,〇一〇 | 三二,〇三 | 四,七九 | 三,八二 | 六,一三 | 四四,四二 | 三七,八九 | 四,三三 | | | |
| 廣瀬 | 三,一五 | 一八,〇四 | 二,二九 | 二,二六 | 一七,七五 | 一,五六 | 二〇,八四 | 一七,四四 | 一,四八 | | | |
| 安曇 | 三,〇七 | 二九,九九 | 九〇〇 | 三〇,六八 | 一九,一〇 | 三,八九 | 三四,六六 | 二九,四五 | 一,六八 | | | |
| 高島 | 三,六三 | 一九,〇八 | 三,七五 | 一五,五五 | 一六,九七 | 三,八九 | 二四,八四 | 一九,五五 | 二,五九 | | | |
| 大溝 | 二五,一四〇 | 二〇,九三 | 九〇 | 三三,〇五六 | 一九,四四 | 八,八二 | 二七,九二 | 一八,五二 | 三,五九 | | | |

郡有財産 郡有財産として郡林を經營したりしが、郡制廢止と共に縣に移管せり。郡林の事は第九章産業第二節林業參照すべし。猶郡有財産慶成館あり。

慶成館は明治十九年郡長山部總俊の勸誘により本郡内有志の醵金を以て設立したる所なり。二十三年八月今津村外十六ヶ村組合にて買収し、三十一年郡制施行と同時に郡有財産に編入せり。建坪六十三坪餘、二階建なり。公衆會合及び其他の事務所の用に供す。又館内に物産陳列所あり。縣下各郡中公會堂の嚆矢なり。慶成館の名は縣知事申井弘の命じたる所なり。郡制廢止の爲め大正十一年八月十日郡農會に引續きたり。

町村基本財産

町村基本財産部落有財産表 (大正八年三月末日)

| 町村名 | 土地價格 | 立木價格 | 建物價格 | 諸公債價格 | 諸株券價格 | 諸債券價格 | 現金 | 其他財産價格 | 合計 |
|-----|--------|------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------|-----------------|
| 西庄 | 三、三三三 | 一五五 | 二五 | | | | 七、五七九 八三六 | | 七、七三四 一四、三四六 |
| 劍熊 | 一〇、四六五 | | | | | 三五 | 五、六九三 | | 二六、四八三 |
| 海津 | 九、〇四四 | 七〇 | 一、二六〇 | | | 四〇 | 四、一五〇 | | 四、六〇〇 八三〇 |
| 町村名 | 土地價格 | 立木價格 | 建物價格 | 諸公債價格 | 諸株券價格 | 諸債券價格 | 現金 | 其他財産價格 | 合計 |

| 町村名 | 土地價格 | 立木價格 | 建物價格 | 諸公債價格 | 諸株券價格 | 諸債券價格 | 現金 | 其他財産價格 | 合計 |
|-----|--------|------|------|-------|-------|-------|-----------------|--------|------------------|
| 百瀬 | 四、八三三 | | | | | | 八、〇四八 一六四 | | 九、九四一 五、四二六 |
| 川上 | 四、五二三 | 一四〇 | | | | | 一、四一七 | | 一六、六〇七 四、五〇七 |
| 今津 | 二、〇〇〇 | 一七四 | | | | | 七、四一〇 三六三 | | 八、七九〇 二、五九七 |
| 三谷 | 三、五〇〇 | | | | | | 八〇 | | 九、六八〇 三、五〇九 |
| 朽木 | 二、五〇〇 | | | | | | 一、三二六 二、三五六 | | 一五、七六〇 三、五二五 |
| 廣瀬 | 一〇、八三三 | | | | | | 二、六三九 | | 一四、四三四 一〇、〇三五 |
| 安曇 | 一、八五九 | 六八〇 | | | | | 一、四七六 | | 一七、五五六 三、〇九二 |
| 高島 | 一五、一八七 | | | | | | 一〇、〇六〇 四、五〇〇 | | 二二、五七〇 一五、六三七 |
| 大溝 | 三、〇〇〇 | | | | | | 四、七四四 | | 五、一〇六 七、九四一 |
| 水尾 | 九、七四四 | | | | | | 一、六六一 三、六一 | | 一九、七六一 一三、三六三 |
| 青柳 | 二、〇七 | | | | | | 七、一五六 | | 一、一五五 |
| 本庄 | 三、四八八 | | | | | | 二、八八八 五四 | | 三、三三四 五、三二 |
| 新儀 | 九〇 | | | | | | 六、九三三 三三 | | 二、一三三 |

高島郡誌

一〇八六

| | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 總計 | 五、八二〇 | 一、〇四五 | 七、七七一 | 一、八〇〇 | 三、九〇〇 | 五、三三六 | 二、三三八 | 一〇、九八八 | 一一、三二八 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|

土地立木建物へ見積價格ナリ、公債株券債券ハ時價ナリ、右書ハ村基本財産、左書ハ部落有財産

表 (大正十二年三月末)

| 町村名 | 土地價格 | 立木價格 | 建物價格 | 諸公債證書價格 | 諸株券價格 | 諸債券價格 | 現金 | 其他財産價格 | 合計 |
|-----|--------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|---------|---------|
| 海津 | 八、八九三 | 二〇 | 一、八〇〇 | 二〇 | 四、七五五 | 四、七五五 | 二、九〇七 | 一〇、七三〇 | 一〇、七三〇 |
| 釧熊 | 二、九〇六 | 二 | 二 | 三、五〇 | 二 | 二 | 九、五四九 | 一〇、〇九七 | 一〇、〇九七 |
| 西庄 | 三、三六三 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 一〇、〇九七 | 一〇、〇九七 | 一〇、〇九七 |
| 百瀬 | 五、〇三九 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 八、三三三 | 一〇、二四七 | 一〇、二四七 |
| 川上 | 七、八七八 | 三、〇五〇 | 二 | 二 | 二 | 二 | 七、八五六 | 一、九、三三四 | 一、九、三三四 |
| 今津 | 八、九八 | 一、八四五 | 二 | 二 | 二 | 二 | 一〇、五四六 | 二、三、九九 | 二、三、九九 |
| 三谷 | 三、五〇〇 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六、二七五 | 一〇、六五五 | 一〇、六五五 |
| 朽木 | 四、九〇二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 一、七五五 | 三、一、三五 | 三、一、三五 |
| 廣瀬 | 一〇、〇〇一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二、四、八九〇 | 七、三、九二一 | 七、三、九二一 |
| 合計 | 一〇、〇〇一 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二、七、九〇一 | 一〇、四、一五 | 一〇、四、一五 |

第八章 教育

| 安曇 | 高島 | 大溝 | 水尾 | 青柳 | 本庄 | 新儀 | 饗庭 | 總計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|---------|----------|
| 三、九四四 | 一〇、七五九 | 一〇、〇八五 | 九、七四四 | 五、一〇七 | 三、七五〇 | 一、八〇〇 | 五、三三〇 | 二七、九〇八 |
| 九三 | 四、七五〇 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六、二二六 | 四、七〇一 |
| 一、三三 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 八、七〇一 | 七、〇〇〇 |
| 二、〇〇 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 一、五、四〇〇 | 二、〇、六〇五 |
| 二、七、七五 | 二、七、三五 | 七、八三三 | 三、五六一 | 九、五七八 | 三、三六九 | 一〇、七三三 | 一、三、七五六 | 一、七、二七四 |
| 二、六、七六 | 二、六、八八 | 九、五四八 | 二、五、四六 | 二、三、八二 | 五、五〇七 | 一、八、八三三 | 一、四、〇五八 | 一、五、九、六九 |
| 二、六、七六 | 二、六、八八 | 九、五四八 | 二、五、四六 | 二、三、八二 | 五、五〇七 | 一、八、八三三 | 一、四、〇五八 | 一、五、九、六九 |
| 二、六、七六 | 二、六、八八 | 九、五四八 | 二、五、四六 | 二、三、八二 | 五、五〇七 | 一、八、八三三 | 一、四、〇五八 | 一、五、九、六九 |

貢進生 明治元年朝廷江戸を収めて後、江戸幕府の昌平校開成校を復興し、二年六月昌平校を大學校と改めて本校とし、國學漢學を授けしめ、開成所を之に附屬せしめて大學南校とし、洋學を授けし

む。三年七月南校に外國教師を聘し、諸藩に生徒を貢進せしむ。貢進生は十萬石以上の大藩より三人十萬石以下五萬石以上の中藩より二人、五萬石以下の小藩より一人を出し、十六歳以上二十一歳以下、學力品行共に優秀のものとしり。中には情實によりて或は門地によりて選ばれたるも、概して貢進生は一藩中第一の秀才なりき。大溝藩の貢進生は井出松三郎と云ふ。從來藩士中には積極的意氣缺乏せる故進んで應ずるものなし。松三郎の父は五郎八と云ふ、幕末分部氏に聘せられて江戸より來りしものなり。松三郎は江戸ツ子にして江戸辯なり、江戸の事情に通ずるが故に適當なるべしとの單なる理由によりて選ばれしなり。學力品行一藩に秀でしとの點に於ては或は當らざりしが如し。松三郎は入學以來主として英語を學びしが如く、その大溝に歸りしより當時の幼童が片言交りに英語をはなすに至れり。四年廢藩と共に貢進生の制廢し、松三郎も學ならずして大溝に歸れり。松三郎其後間もなく歿す。貢進生に對する藩の出費は

自明治三年九月 金百八十九兩三分、永一貫六百九十九文餘

至同 四年七月

自同 四年七月 金三十三兩一分三朱、錢十六貫五百四文

至同 八月中

普通教育 四年春、笠井致、小畑卓藏、堀田精造等大溝に教諭所を開き、六歳以上の男女に讀書、筆道、算術を教授す。是二年三月二十三日太政官、令して府縣に小學校を設置せしめたるに由る。大溝藩より令して大溝町及び近村男女兒童をして修學せしむ。又市場寶慶寺に教諭所を置き舊大溝藩士

新堂什八郎、堀田清造をして教授の任に當らしむ。又海津村にも教訓所あり。共に小學校を置くに及び之を廢す。五年七月犬上縣は小學建營說諭書を發し、六年二月滋賀縣より立校方法及び告諭管下人民書と云ふを發し小學校の設置を諭す。

五年八月學制を公布せらる。全國を八大學區とし、每區に大學校各一所を設くることとす。其下に中學區、小學區あり。大阪、京都の二府及び兵庫、奈良、堺、和歌山、徳島、豊岡、高知、名東、香川、岡山、滋賀の十一縣を第三大學區とす。一大學區を若干中學區、一中學區を若干小學區に分つ。第一中學區より第八中學區までは大阪、京都府に屬し、滋賀縣は第九中學區より第十二中學區までとす。一中學區に中學一校を置く。高島、滋賀、栗太三郡を第九中學區とし、大津を中學位置と定む。第十中學區は甲賀、野洲、蒲生三郡、中學位置八幡、第十一中學區は神崎、愛知、犬上三郡、中學位置彦根、第十二中學區は坂田、淺井、伊香、中學位置長濱とす。然れども學制改正によつて其設立を見るに至らず。小學區は縣下に七百四十七小學區あり。第九中學區の第一小學區は海津にして同區より南方に次第して栗太郡に終る凡て百八十二小學區なり。滋賀縣下の中小學區は六年十一月五日に定めらる。學校名は最初番號にて呼び、七年村名にて呼び、八年校名を定む。當時の校票は

第三大學區
第九中學區
第何小學區 何々學校

二小學區以上聯合して置きしものは第何小學聯區とす。

海津の犬上縣廳出張所々長小牧某は教育に熱心にして第一區長野崎源内に諭し、海津は郡中第一の繁盛の地にして其模範地なれば他區に卒先して小學校を創設せんことを勸む。依て第一區内の海津、西濱、知内、蛭口、石庭、森西六ヶ町村の戸長等協力して明治五年十月十七日海津中小路町福善寺を假に教場に充て學校を創設す。是郡内小學校の始めなり。其後六年七年の間に各地に設置し、八年末には其校數六十八校あり。其校名位置を示せば左表の如し。但し當時の小學區番號は悉く詳ならず。

高島郡學校表 (表中洋數字は十四年改正小學區數なり)

| 小學區 | 校名 | 位置 | 聯合區 | 創設年月 |
|-----|----|-------|-------------------|--|
| 一 | 興化 | 海津中小路 | 海津、西濱、知内、蛭口、石庭、森西 | 明治五年 ^年 月 ^日 一〇、一七 |
| ? | ? | 西濱 | 西濱 | 同六、三、二六 |
| 三 | 化成 | 知内 | 知内 | 同七、一、一 |
| | 愛則 | 澤 | 澤、森西、辻 | 同七、四、一 |
| | ? | 山中 | 山中、小荒路、在原、下、浦 | 同六、五、二〇 |
| | ? | 小荒路 | 小荒路 | 同九、七、一五 |
| 四 | 訓明 | 蛭口 | 蛭口、石庭 | 同六、一、二 |
| 八 | 思服 | 牧野 | 牧野、白谷、上開田 | 同 |
| 九 | 慣習 | 下開田 | 寺久保、下開田 | 同? |
| | 迪蒙 | 中庄 | 大沼、中庄、新保 | 同七、七、二〇 |
| | 階晉 | 井ノ口 | 福岡、濱分、酒波、北仰 | 同七、七、? |

楷晉校ヨリ分離

山中校ヨリ分離
興化校ヨリ分離

| 小學區 | 校名 | 位置 | 聯合區 | 創設年月 |
|-----|----|-----|------------------|----------|
| 一五 | 盛德 | 伊井 | 伊井、三谷 | 同七、七、五 |
| 二三 | 時習 | 今津 | 今津、南新保 | 同六、一〇、一五 |
| 二四 | 知德 | 弘川 | 弘川、大供、下弘部、上弘部、蘭生 | 同六、二、? |
| 二五 | 生材 | 上弘部 | 蘭生、上弘部、下弘部 | 同八、八、一 |
| 一七 | 日進 | 南生見 | 南生見 | 同六、八、? |
| 一八 | 深淵 | 北生見 | 北生見、追分 | 同六、五、? |
| 一九? | 角川 | 角川 | 角川 | 同八、五、三 |
| | 德潤 | 保坂 | 保坂、途中谷 | 同八、五、? |
| 72 | 天狹 | 天增川 | 天增川、狹山、大杉 | 同九、四、一五 |
| 65 | 安渡 | 古川 | 古川、柏 | 同八、二、? |
| 66 | 大井 | 村井 | 大野、村井 | 同七、? |
| 67 | 栃生 | 栃生 | 栃生 | 同八、九、一 |
| 68 | 平川 | 平良 | 平良、小川 | 同八、八、? |
| 69 | 雲洞 | 雲洞谷 | 雲洞谷 | 同八、七、一五 |
| 70 | 富谷 | 地子原 | 地子原 | 同八、二、八 |

楷晉校ヨリ分離

知徳校ヨリ分離

四四 五六 52 55

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 國 | 廣 | 柳 | 藤 | 青 | 在 | 松 | 通 | 專 | 正 | 武 | 冠 | 鴨 | 音 | 永 | 鴻 | 鳳 | 鹿 | 黑 | 柳 |
| 修 | 義 | 原 | 江 | 井 | 江 | 郷 | 心 | 修 | 行 | 曾 | 岡 | 水 | 羽 | 田 | 溝 | 嶺 | 瀬 | 谷 | 山 |
| 河 | 新 | 太 | 藤 | 横 | 今 | 川 | 南 | 北 | 宮 | 武 | 横 | 鴨 | 音 | 永 | 勝 | 畑 | 鹿 | 黑 | 拜 |
| 原 | 庄 | 田 | 江 | 江 | 在 | 島 | 船 | 船 | 野 | 曾 | 山 | 羽 | 羽 | 田 | 野 | ヶ | 谷 | 戸 | |
| 市 | | | 江 | 濱 | 家 | 鳥 | 木 | 木 | | | | | | | | 瀬 | 谷 | 戸 | |
| 育 | | | 江 | 濱 | 家 | 鳥 | 木 | 木 | | | | | | | | 瀬 | 谷 | 戸 | |
| | | | 江 | 濱 | 家 | 鳥 | 木 | 木 | | | | | | | | 瀬 | 谷 | 戸 | |
| | | | 江 | 濱 | 家 | 鳥 | 木 | 木 | | | | | | | | 瀬 | 谷 | 戸 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 八 | 七 | 七 | 一〇 | 九 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 九 | 七 | 六 | 六 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 |
| 八 | 七 | 三 | 三 | 三 | 三 | 二 | 二 | 四 | 四 | 一〇 | 四 | 五 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

在江校ヨリ分離
在江校ヨリ分離
冠岡校ヨリ分離

61 60 三三 76 75 77 74 73 71

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 富 | 興 | 藤 | 柳 | 萬 | 三 | 達 | 志 | 臨 | 資 | 弘 | 長 | 熊 | 蒙 | 針 | 凌 | 宮 | 雲 | 峽 | 麻 |
| 坂 | 道 | 樹 | 橋 | 樹 | 尾 | 枝 | 應 | 川 | 善 | 知 | 尾 | 野 | 諭 | 畑 | 雲 | 前 | 溪 | 川 | 生 |
| 富 | 高 | 上 | 青 | 西 | 三 | 常 | 田 | 田 | 南 | 中 | 長 | 下 | 上 | 中 | 能 | 宮 | 市 | 荒 | 麻 |
| 坂 | 島 | 小 | 柳 | 万 | 尾 | 磐 | 中 | 中 | 古 | 野 | 尾 | 古 | 古 | 牧 | 家 | 前 | 場 | 川 | 生 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 八 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 六 | 七 | 六 | 六 | 九 | 八 | 七 | 八 | 八 | 八 |
| 八 | 七 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 二 | 三 | 二 | 二 | 一〇 | 四 | 一 | 二 | 三 | 一 |

十月十四日開校式
八年六月三十日開校式
雲溪ヨリ分離

| | | | | | |
|----|-----|----|---------------------------|---------|--------------------|
| 四一 | 勉哉 | 辻澤 | 日爪、岡、五十川、米井、辻澤、今市、上野 | 同七、三、五 | |
| 二四 | 古津 | 木津 | 木津 | 同七、五、一五 | |
| 四二 | 四十二 | 霜降 | 森、田井、霜降、山形、堀川、針江、深溝、北畑、藁園 | 同七、三、? | 分離の際、北畑村は國修校に屬したるか |
| 三三 | 明善 | 森 | 森、田井、霜降、山形、堀川、針江 | 同八、三、一〇 | 四十二校より分離 |
| 三四 | 針江 | 針江 | 針江 | 同九、一、二〇 | 明善校より分離 |
| 三六 | 丸澤 | 深溝 | 深溝 | 同八、三、一五 | 四十二校より分離 |
| | 靜里 | 藁園 | 藁園 | ? | 四十二校より分離 |

學科は最初は寺子屋式にして多くは、讀書算術習字なりしを、八年十二月縣にて學則を定めて上中下三等とし、三等を通じて修學年限を八ヶ年とす。十二年二月本縣令第十一號を以て普通科高等科各三ヶ年と定む。十四年十一月縣甲第七十八號にて高等科中等科初等科に分ち通して八ヶ年の就學年限とす。是より先き十二年五月郡制施行により從來の學區を廢し、十四年六月二十六日更に小學區を定む。海津村を第一番とするは六年の制の如し。當時は一郡限りにて何郡何番小學區とし、第七十七番に終れり。

十九年九月一日小學校令の改正により學區を一聯合村とす。當時本郡には聯合村戸長役場十九所ありしを以て海津村を第一學區とし、漸次南に數へて第十九學區に終る。學科は高等、尋常、簡易の三科とす。又大に學校を廢合して其數を減す。校名も新に其所在地名を取れり。其稱呼は

何々科何々小學校

とす。此時高等科程を置きしものなし。尋常科程たりしは今津、田中、眞長浦、大鳴、青柳、安井川、饗庭の各小學校とす。而して此等の各校には簡易科を附設せり。其他の郡内各校は皆簡易科程とす。十一月一日實施せり。學區、學校位置、其所屬町村名左の如し。

明治十九年學區學校表

| 學區順次 | 學校位置 | 學校資格 | 學區々域及組合町村 |
|------|----------|------|-------------------|
| 第一 | 海津町 | 簡易科 | 海津町、西濱村 |
| 第二 | 小荒路村 | 同 | 小荒路村、野口村 |
| | 山中村 | 同 | 山中村、浦村、下村 |
| | 在原村 | 同 | 在原村 |
| 第三 | 蛭口村 | 同 | 蛭口村、寺久保村、石庭村 |
| | 上開田村 | 同 | 上開田村、下開田村 |
| | 牧野村 | 同 | 牧野村、白谷村 |
| 第四 | 澤村 | 同 | 澤村、森西村、辻村 |
| | 中庄村 | 同 | 中庄村、新保村、大沼村 |
| | 知内村 | 同 | 知内村 |
| 第五 | 桂村 | 同 | 桂村、深清水村、日置前村ノ内平ヶ崎 |
| | 福岡村 | 同 | 福岡村、濱分村、北仰村 |
| | 日置前村ノ内伊井 | 同 | 日置前村ノ内伊井、同三谷、酒波村 |

| | | | |
|-----|---------|---------|--------------------------|
| 第六 | 今津村 | 尋常科、簡易科 | 今津村、南新保村、大供村、弘川村、饗庭村ノ内木津 |
| 第六 | 支校 上弘部村 | 同 | 上弘部村、下弘部村、蘭生村、梅ヶ原村、岸脇村 |
| | 保阪村 | 簡易科 | 保阪村、途中谷村、杉山村 |
| 第七 | 角川村 | 同 | 角川村 |
| | 北生見村 | 同 | 北生見村、南生見村、追分村 |
| 第七 | 椋川村 | 同 | 椋川村 |
| | 天増川村 | 同 | 天増川村、狭山村 |
| 第八 | 市場村 | 同 | 市場村、野尻村、岩瀬村、宮前坊村 |
| | 雲洞谷村 | 同 | 雲洞谷村 |
| 第八 | 荒川村 | 同 | 荒川村 |
| | 地子原村 | 同 | 地子原村 |
| 第九 | 麻生村 | 同 | 麻生村 |
| | 中牧村 | 同 | 中牧村、古屋村、生杉村、小入谷村 |
| 第九 | 平良村 | 同 | 平良村、桑原村、小川村 |
| | 能家村 | 同 | 能家村 |
| 第十 | 村井村 | 同 | 村井村、大野村 |
| | 枋生村 | 同 | 枋生村 |
| 第十 | 古川村 | 同 | 古川村、柏村 |
| | 高島村 | 同 | 高島村、拜戸村 |
| 第十一 | 黒谷村 | 同 | 黒谷村、鹿ヶ瀬村 |
| | 畑村 | 同 | 畑村 |
| 第十二 | 勝野村 | 尋常科、簡易科 | 勝野村、音羽村、永田村 |

| | | | |
|-----|-----------|---------|----------------------------|
| 第十三 | 鴨村 | 同 | 鴨村、宮野村、野田村 |
| 第十四 | 支校 武曾横山村 | 同 | 武曾横山村、田中村ノ内上寺 |
| | 田中村ノ内南市 | 同 | 田中村(内上寺を除く)、三尾里村、五番領村、常磐木村 |
| 第十五 | 青柳村 | 同 | 青柳村、西萬木村、上小川村、下小川村、横江村 |
| | 南舟木村 | 簡易科 | 南舟木村、北舟木村、川島村 |
| 第十六 | 四津川村ノ内今在家 | 同 | 四津川村、横江濱村 |
| | 安井川村ノ内川原市 | 尋常科、簡易科 | 安井川村、新庄村、北畑村 |
| 第十七 | 支校 藁園村 | 同 | 藁園村、太田村 |
| | 中野村 | 簡易科 | 中野村、長尾村、南古賀村 |
| 第十八 | 下古賀村 | 同 | 下古賀村、上古賀村 |
| | 饗庭村ノ内米井 | 尋常科、簡易科 | 饗庭村(内木津を除く)、熊野本村 |
| 第十九 | 支校 旭村ノ内霜降 | 同 | 旭村、深溝村、針江村 |

町村制の實施により二十二年五月一町村を一學區と定め、學區番號を改む。朽木村從來の三學區を合せて第八學區とし以下順次繰り上げたり。又校名は新町村名を用ひ、一村内二校以上あるときは第一第二の稱を附せり。例へば朽木村に於ける十一校は市場を第一、古川を第二、村井を第三、枋生を第四、平良を第五、針畑を第六、能家を第七、雲洞谷を第八、地子原を第九、麻生を第十、荒川を第十一とし、簡易科朽木第何小學校と稱したるが如し。二十六年三月小學校令の改正によりて學區を廢し、又簡易科を廢して簡易科の學校は皆尋常科程とす。而して一村一校の方針にて教授の統一を圖れ

り。校名は又新町村名を用ひて何々尋常小學校、高等科併置は何々高等小學校と稱し、以て今日に至れり。各校の沿革は次に列擧する所を見るべし。

本郡各小學校に明治天皇昭憲皇后の御影、今上天皇皇后兩陛下の御影及び勅語謄本御下附の年月は左の如し。

| 校名 | 明治天皇昭憲皇后 | 天皇陛下 | 皇后陛下 | 勅語謄本 |
|---------|--------------|------------|-----------|---------------|
| 海津尋常高等 | 明治二十八年四月十五日 | 大正六年十月六日 | 大正六年十月六日 | 明治二十三年十一月十一日 |
| 劍熊尋常高等 | 同 四十一年十二月七日 | 同 | 同 | 同 四十一年十二月七日 |
| 西庄尋常高等 | 同 三十七年十二月廿一日 | 同 四年十月二十九日 | 同 五年十月三十日 | 同 三十七年十二月二十一日 |
| 百瀬尋常高等 | ? | 同 | 同 | 同 二十三年十一月八日 |
| 川上尋常高等 | ? | 同 | 同 | 同 二十七年十月二日 |
| 今津尋常高等 | 明治二十七年七月十八日 | 同 | 同 | 同 二十三年十二月一日 |
| 三谷尋常高等 | 同 四十四年四月二十四日 | 同 | 同 | 同 四十一年十月十四日 |
| 朽木東尋常高等 | ? | 同 | 同 | 同 二十四年一月六日 |
| 朽木西尋常 | 同 四十四年四月二十四日 | 同 六年十月六日 | 同 | 同 |
| 廣瀬北尋常高等 | 同 二十七年四月二十日 | 同 四年十月二十八日 | 同 | 同 二十四年七月三十日 |
| 廣瀬南尋常 | 同 | 同 六年十月六日 | 同 | 同 二十四年七月二十五日 |
| 安曇尋常高等 | ? | 同 四年十月二十九日 | 同 五年十月三十日 | 同 二十三年十一月三十日 |
| 高島尋常高等 | 同 二十四年九月二日 | 同 六年十月六日 | 同 六年十月六日 | 同 二十四年六月一日 |

| | | | | |
|--------|--------------|------------|-----------|--------------|
| 黒谷尋常 | 同 三十九年四月二十一日 | 同 | 同 | 同 二十四年十一月一日 |
| 大溝尋常高等 | 同 二十七年九月十五日 | 同 四年十月二十九日 | 同 五年十月三十日 | 同 二十四年一月十七日 |
| 水尾尋常高等 | 同 二十七年四月二十四日 | 同 | 同 | 同 二十七年四月二十四日 |
| 武曾横山尋常 | 同 | 同 六年十月六日 | 同 六年十月六日 | 同 二十六年十月三日 |
| 青柳尋常高等 | 同 三十年四月十七日 | 同 四年十月二十九日 | 同 五年十月三十日 | 同 二十三年十二月一日 |
| 本庄尋常高等 | 同 三十三年十一月二日 | 同 | 同 | 同 四十三年五月十七日 |
| 新儀尋常高等 | 同 四十二年六月一日 | 同 四年十月二十八日 | 同 | 同 四十年五月二十九日 |
| 饗庭尋常高等 | 同 二十七年七月三日 | 同 四年十月二十九日 | 同 | 同 二十三年十二月二日 |

海津尋常高等小學校 明治五年十月十七日海津村、西濱村、知内村、蛭口村、石庭村、森西村聯合にて海津中小路町福善寺に小學校を創設し、二教員を置き全生徒を甲乙丙丁の四組に分つ。然るに當時學區廣く遠きは一里半ありて兒童通學に不便なりしかば、明治六年三月廿六日各村分離して各一校を置く。七年四月十七日字中内二二五番地に移轉し、校名を興化と稱す。十九年十一月一日學制改正に伴ひ簡易科程を改稱し、簡易科海濱小學校と改稱し、西濱村を本校の組合學區とす。二十二年五月町制實施に際し、海津小學校と改稱し、補習科を置く。二十六年四月一日小學校令改正により簡易科補習科を廢し、尋常科程の小學校とし、海津尋常小學校と改稱す。二十九年三月年程度の高等小學校を併置し海津尋常高等小學校と改稱す。三十九年高等科の修業年限を四ヶ年とす。大正四年六月字西内に新築の校舍落成したるにより明治四十四年以來設置の分教場を廢し、大正七年四月本館一棟落成して全部の兒童を此に收容す。(舊校舍は村役場に使用す)

劍熊尋常高等小學校 明治六年五月二十日山中村常樂寺禪堂を校舎に充て、一校を創設し、滋賀縣第四十小學校ニ稱す。此劍熊西尋常小學校の前身なり。九年七月十五日小荒路村字田谷常榮寺に分教場を設く、此劍熊東尋常小學校の前身なり。十六年四月四日在原村に分教場を設く。此劍熊北尋常小學校の前身なり。十九年十一月簡易科程の三校ニす。二十六年四月學制の改正により劍熊村大字山中に劍熊西尋常小學校、大字小荒路に劍熊東尋常小學校、大字在原に劍熊北尋常小學校を置く。三十四年四月劍熊西尋常小學校に二ヶ年程度の高等科を併置し、大字野口字國境に劍熊東尋常小學校國境分教場を置く。四十一年十二月一日三校を併合して大字小荒路に劍熊尋常小學校を置き、同時に大字在原に第一分教場、大字野口字國境に第二分教場を設く。四十三年十一月七日高等科を併置し、劍熊尋常高等小學校ニ稱し、大字山中、第三分教場を置く。大正五年九月十一日第三分教場を廢す。西庄尋常高等小學校 明治六年十一月二日蛭口村に第四番小學區訓明學校を置き、蛭口石庭二村を學區ニし、牧野村に第八番小學區思服學校を置き、牧野、白谷、上開田三村を學區ニし、下開田村に第九番小學區慣習學校を置き、下開田、寺久保二村を學區ニす。七年四月十八日慣習學校を寺久保村に移す。十一年三月九日訓明學校を西之莊學校ニ改稱す。十五年三月二日思服學校を白谷村に移し、十六年五月又牧野村に復歸し、第二分校を白谷村に置く。第一分校は上開田村に在り、設置年月詳ならず。十七年二月白谷村第二分校燒失す。三月慣習學校を廢し下開田村は思服學校に、寺久保村は西之庄學校に通學することニせり。但し下開田村は第一分校に通學す。十九年十一月從來の二校を廢し、上開田、下開田、白谷、牧野、石庭、寺久保、蛭口七村を第三學區ニし、簡易科程の三學校を置く。蛭口村に西庄小學校(通學區域蛭口、石庭、寺久保三村)上開田村に開田小學校(通學區域上開田、下開

田)牧野村に牧野小學校(牧野白谷)とす。二十二年五月西庄校を西庄第一小學校、開田校を西庄第二小學校、牧野校を西庄第三小學校ニ改稱す。二十六年四月三校ニも尋常科程に改め第一校を蛭口尋常小學校、第二校を上開田尋常小學校、第三校を牧野尋常小學校ニ稱す。二十九年四月蛭口尋常小學校に二ヶ年の補習科を併置し、三十四年三月之を廢す。三十七年十二月廿一日三校を廢し、大字寺久保第七百八十四番地に校舎を新築して西庄尋常小學校を設置し、大字白谷に分教場を置く。四十年三月卅一日修業二ヶ年の高等科を併置し、西庄尋常高等小學校ニ改稱す。四十一年三月卅一日學制改正により更に年限二ヶ年の高等科を併置す。大正四年四月三十日分教場を廢す。

百瀬尋常高等小學校 明治七年七月十日大沼、中庄、新保三村聯合して中庄村正覺寺に一校を創設し、迪蒙學校ニ稱す。十四年六月第十二番小學區公立小學校ニ改稱し、十九年十一月第四番學區簡易科ニす。二十二年五月百瀬第一小學校ニ改稱し、二十六年四月尋常科程ニ改め中庄尋常小學校ニ改稱す。三十七年二月二十日大字澤小字毛面に新築の校舎に移る。明治七年四月一日澤、森西、辻三村聯合にて澤村岡本佐平次方に一校を創設し、間もなく校舎を新築して之に移る。校名を愛則學校ニ稱す。十九年十一月簡易科程ニし、大處小學校ニ改稱し、二十二年五月百瀬第二小學校ニ改稱す。二十六年四月尋常科程ニし澤尋常小學校ニ改稱す。明治七年十一月一日知内村は海津興化學校より分離して一校を創設して化成學校ニ稱す。十九年九月簡易科程ニし、(二十二年五月に百瀬第三小學校ニ改稱したるなるべし)二十六年四月尋常科程ニし知内尋常小學校ニ改稱す。三十九年四月一日右三校を併合して大字澤に百瀬尋常小學校を置く。同月卅日高等科を併置して百瀬尋常高等小學校ニ改稱す。大正六年九月三十日百瀬川堤防決潰して校舎に浸水し、校地埋没す。七年九月廿四日又決潰して校舎破壊埋没す。依て澤、

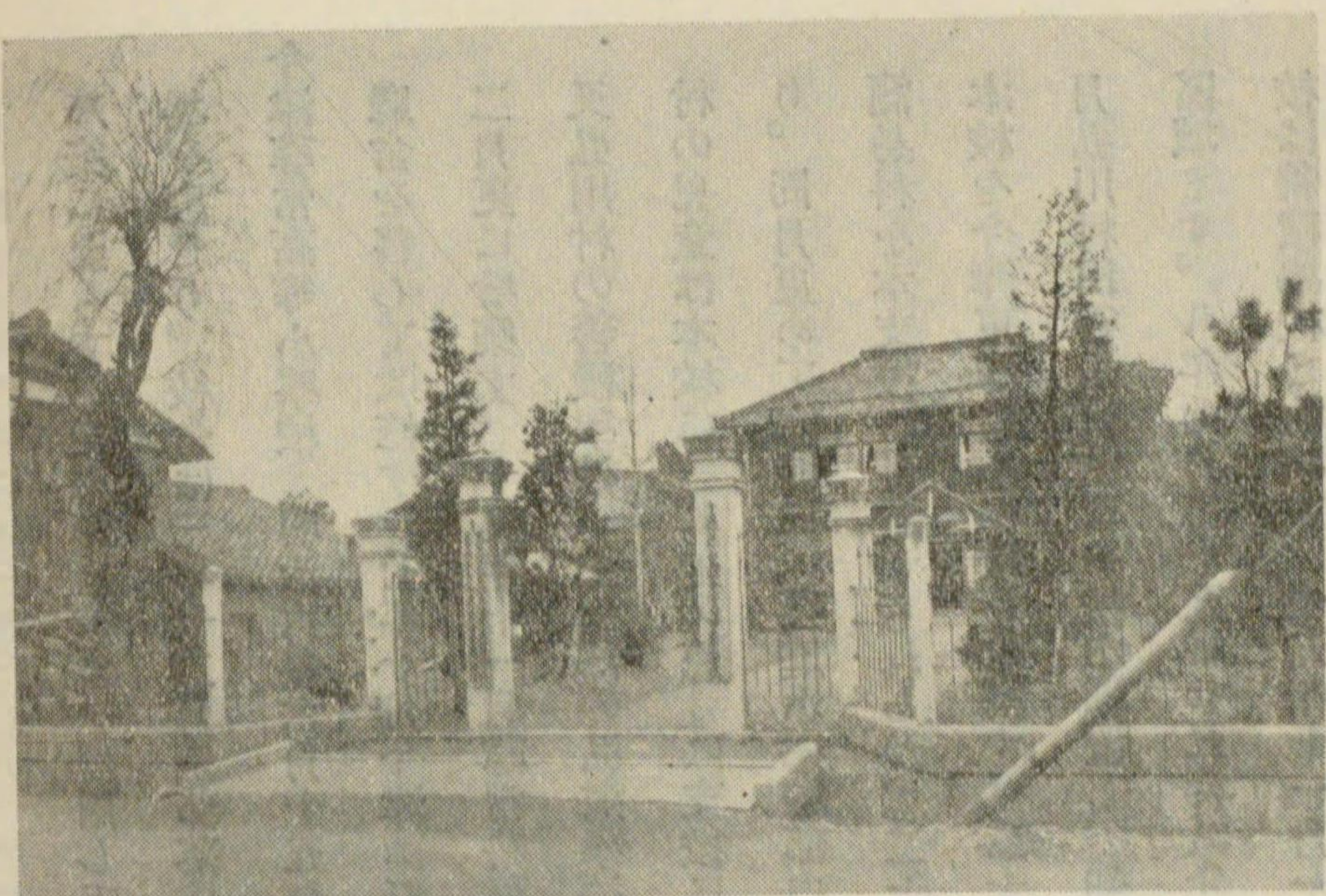
知内新保、中庄、大沼に假教場を置き、新に新保に地を相して校舎を新築す。九年三月大沼、中庄、新保、知内の假教場を廢して兒童を此に收め、八月澤假教場の兒童を此に收容せり。

川上尋常高等小學校 明治七年七月舊井ノ口村極樂寺に一校を創設して階晋學校ミ稱す。十一年三月濱分酒波二村分離して濱分村は濱分學校を創設し、酒波村は階晋學校分校を置く。十二年九月校舎を中町村偏正寺に移す。十九年十一月學科を簡易科ミし簡易科福岡小學校ミ改稱す。後に一ケ年の補習科を置く。二十一年福岡村第四十二番地に新築移轉す。二十二年五月町村制實施の結果川上第二小學校ミ改稱す。二十六年四月尋常科程に改め福岡尋常小學校ミ稱す。此時二ケ年の補習科を置く。二十九年四月川上村立各尋常小學校の補習科を一括して本校に併置し二學級を編成し、本村民情を參酌して必須科目を教授す。三十五年十二月修業二年の高等科を併置して福岡尋常高等小學校ミ改稱す。三十六年四月高等科を三ケ年程度ミす。三十八年四月高等科を廢し、實業補習學校を附設して高等科の生徒を收容す。明治七年八月廿二日深清水村寶林庵に一校を創設して陶化學校ミ稱す。九年同村(南)舊藏屋敷に移轉す。十九年十一月學科を簡易科ミし、桂小學校ミ改稱す。當時學校位置を桂村に移轉すべき縣令なりしも積年水害を受け村民一般に疲弊して校舎新築移轉の費用負擔に堪へざりしかば請願して依然舊校舎を使用せり。從來學區は桂、深清水二村なりしを此時平ヶ崎村を本學區に編入す。三十四年七月一日同字を福岡校に移せり。二十二年五月町村制施行により十五日簡易科川上第一小學校ミ改稱し、二十六年四月尋常科程に改め深清水尋常小學校ミ改稱す。明治七年七月五日伊井村に一校を創設して盛德學校ミ稱し伊井三谷二ヶ村を學區ミす。十三年五月一日平ヶ崎村を加へ伊井小學校ミ改稱す。十九年十一月簡易科程ミし平ヶ崎村を除きて酒波村

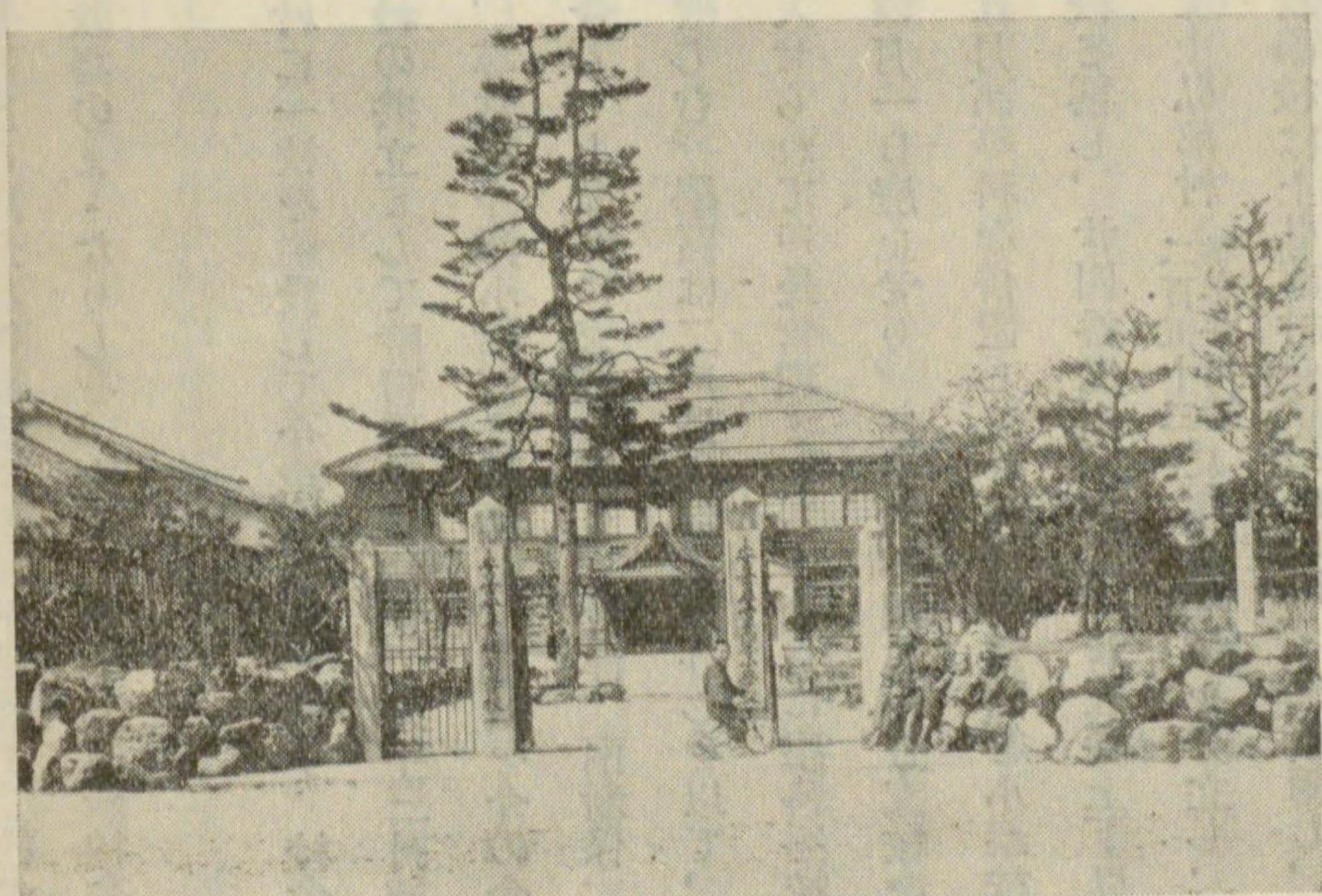
を學區に編入す。二十二年五月川上第三小學校ミ改稱し廿六年四月一日尋常科程ミして日置前尋常小學校ミ改稱す。四十四年四月以上三校を廢し、新に大字日置前に川上尋常高等小學校を設置す。校舎は幾多の事情によりて新築に至らず、從來の三校舎を使用して三分教場のまゝなりしを、大正二年十二月新校舎に兒童を收容して分教場を廢せり。校舎は三年十二月全部落成す。

今津尋常高等小學校 明治六年六月十五日今津村に一校を創設して今津小學所ミ稱す。校舎は舊加賀藩出張役所の廳舎を移して改修す。七年十月今津南新保二村の共立ミして時習學校ミ稱す。九年三月校舎を増築し、十六年十二月更に増築す。十九年十一月尋常科程ミし、尋常科今津小學校ミ改稱し、學區を今の今津町及び木津村ミす。又弘川村の善積學校、上弘部の弘道學校を併合し、上弘部に支校を置き、今津、南新保、大供、弘川、木津五ヶ村の兒童は本校に、其他の兒童は支校に通學せしむ。學區は二戸長役場に跨りしを以て、學校管理は郡長に屬せり。同月更めて木津村は饗庭小學校部内に編入せられて戸長管理ミなる。九月に學科學校位置を定められし時に簡易科を本支校に併置せられしが、二十一年四月一日廢止せり。二十六年四月一日支校を獨立せしめて一校ミし本校を今津東尋常小學校ミ改稱す。二十七年五月高等科を併置して今津東尋常高等小學校ミ改稱す。明治六年二月弘川村田谷永修宅に一校を創置し、知德學校ミ稱し、廿四番弘川、大供、廿五番上下弘部、蘭生五ヶ村を聯合區域ミす。八年七月二十五日廿五番區分離して上弘部村 二百五十三番字井川端に生材學校を分立し、其後間もなく、知德學校は善積學校ミ改稱す。十五年十一月一日生材學校は上弘部村 六〇三、六〇六番地字堀垣外に移轉し、九日弘道學校ミ改稱し十九年十一月鳴野學校を併合し、簡易科弘部小學校ミ稱し、今津小學校の支校ミす。鳴野學校は九年十一月一日

井ノ口村階普學校より分立し梅原岸脇を學區とす。二十一年四月一日簡易科を廢す。但し支校たるこま元の如し。



今津尋常高等小學校



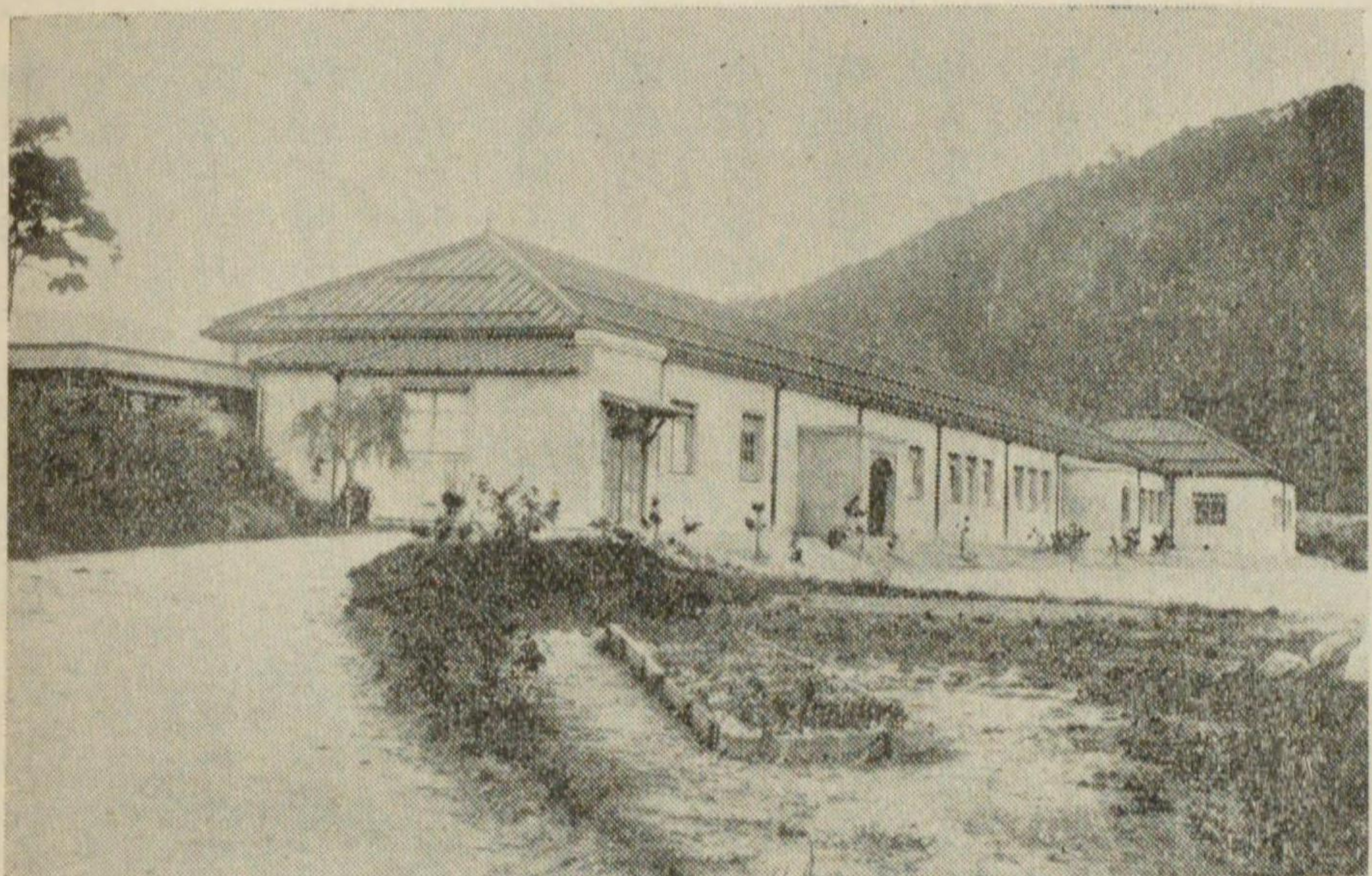
安曇尋常高等小學校

二十六年四月一日支校を廢し、獨立して今津西尋常小學校と改稱す。大正二年六月二十五日東西兩校を廢し、翌日今津尋常高等小學校を舊東小學校地に置き、舊西小學校地を上弘部分教場とす。

三谷尋常高等小學校 明治六年五月北生見村長源寺に一校を創設し深淵學校と稱す。今年八月南生見村見性寺に一校を創設して日進學校と稱す。其後日進學校を深淵學校に併合す。十九年十一月簡易科生見小學校と稱す。二十六年四月一日北生見尋常小學校と改む。明治八年五月十三日角川村光明寺に一校を設置して角川學校と稱す。十四年十一月第十八小學區角川學校と稱す。十九年十一月簡易科角川小學校と改め、廿六年四月角川尋常小學校と改む。明治八年五月保坂村寶昌寺に一校を創設して徳潤學校と稱し保坂途中谷二村を學區とす。十五年五月杉山學校を併合す。十九年十一月簡易科保坂小學校と稱す。廿二年四月三谷第一小學校と改稱し、角川を第二、北生見を第三、椋川を第四、天増川を第五と改稱す。九月三谷村に一校と定め、第一校を簡易科三谷小學校と改稱し北生見、角川、椋川、天増川の各校を廢して各分教場とす。廿六年四月各分教場を獨立せしめ、本校を保坂尋常小學校と改む。明治八年十二月椋川村一村にて一學校を設立して第七十二番小學區椋川學校と稱す。校舎は高雲寺の一部を充當したりしが、十年九月宇尾條地五二番に新築移轉せり。十九年十一月簡易科椋川小學校と稱す。廿六年四月椋川尋常小學校と稱す。明治九年四月十五日天増川、狭山、大杉の各村聯合して天増川村靜慶寺に一校を創設し天狹小學校と稱す。十九年十一月簡易科天狹小學校と改む、廿六年四月天増川尋常小學校と稱す。四十二年八月北生見、角川、保坂、椋川、天増川の五尋常小學校を廢し、九月一日新に三谷尋常小學校を設置し、本校を大字保坂に置き、北生見、角川、椋川、天増川に分教場を置く。四十二年四月高等科を併置して三谷尋常高等小學校と稱す。椋川分教場は大正十年五月新に宇尾條地二五二、二五三、二五四番に校地を開き校舎を新築し、十一年十二月落成して之に移る。校舎敷地地七坪は京都大谷仁兵衛の所有にして其工事専用道路敷地々均上下水道等の工

事には壹萬參千八百餘圓を要せり。校舍は工事拾壹萬八千六百七拾參圓を要し、其内壹萬八千圓は椋川村民六十

八名の寄附にして其餘の全部は又大谷仁兵衛の寄附なり。其建物は
鐵筋混凝土及び特許鐵筋ブロック造銅板葺平家建にして本館間口四
十間二
分奥行 二〇一坪雨天體操場間口六間
奥行八間 四八坪及び便所物置露臺等之に
附屬す。本館内の設備は、教室三室各二
十坪 日本風式場二十
坪 會議室十六
坪
理科室十二
坪 事務室十
坪 應接室五
坪 其他圖書室、兒童圖書館、湯沸場、立
關、兒童昇降口、廊下等に分ち、暖房裝置避雷裝置を備へ、備品新
式一人用兒童机腰掛、會議用椅子テーブル百人分等其他も亦大谷仁
兵衛の寄附に係れり。



椋川分教場

朽木東尋常高等小學校 朽木村市場に在り。明治七年二月十六日市場
岩瀬、野尻三村聯合にて市場村慶寶寺舊教訓所を以て學校とし雲溪
學校と稱す。十一年十一月廿七日市場村八五四番
地 某舊旅館を改造し
て之に移る。四十年十一月廿六日市場字高木に新築の校舍落成して
之に移る。是今の校地なり。十九年十一月簡易科程とし、二十二年
五月十三日朽木第一小學校と改稱す。二十六年四月尋常科程に改め
市場尋常小學校と稱す。三十三年九月高等科を併置して市場尋常高等小學校と稱す。明治五年の學制に基き荒川

村中川伊左衛門所有の小屋に一校を開き、大溝藩の小林久造に託して子弟に教授せしめ、八年十二月四日新築校
舎に移轉して峽川學校と稱す。十九年十一月簡易科とし、二十六年四月尋常科に改め、荒川尋常小學校と稱す。
三十六年校舍を増築す。明治七年雲溪學校創設の際宮前坊村は之に屬したりしが、十二年宮前學校を設け、十九
年に再び市場村に合す。二十六年四月八日宮前坊、柏を學區として大字柏智禪寺に柏尋常小學校を設置す。三十
三年十月十七日大字柏小字いやの第八十番に校舍を新築して之に移る。明治五年の學制に基き古川村柏村聯合
して古川村に一校を置き古川學校と稱す。十九年十一月簡易科程とし、同時に柏村に分教場を設く。二十六年四
月大字古川のみを學區として古川尋常小學校を設置されしが、三十九年八月市場尋常高等小學校に併合せり。明
治八年九月一日村井村寶泉寺に一校を設置して大井學校と稱し、大野村井二村を學區とす。九年五月村井村百八
番地
に移る。十九年簡易科とし、二十六年尋常科に改め村井尋常小學校と稱す。三十七年兩大字合議して大字大野字
陀子谷口に校舍を新築して之に移る。移轉年
月不詳 明治八年八月十五日栃生村松泉寺に一校を設置して栃生學校と稱し
栃生一村の兒童を教養す。對岸小字日野、右淵の兒童は往來不便の爲め更に右淵の龍潭寺を教場に充て隔年交互
に開校するこゝせり。されど村民の紛擾止まざりしかば、十七年四月龍潭寺を分教場と定め、本校を小字畑下
に新築せり。十九年十一月簡易科程とし、分教場を廢す。二十六年四月尋常科程とし、栃生尋常小學校と改稱す。
三十六年校舍を新築し八月卅日落成す。明治八年三月一日麻生村に一校を設置して麻生學校と稱す。十九年十一
月簡易科程とし、二十二年十二月十三日巡回授業を設置す。二十四年七月七日小字轆轤に分教場を設置す。二十
六年四月尋常科程とし、麻生尋常小學校と稱す。明治八年十二月八日地子原村長壽寺に一校を設置して富谷學校

こ稱し、地子原一村の児童を教養す。九年十一月五日新築校舎に移る。十九年簡易科程こし、二十六年四月尋常科程こす。同時に地子原尋常小學校こ稱す。明治八年七月十五日、雲洞谷村字犬丸の寶光寺に一校を設置して雲洞學校こ稱し、雲洞谷一村の児童を教養す。十年五月新築校舎に移る。今の十九年十一月簡易科程こし、二十六年四月尋常科程に改め、雲洞谷尋常小學校こ稱す。四十一年六月一日以上市場、荒川、柏、村井、枋生、麻生、地子原、雲洞谷の八校を廢し、朽木東尋常高等小學校を置き、舊尋常校所在地に分教場を置く。其數麻生字、轆轤を合せて八ヶ所なり。

朽木西尋常小學校 朽木村大字中牧に在り。明治八年四月十五日能家村極樂寺に一校を設置して凌雲學校こ稱し、能家一村の児童を教養す。十九年簡易科程こす。二十一年五月民家を増築して之に移る。二十六年四月尋常科程に改め、能家尋常小學校こ稱す。三十六年十月字掛原の新築校舎に移る。明治九年十月四日小入谷、生杉、中牧、古屋四ヶ村聯合して中牧村二十八番地に一校を設置して針畑學校こ稱す。某年桑原村に分校を置き、十四年十二月之を廢す。十九年簡易科程こし、二十六年四月尋常科程に改め、中牧尋常小學校こ稱す。三十四年四月大字中牧字大平一八六番地に校舎を新築し之に移る。移轉月日不詳明治八年八月平良小川二村聯合して平良村清景寺に一校を設置して平川學校こ稱す。十年小川村に新築移轉す。十四年十二月針畑學校下の桑原村を本村に併合して桃源こ改稱す。十五年四月平良に校舎を新築す。移轉不詳十九年十一月簡易科程こし、二十六年四月尋常科程に改め、平良尋常小學校こ稱す。三十四年十一月校舎を増築す。四十一年六月一日以上中牧、能家、平良三校を廢し、中牧に朽木西尋常小學校を置き、能家、平良に二分教場を置き各舊校舎を以て之に當つ。

廣瀨北尋常高等小學校 明治六年十二月上旬古賀村に蒙論學校、下古賀村に熊野學校を設置し、各其村の児童を教養す。八年六月卅日兩校共に開校式を擧ぐ。十九年十一月兩校を廢して下古賀村に簡易科古賀小學校を設置し、兩古賀村の児童を收容す。二十二年五月十三日簡易科廣瀨第一小學校こ改稱す。二十六年四月一日學科程を改め、廣瀨北尋常小學校こ改稱す。三十五年四月十日校舎新築落成して之に移る。三十六年四月一日二ヶ年程の高等科を併置し、廣瀨北尋常高等小學校こ改稱す。四十一年四月一日學制改正により義務年限延長したりしかば廣瀨北尋常小學校こ稱す。四十二年四月三日高等科を併置して廣瀨北尋常高等小學校こ稱す。

廣瀨南尋常小學校 明治六年十二月中野村に弘智學校七年三月長尾村に長尾學校八年九月二十五日南古賀村に資善學校を設置して各村の児童を教養す。十九年十一月一日各校を廢止して中野村に簡易科廣瀨小學校を創設し、三村の児童を收容す。二十二年五月一日簡易科廣瀨第二小學校こ改稱す。二十六年四月一日學制改正により廣瀨南尋常小學校こ改稱す。四十一年校舎を大字中野字東良に新築移轉せり。四十五年三月廿六日廣瀨裁縫學校を附設せり。同校は修業年限三ヶ年こす。

安曇尋常高等小學校 明治五年の學制に基き、田中村に臨川(舊南市村)志應(舊五番領村)の兩學校常磐木村に達枝學校三尾里村に三尾里學校を設置し、各村の児童を教養す。十九年十一月四校を廢し、新に尋常科田中小學校簡易科田中小學校を南市第五十二番屋敷に設置す。二十一年十月南市字五反田に新築移轉す。二十二年五月安曇村を置き、田中、五番領、三尾里、西萬木、常磐木五ヶ村を以て其區域こしたりしかば、青柳小學校區内の西萬木村を本校區内に移す。同時に簡易科田中小學校を廢す。二十六年四月安曇尋常小學校こ改稱す。九月高等科を併

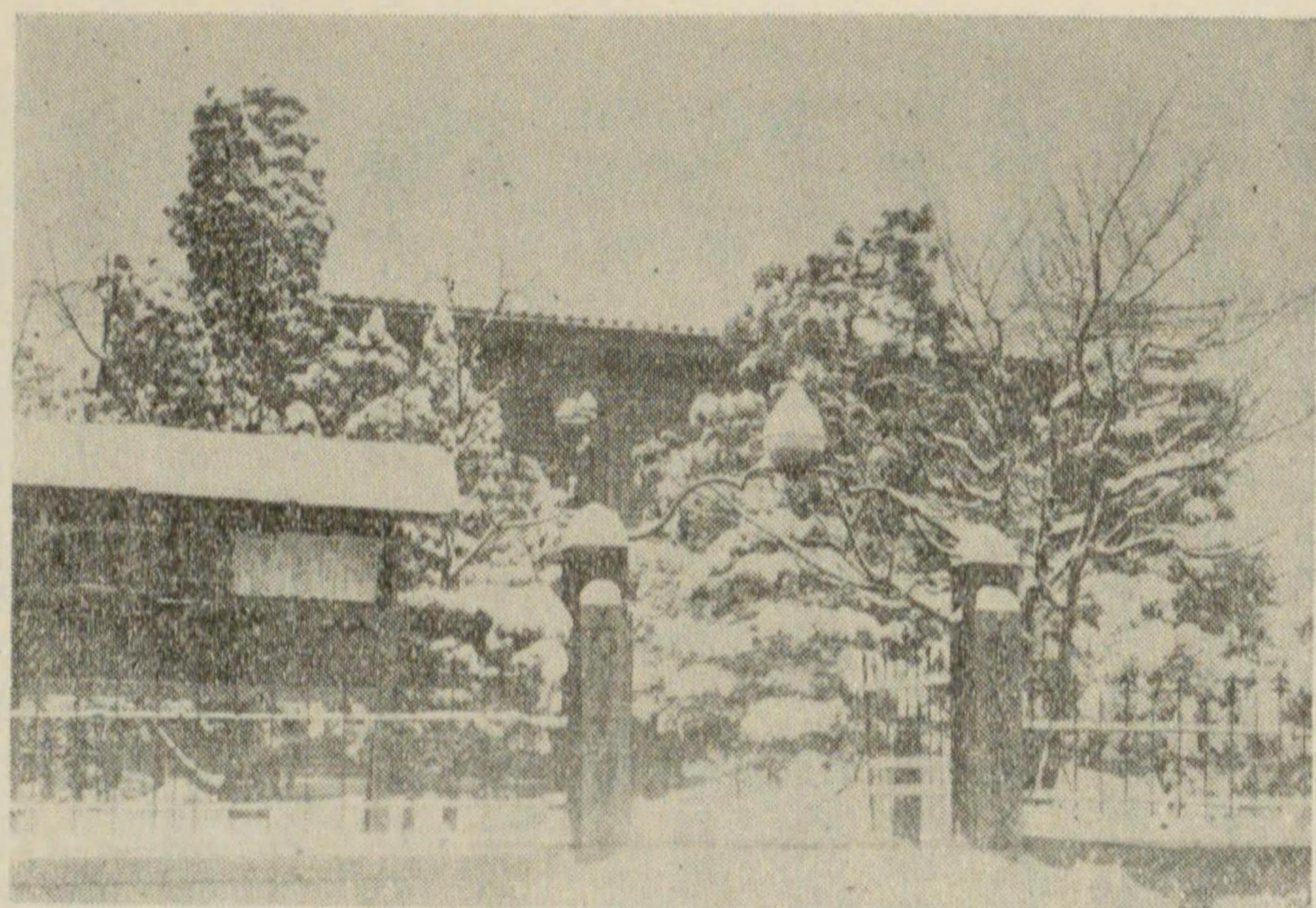
置して安曇尋常高等小學校と稱す。校舎は三十二年に第二校舎一棟を、三十五年に第三校舎を増築す。三十七年更に第一校舎を改築し三十八年三月落成せり。

高島尋常高等小學校 明治八年八月十四日高島村に興道學校、富坂村に富坂學校、拜戸村に柚山學校を創設し、各其村の児童を教養せり。十九年十一月右三校を併合して高島村に簡易科高洲小學校を置く。二十二年五月高島第一小學校と改稱す。二十六年四月高島尋常小學校と改む。大正六年五月二十日高等科を併置して高島尋常高等小學校と稱す。

黒谷尋常小學校 明治八年黒谷村に黒谷學校、鹿瀬村に鹿瀬學校、畑村に鳳嶺學校を設置して各其村の児童を教養す。十九年十一月黒谷鹿瀬二學校を併合して簡易科清淵學校と稱し黒谷村に置く。二十二年五月鳳嶺學校を併合して高島第二小學校と稱す。二十六年四月黒谷尋常小學校と改稱す。

大溝尋常高等小學校 明治六年五月廿二日勝野村二百九十八番屋敷に一校を創設して鴻溝學校と稱し勝野村の児童を教養す。八年十二月開校式を擧ぐ。十九年十一月永田、音羽二校を本校に併合して、尋常科眞長浦小學校と稱し、別に簡易科を併置す。二十二年四月簡易科を廢し、尋常科大溝小學校と改稱す。二十六年四月大溝尋常小學校と改稱す。同年十二月高等科を併置す。三十七年四月高等科に農業手工科を加ふ。校地は最初勝野村共有地三百四十九坪餘を買入れ校舎を設置したりしが、十九年十二月永田學校々舎を移し、廿四年四月隣地九十六坪、廿九年五月隣地八十五坪を買入れ、三十一年四月南教室を増築し、三十一年十月隣地七十二坪を買入れ、三十二年十一月北教室を増築す。三十六年五月隣地二百二十七坪を買入れ、三十七年五月講堂を増築す。四十一年十月幼稚

園を附設し、大正十年六月十八日之を廢す。



大溝尋常高等小學校

水尾尋常高等小學校 明治六年五月二日鴨村慈敬寺を假校舎として一校を設置し、當時別に校名なく單に第六十四番小學校と稱せしが、七年四月鴨村學校と稱し、八年六月鴨水學校と改めたり。九年宇稻荷に校地を卜し、校舎を新築し十一年此に移る。十九年十一月學制改正の爲め尋常科鴨小學校と改稱し、同時に横山村の冠岡學校を併合して支校とし、本支兩校に簡易科を置く。冠岡學校は明治七年四月横山村小林猪三太宅に設け八年六月二十三日大講寺に移り、九年十月武會村に武會學校を分離す。明治七年四月宮野村に正行學校を創設す。十九年十一月武會學校正行學校を廢す。二十一年支校を廢し、其生徒を本校に收容し、同時に簡易科を廢す。二十二年五月町村制實施せられて水尾村を立てられしより水尾小學校と改稱す。二十六年四月學制改正の爲め鴨尋常小學校と改め、支校を獨立せしめて武會横山尋常小學校と稱す。三十九年四月鴨尋常小學校の校地校舎を擴張して高等科を併置し、水尾尋常高等小學校及び水尾尋常高等小學校を廢して五月新に水尾尋常高

等小學校を設立し、大字野田字中道に校地を定め目下校舍新築中なり、

青柳尋常高等小學校

明治七年三月舊青柳村(東萬木)神宮寺に柳橋學校を創設す、十月十七日開校式舉行此に前後して上下小

川村聯合にて上小川村に藤樹學校、横江村に横江學校、西萬木村に萬樹學校を設置し、各村の兒童を教養す。十

三年九月藤樹學校が校舍に充てし藤樹書院焼失したりしかば下小川村に校舍を設け、横江學校を併合して共進學

校と稱す。十七年九月柳橋學校々舎を新築す。此後の青柳校地なり十九年十一月學制改正により柳橋、共進、萬樹の三校

を廢して舊柳橋校に尋常科青柳小學校を置き、簡易科を附設す。二十一年教室一棟を増築す。二十二年四月町村

制施行の爲め村區域の關係上西萬木村を安曇村田中小學校下に編入す。同年五月七日簡易科を廢す。廿五年九月

中央の校舍一棟増築す。廿六年四月一日青柳尋常小學校と改稱す。二十八年補習科を置く。翌年六月補習科を廢

し修業三ヶ年の高等科を併置し青柳尋常高等小學校と稱す。三十七年四月一日高等科を二ヶ年の修業年限とし、

別に修業二ヶ年の實業補習學校を附設す。同月十二日露戰役記念學林を設置し、柵の造林を計畫す。同月校舍

一棟を増築す。四十年三月義務教育年限延長に伴ひ高等科自然消滅す。四十二年四月高等科を併置す。

本庄尋常高等小學校

初の學制に基き南船木村受樂寺に一校を置き四十六番學校と稱す。七年二月舊材木改番所を

校舍として通心學校と稱す。大溝藩士伊藤兵藏教育の任に當り十二年六月同藩士松下瀧藏之に代る。明治七年北船

木村光明寺に專修學校を置き同寺住職松林惠空教育を擔當す。同年川島村にては傳正寺に松郷學校を創設し、大

溝藩士藤本善藏教育を擔當す。以上三校は十九年十一月一日併合して南船木村通心學校址に簡易科曇水小學校を

置く。通學區域北船木、南船木、川島二十二年五月十三日本庄第一小學校と改稱す。十二月一日修業一ヶ年の補習科を附設す。

二十六年四月一日日本庄北尋常小學校と改稱す。三十三年七月四日修業二年の高等科を併置し、本庄北尋常高等小

學校と改稱す。三十四年五月十六日高等科修業年限を三ヶ年に延長し、三十九年四月一日更に四ヶ年に延長す。

四十一年四月一日義務教育延長の爲め高等科を二ヶ年とす。明治の初め今在家村の治郎兵衛宅にて藤江、横江、

今在家、横江濱各村の子弟を教養す。俗に治郎兵衛學校と稱す七年在江學校を創設し、八田知來、別所廣治、磯野良吉等順

次交代教育の任に當る。九年横江、横江濱村は分離して横江濱村は青井學校を創設し、大溝藩士八田知來教育の

任に當り、横江村は横江學校を創設す。十年藤江村分離して藤江學校を創設す。十九年十一月在江、藤江、青井

の三校を併合して簡易科衡川小學校と稱し、舊在江校に置く。二十二年五月十三日本庄第二小學校と改稱し、二

十六年四月一日尋常科に改めて本庄南尋常小學校と改稱す。在江校舎は明治十年五月四日貴布禰神社西裏地に新

築して移りしものなり。二十二年十二月二十五日四津川堀川橋の北畑地を相して在江、藤江兩校舎を移轉改築す

三十九年九月洪水と暴風との爲め校舎破壊し約一ヶ月休業し、十月二十六日藤江の圓覺寺、今在家の正覺寺に假

教場を設く。翌年十月殘留の一棟を修繕増築して復舊開校す。四十三年三月三十一日本庄南尋常小學校を廢し

本庄北尋常高等學校に併合して、四月一日本庄尋常高等學校と稱す。舊南校に分教場を置く。大正二年分教場を

廢す。但し冬季二ヶ月間は尋常科一二年生を分教場に收容したりしが大正三年四月一日之を廢す本庄尋常高等學校々舎は通心學校時代には舊材木改番所を以てし

たりしが、八年三月舊大溝藩作事部屋を移築して教室とす。十四年七月二階造一棟を増築す。二十九年九月洪水

湖上増水して十日校舎床上浸水四尺に及ぶ。十一日暴風激浪の爲め校舎破壊し、唯屋根と柱を殘すのみ。附屬

建物校具共に流失す。十月二十六日後は大字北船木光明寺、大字南船木樂受寺、大字川島西音寺の各本堂を假教

場として各其大字の児童を收容し教授す。三十年五月一日校舍假修繕なりしが故に假教場を廢す。此時校舍は狹隘を極め机、腰掛を排列するを得ざるが故に、腰掛のみを排列して机に代へ、児童をして坐して教を受けしむ。三十三年六月木造二階建校舎一棟^{四教室}及御影奉置所を新築す。三十四年四月五日大字南船木樂受寺本堂を借受け一時分教場とし、高等科第一學年を此に移す。此時村長齋藤藤助は自費にて敷地を購入して貸附し、南方に平家建校舎二教室を増築し、十二月一日樂受寺の分教場を廢して児童を此に收容す。舊校舍の一部を雨天體操場兒童溜場とす。四十二年六月十五日校地を北方に擴張して運動場とす。三十九年又樂受寺を借受け、一時の分教場としたるを以て敷地の擴張と共に木造二階建六教室を新築し、舊校舍の一を中間に移して雨天體操場兼兒童溜り場とし、四十二年十一月一日落成す。同時に分教場を廢す。大正六年更に西北方に校地を擴張し講堂兼雨天體操場及御影奉置所を新築す。八年正月二十五日落成し、舊體操場を廢す。九年本館並に此に附屬したる諸室を増築し、十一月一日落成す。此年安曇川尻右岸に約三千坪の川崎運動場を設置す。

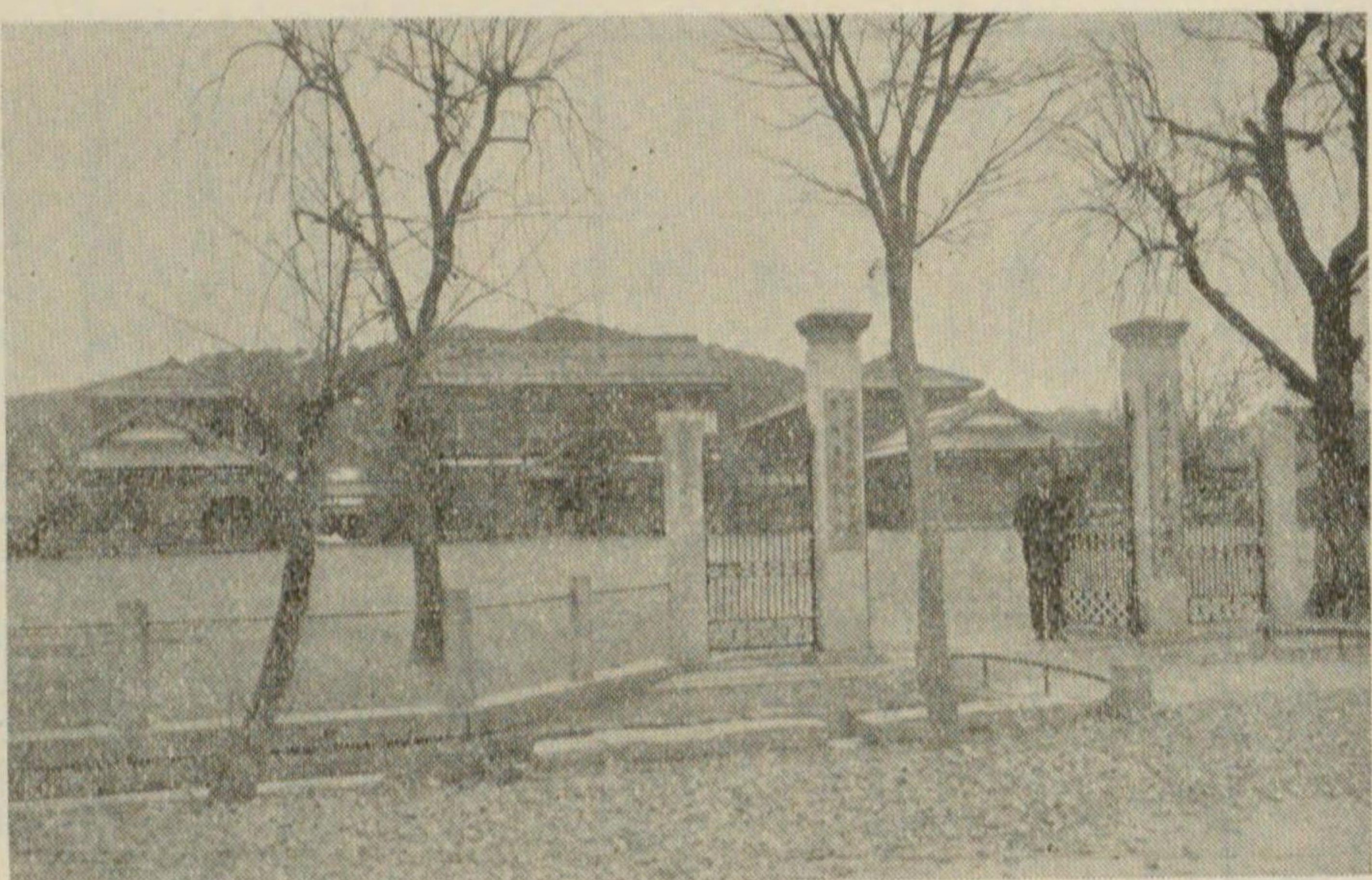
新儀尋常高等小學校 明治七年三月太田村に柳原學校、七月新庄村に廣義學校、八年三月藁園村に靜里學校、八月川原市村に國修學校を設置す。十九年十一月國修廣義二校を廢し、尋常科安井川小學校を安井川村舊河原市村に設置し、簡易科を附設し、靜里、柳原二校を廢して藁園村に安井川小學校支校を置く。二十五年一村一校の議村會に上りし時東部西部の利權一致せず。村會は大字太田に一校を増設することに決し、本縣よりも一校増設を許可したり。其結果二十六年四月大字藁園に藁園尋常小學校を置き、九月大字太田に太田尋常小學校を置く。即ち一村三校たり。三十八年四月安井川尋常小學校に修業年限二ヶ年の高等科を併置す。西東兩部の融和なり、一村一

校の儀決し、三十九年十二月十六日、新儀尋常高等小學校設置の許可あり。地を大字新庄字東町に卜す。新校舍

落成まで舊三校を分教場に充つ。四十年五月、第一期工事落成す。

教室一棟講堂雨天體操場及び附屬建物 六月一日尋常科三學年以上、高等科生徒を此に移す。四十一年五月第二期工事^{教室}落成す、即ち尋常科一二學年兒童

を收容す。四十二年三月第三期工事^{本館}落成す。此に於て全部の工事を終る。



嬰庭尋常高等小學校

嬰庭尋常高等小學校 明治七年三月五日、日瓜、岡、五十川、米井、辻澤、今市、上野七ヶ村聯合にて辻澤村永正寺に一校を置き第四十一小學校と稱したりしが、八年米井村第十九番屋敷を校舍として之に移轉し、勉哉學校と稱す。七年五月十五日木津村の寺院を校舍として一校を置き、第二十四小學校と稱したりしが、八年古津學校と稱す。十九年十一月古津學校を廢し、勉哉學校に尋常科嬰庭小學校を置き、簡易科を併置す。明治七年三月森、田井、霜降、山形、堀川、針江、深溝、北畑、藁園九ヶ村聯合にて霜降村正傳寺に一校を置き第四十二小學校と稱せり。八分校の令達に依りて三月十日森田井、霜降、山形、堀川、針江六ヶ村聯合にて森村に一校を置き第三十三小學校と稱し、後明善學校と改む。九

年十一月二十日針江村は又分離して第三十四小學校を置き、後針江學校と稱す。深溝村は八年三月十五日第三十六小學校を設置し後丸澤學校と稱す。十九年十一月以上三校を併合し、森村に饗庭小學校の支校を置く。二十二年九月簡易科を廢す。二十六年四月一日饗庭尋常小學校を置き支校を獨立せしめて旭尋常小學校と稱す。二十七年三月廿九日饗庭校に高等科を併置す。四十三年三月卅一日限饗庭旭兩校を廢し、四月一日新に饗庭尋常高等小學校を大字饗庭に置き、大字深溝に分教場を置く。

高島郡普通教育表 (大正十四年三月末日現在)

| 小 | 校 | 學 齡 兒 童 | | | 性 別 | 就 學 | 不 就 學 | 合 計 | 未 就 學 之 始 期 達 七 歳 以 上 者 | 通 計 | 就 學 步 合 |
|-----|----------|---------|-------|-------|----------------|-------------|-------|-----|-------------------------|-----|---------|
| | | 計 | 女 | 男 | | | | | | | |
| 三 | 尋常 | 五、六四〇 | 二、七三二 | 二、八六六 | 尋常小學校ノ教科ヲ修ムルモノ | 同上卒業タルモノ | 計 | | | | |
| 一七 | 尋常高等 | 二、二〇九 | 一、〇四二 | 一、一六六 | | | 計 | | | | |
| 二〇 | 分教場 | 七、八四九 | 三、八三三 | 四、〇一六 | | | 計 | | | | |
| 一八 | 部ヲ教授スルモノ | 六 | 四 | 二 | 教科ノ一部ヲ教授スルモノ | 同上全部ヲ教授スルモノ | 計 | | | | |
| 一八 | 計 | 二、三 | 一、二 | 一、一 | | | 計 | | | | |
| 一八 | 計 | 二、九 | 一、六 | 一、三 | | | 計 | | | | |
| 一八 | 計 | 七、八七六 | 三、八二九 | 四、〇四九 | | | 計 | | | | |
| 九 | 尋常 | 九六三 | 五八四 | 三七八 | | | 計 | | | | |
| 一七〇 | 高等 | 八、八四〇 | 四、四二三 | 四、四一七 | | | 計 | | | | |
| 一七九 | 計 | 九九、四〇 | 九九、六六 | 九九、三三 | | | 計 | | | | |

| 校 | | 學 | | 員 | | 教 | |
|-------|-------|---|---|---------|----|-------------|-------------|
| 合 | 出 席 步 | 童 | 兒 | 均 平 俸 月 | 員 | 人 | |
| 九五・八四 | 男 | 尋 | 尋 | 七、〇三三 | 八九 | 小 本 科 正 教 員 | 小 本 科 正 教 員 |
| 九四・四三 | 女 | 尋 | 尋 | 四、八七六 | 三一 | 女 正 教 員 | 女 正 教 員 |
| 九五・一五 | 平 均 | 尋 | 尋 | 四、一三三 | 一三 | 男 尋 教 員 | 男 尋 教 員 |
| 九三・〇八 | 男 | 尋 | 尋 | 四、五〇〇 | 一 | 女 正 教 員 | 女 正 教 員 |
| 九三・七〇 | 女 | 尋 | 尋 | 四、九〇〇 | 一一 | 男 專 科 正 教 員 | 男 專 科 正 教 員 |
| 九三・二九 | 平 均 | 尋 | 尋 | 三、五五〇 | 一〇 | 女 專 科 正 教 員 | 女 專 科 正 教 員 |
| | | 入 | 入 | 三、二九六 | 一〇 | 男 准 教 員 | 男 准 教 員 |
| | | 入 | 入 | 三、二四〇 | 八 | 女 准 教 員 | 女 准 教 員 |
| | | 入 | 入 | 七、四一 | 一 | 男 代 用 教 員 | 男 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 二、四三 | 一 | 女 代 用 教 員 | 女 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 三、九六 | 一〇 | 男 代 用 教 員 | 男 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 四、〇三七 | 八 | 女 代 用 教 員 | 女 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 五、六〇 | 一 | 男 代 用 教 員 | 男 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 四、七八 | 一 | 女 代 用 教 員 | 女 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 二、八七 | 一 | 男 代 用 教 員 | 男 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 一、二七 | 一 | 女 代 用 教 員 | 女 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 八、〇七三 | 一 | 男 代 用 教 員 | 男 代 用 教 員 |
| | | 入 | 入 | 一、二七 | 一 | 女 代 用 教 員 | 女 代 用 教 員 |

三谷
十二年 八年
女男 女男

角川分教場
十二年 八年
女男 女男

北生見分教場
十二年 八年
女男 女男

天增川分教場
十二年 八年
女男 女男

椋川分教場
十二年 八年
女男 女男

朽木東
十二年 八年
女男 女男

荒川分教場
十二年 八年
女男 女男

四六四四

八六三四

一二一一

一二一一

三二二

二一

一三三 一五三

二一 一二

一六四 一五五

九八三九 一〇六七一

麻生分教場
十二年 八年
女男 女男

轆轤分教場
十二年 八年
女男 女男

地子原分教場
十二年 八年
女男 女男

雲洞谷分教場
十二年 八年
女男 女男

柄生分教場
十二年 八年
女男 女男

村井分教場
十二年 八年
女男 女男

柏分教場
十二年 八年
女男 女男

三三三〇

四〇八六

一一一一

一一一一

一一一一

一一一一

三四九 三四六

一一 一一

三四六 三四八

九九七五 一〇〇〇〇

| 新 | 本 | 青 | 武曾 橫山 | 水 | 大 | 黑 |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 儀 | 庄 | 柳 | | 尾 | 溝 | 谷 |
| 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 |
| 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 |
| 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 |
| 二六 四三 | 三三 三三 | 二五 七〇 | 二五 八九 | 四一 五五 | 二二 三〇 | 二二 三〇 |
| 二六 四五 | 二五 三三 | 二六 四八 | 二六 五九 | 二六 七〇 | 二六 八〇 | 二六 九〇 |
| 五七 | 四七 | 四八 | 二九 | 二五 | 二三 | 二五 |
| 二四 | 二五 | 二四 | 二四 | 二四 | 二四 | 二四 |
| 三 | 三 | 二 | 一 | 一 | 一 | 二 |
| 三 | 二 | 三 | 二 | 六 | 六 | 二 |
| 二 | 二 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 三 七〇 | 三 七五 | 三 四三 | 二 九六 | 一 七五 | 一 六六 | 二 〇六 |
| 一 二 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 三 七一 | 三 七五 | 三 七三 | 二 九六 | 一 七五 | 一 六六 | 二 〇六 |
| 九 九七 | 一 〇〇〇 | 一 〇〇〇 | 一 〇〇〇 | 一 〇〇〇 | 一 〇〇〇 | 一 〇〇〇 |

| 高 | 安 | 廣 瀨 | 廣 瀨 | 同 能家 分教場 | 同 平良 分教場 | 朽 木 | 西 |
|---------|---------|---------|---------|----------------|----------------|---------|---------|
| 島 | 曇 | 南 | 北 | | | | |
| 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 | 十二 年 |
| 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 | 八 年 |
| 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 | 女男 |
| 五 六 | 七 六 | 〇 八 | 〇 九 | 七 八 | 七 九 | 二 六 | 二 六 |
| 九 二 | 二 三 | 三 六 | 三 七 | 二 六 | 七 〇 | 二 六 | 二 六 |
| 一 二 | 一 二 | 七 五 | 五 七 | 三 一 | 三 一 | 二 三 | 一 四 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 五 | 一 七 | 三 〇 | 三 七 | 三 九 | 三 九 | 二 三 | 二 三 |
| 一 一 | 一 一 | 一 一 | 二 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 |
| 一 五 | 一 七 | 三 〇 | 三 七 | 三 九 | 三 九 | 二 三 | 二 三 |
| 一 〇 | 一 〇 | 九 九 | 九 九 | 九 九 | 一 〇 | 一 〇 | 一 〇 |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| 庭 | 八 | 年 | 男 | 三三一 | 二五 | 三八 | 三 | 二 | 三九二 | 二四 | 三九六 | 九六・九九 |
| 女 | 三〇三 | 二五 | 三八 | 三 | 二 | 三九二 | 二四 | 三六六 | 三六六 | 九六・九六 | 九六・九六 | |
| 男 | 三三九 | 二五 | 三八 | 三 | 二 | 四六四 | 四六 | 四六四 | 四六六 | 九六・一五 | 九六・一五 | |
| 女 | 二九四 | 二五 | 六六 | 六六 | 三 | 二 | 四六四 | 六四 | 四三三 | 九六・六二 | 九六・六二 | |

教育功績者として文部省より選奨され又は滋賀縣より表彰されたるもの左の如し。

文部省選奨 大正四年二月十一日
滋賀縣表彰 明治三十五年三月二十八日

大溝尋常高等小學校訓導兼校長

安達仙太郎

廣瀬北尋常小學校長

本田恒次郎

今津東尋常高等小學校長

安達仙太郎

大溝尋常高等小學校

白崎清兵衛

安井川尋常小學校長

野呂周一

鳴尋常小學校長

澤清一

同 三十六年三月二十四日

本庄北尋常高等小學校長

角川尋常小學校

同 三十七年三月三十一日

本庄北尋常高等小學校長

三田村甚吉

同 四十年二月十一日

今津尋常高等小學校長

藤田新藏

中牧尋常小學校長

別所友恭

大溝町學務委員

福井彌平

本庄

中田長富

福岡尋常高等小學校長

黒川三次郎

海津尋常高等小學校長

清水金治郎

安曇尋常高等小學校長

原田知近

大溝町

永田益友會

新儀村

螢雪學習會

大溝町

大溝同窓會

百瀬尋常高等小學校長

饗庭喜代藏

大溝町

大溝町

同 四十四年二月十一日

同 四十五年二月十一日

同 四十二年二月十一日

同 四十四年二月十一日

同 四十五年二月十一日

同 四十二年二月十一日

同 四十四年二月十一日

同 四十五年二月十一日

同 四十二年二月十一日

同 四十四年二月十一日

同 四十五年二月十一日

同 四十二年二月十一日

同 四十四年二月十一日

同 四十五年二月十一日

補習教育

明治三十四年十一月十六日滋賀縣令第六十二號を以て學習會設置に關する規則の發布あり

りしかば各村にては各大字に學習會を設け大抵冬期の農閑期を利用して兒童の補習をなさしめたり。講師は其地の小學校教員或は寺院の住職を以てし、學科は修身讀書作文算術或は理科歴史を加へしものもあり。其後冬期三ヶ月間の學習會にては不充分なるを以て、文部省令實業補習學校規程に基き其地の小學校に補習學校を附設し、大正に至りて併置に改めたり。補習學校の教員は小學校教員をして兼任せしめしめし、又専任教師を置くことゝなれり。三十七年四月青柳尋常高等小學校に於て高等科の修業年限を二年とし、別に修業年限二ケ年の實業補習學校を附設したるを本郡に於ける實業補習學校設置の始とす。翌三十八年四月福岡尋常高等小學校にも之を併置し、尋で各地に其設立を見たり。初めは大抵修業年限を二ケ年としたりしが、後には實業補習學校規程に従ひ四ケ年又は五ケ年とす。各學校を左に表示すべし。

實業補習學校表 (大正十四年三月末日)

| 校名 | 校位 | 置創立年月日 | 教 | 科 | 目 | 年修 | 限業 | 級教 | 員生 | 徒卒業生 | 備 | 考 |
|----|-----|---------|----------------|-------------|----|----|----|----|----|------|--------------|---|
| 青柳 | 青柳村 | 明治 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 二 | 一三 | 一六 | 四二年規則改正 | |
| 川上 | 日置前 | 三六、四、一 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 三 | 一六 | 九四 | 四四年學則改正 | |
| 本庄 | 南本庄 | 四五、四、一五 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 三 | 一四 | 五三 | 大正一〇年一二月學則改正 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|------|-----------|----------------|-------------|----|---|----|----|----|----|---|-------------------|
| 朽木 | 朽木場 | 四五、四、二九 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 一四 | 一四 | 一三 | 同 一一年一月學則改正 | |
| 饗庭 | 饗庭 | 大正 元、二、一六 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 四 | 一六 | 二五 | 同 一一年四月學則改正 | |
| 安曇 | 安曇中 | 四、四、一 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 五 | 二二 | 七二 | 同 一〇年一〇月規則改正 | |
| 大溝 | 大溝野 | 六、四、二 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 三 | 一五 | 三四 | 同 一三年三月女子部設置 | |
| 百瀬 | 百瀬保 | 六、四、三〇 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 一 | 四 | 九 | 同 一一年一月規則改正 | |
| 新儀 | 新儀庄 | 七、四、一 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 五 | 二四 | 七九 | 同 一一年一月規則改正 | |
| 海津 | 海津津 | 九、一、三 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 一 | 四 | 三〇 | 同 一〇年一二月規則改正 | |
| 劍熊 | 劍熊路 | 一〇、五、二四 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 五 | 一五 | 三三 | 同 一二年二月女子部設置 | |
| 西庄 | 西庄久保 | 一〇、二、一 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 三 | 一三 | 四六 | 一一年一二月女子部設置 | |
| 今津 | 今津町 | 二、四、一 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 四 | 一六 | 六二 | 明治四一年七月設置ノ今津女子實業補習學校アリ、之ニ學習會ヲ合シテ今津實補トセリ | |
| 水尾 | 水尾村 | 二、八、三 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 二 | 一五 | 四六 | | |
| 三谷 | 三谷坂 | 二、三、一〇 | 修身、國語、裁縫、家事、體操 | 國語、數學、裁縫、理科 | 農業 | 女 | 五年 | 五 | 一六 | 五五 | | 分教場三アリ、北生見、椋川、天増川 |

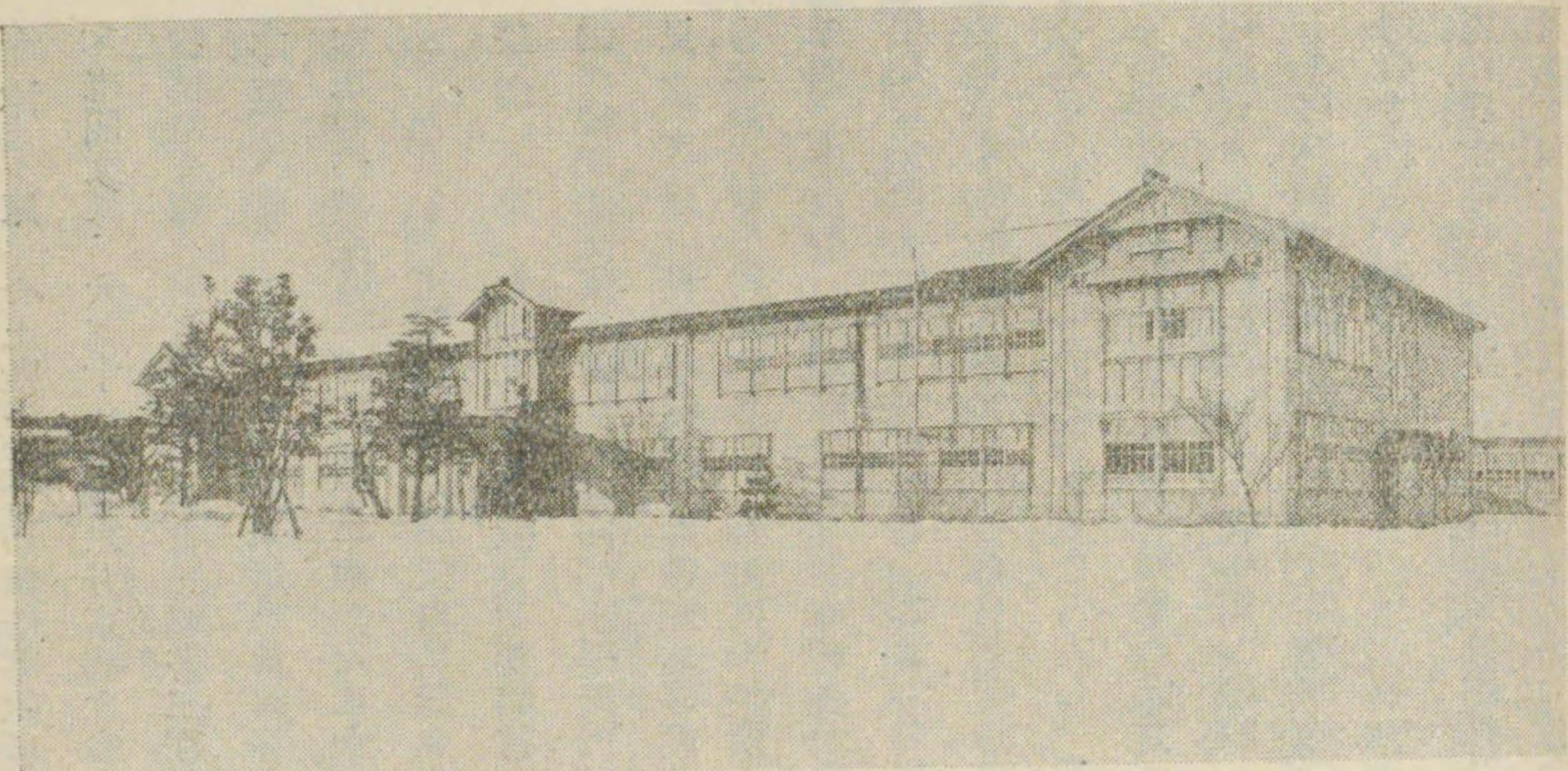
| | | | | | | | | |
|--------------------|--------|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 高島高島村 | 三、五、二 | 修身、國語、數學、農業 | 女 | 五 | 一 | 三 | 五 | 七 |
| 黒谷黒谷村 | 三、五、二 | 同前 | 女 | 五 | 一 | 二 | 五 | 一 |
| 廣瀬北廣瀬村 | 三、一〇、二 | 修身、國語、數學、理科 | 女 | 五 | 一 | 二 | 五 | 一 |
| 廣瀬南中野村 | 三、一〇、三 | 同前 | 女 | 五 | 一 | 二 | 三 | 一 |
| 廣瀬同村 | 明治四、一 | 裁縫、國語、修身、算術 | 女 | 三 | 一 | 一 | 六 | 五 |
| 裁縫同 | 四、一 | 體操 | 男 | 三 | 一 | 一 | 六 | 五 |
| 實業補習學校ニアラザレドモ此ニ附載ス | | | | | | | | |

中學校 大正九年二月認可を受け、縣立今津中學校を今津町に設置す。四月一日開校授業を開始す。敷地五千坪、校舎千五十七坪七五、寄宿舎二百二十六坪一。(設立費二十五萬圓)十四年三月第一回卒業生を出す、人員四十九名。大正十五年三月一日現在生徒數二百九十一名、學級數十學級とす。

教育團體

高島郡教育會 明治三十年四月二十五日の創立にかゝる。教育に關する各種事項の講究と其改良上進を目的とし、其事業として、一、演説講話討論、二、上級官廳への建議、三、互助をなす。大正十四年末現在會員數男百三十七名、女五十五名、計百九十二名、基本金四拾五圓四拾貳錢なり。

高島郡教員會 明治二十九年三月二十日の創立にかゝる。郡内各小學校の教員を會員として組織したることを以て教育に關する各種事項を講究調査し、其上進を圖るを目的とす。事業として、一、教育に關する講話討論等の諸會の開催、二、官廳への建議及び必要事業の經始、三、教授管理訓練養護上の打合、及び教育上必要の事項の審議調査、四、會員互助法を設けて窮厄相助くることとす。



今津中學校

第三の事業の爲めに全郡を東(川上、今津、養庭、新儀)西(三谷、朽木)南(廣瀬、安曇、高島、大溝、水尾、青柳、本庄)北(海津、劍熊、西庄、百瀬)の四部分ちて事業遂行に努めつゝありしが、大正十四年朽木二校を南部に併合し、三谷校を東部に併合して之を中部と改め、三部とせり。十五年より教科目毎に研究部會を設けて全郡を通じて第三事業を達成することとせり。第四の互助法の爲めには創立以來會員毎年俸給月額の百分三を出金して資金とせり。互助をなす場合は休職退職、非常の災厄に遭遇したる時、疾病或は災厄の爲め瀕死の場合、在職中死去の場合とす。十五年六月を以て郡役所を撤廢したるを以て同時に郡教育會を本會に併合し、會稱を高島郡教育會と改めたり。

圖書館 明治三十八年五月二十五日郡令第八號を以て藤樹書院文庫規則を定めらる。是本郡に於ける圖書館の首位にあるものなり。文庫は青柳村大字上小川舊藤樹書院に在り、郡有に屬す。是より先き大溝小學校に三十六年九月一日同窓會文庫を置き蔵書八百三十一冊を有して毎日曜日に貸出したりしも其後中絶す。四十二年七月安曇尋常高等小學校の一室に私立安曇圖書館を置き十月一日開館す。是私立圖書館の今に繼續する最初のものなり。現存本郡圖書館左の如し。

- 藤樹圖書館 青柳村大字上小川に在り。
- 安曇圖書館 安曇村大字田中に在り。
- 劍熊圖書館 京都渡邊嘉平金壹千圓、田地一反歩を寄附す。依て大正十一年十二月本館を設置す。十四年五月末圖書數五百九十六冊。
- 川上圖書館 本村青年團が縣より表彰されしを機會として設置す。

今津文庫 今上陛下東宮の御時本縣に行啓ありし記念として明治四十四年二月十一日今津東小學校内に置く。

不老閣文庫 大正十一年十二月京都大谷仁兵衛の寄贈により三谷尋常高等小學校椋川分教場内に設置す。蔵書五百冊。

省徳院文庫 同月京都内藤省三蔵書三百冊を父大谷仁兵衛より寄附、之を省徳院文庫と名けて同場内に置く。

水尾文庫 大正六年四月水尾尋常高等小學校内に置く。大正十四年四月現在圖書六百五十六冊。

本庄青年團文庫 本庄村青年團が大正十二年二月十一日縣教育會より表彰せられ、教育叢書六十冊下附されたるを機會として、本庄尋常高等小學校内に設立す。爾後毎年金五拾圓づつ新刊圖書を購入しつゝあり。

螢雪文庫 大正五年四月設立、新儀村大字太田に在り。

御成婚記念文庫 新儀尋常高等小學校内に置く。

兒童文庫 皇太子殿下御成婚記念事業として大正十三年五月饗庭尋常高等小學校内に置く。

青年團文庫 同記念として饗庭村青年團森、深溝の兩支部に置く。

青年團、處女會 幕府時代より各町村各大字に若連中、稱する團體あり、大抵男子十四五歳より配偶を有するまでのものを以て組織し、年長者が頭分となりて支配し、其大字の川普請、道普請或は雪除け等の勞働に従事したりしが、一方彼等に品性の修養に資すべき設備なく、其弊風に堪へざるものあり。明治三年九月大溝藩にては若者仲間を立つることを禁せしが、此以前に於ても同じ禁令を出せしことあり。其弊風の由來するところ古し。明治二十年頃より漸く各大字の青年間に覺醒して新に團體を組織するものありて、會名を選びて青年會又は俱樂部と稱し、知徳の修養と娛樂とを目的とせり。大正四五年の間内務文部兩大臣の訓令に基き各村に其各大字の青年が組織せる各團體を統一して青年團を組織し、各大字に支部を設置す。七年十二月七日又各町村の青年團を統一して高島郡青年團を組織し各町村團體は其支部となりて其地方的に活動し、又知徳の修養と共に體育の方面にも一般に努力することとなり。從來青年團體の選奨されしものは

- 明治四十二年二月十一日 滋賀縣選奨 賞金貳拾圓
- 大溝町 永田學友會
- 新儀村 螢雪學習會

大溝町 大溝同窓會

青柳村 下小川白瀝會

- 同 四十二年十月 内務省選奨 賞品書籍
- 同 四十四年五月二十七日 文部省選奨 賞金五拾圓
- 大正元年十二月十一日 大日本農會表彰
- 安曇青年團
- 大正六年二月二十一日 縣教育會選奨 賞金貳十圓
- 川上村青年團
- 大正九年二月十一日 縣教育會表彰 賞品教育叢書一部
- 本庄村青年團
- 大正十二年二月十一日 同 同

本郡郡長、青年團、尙武會、等の表彰するところとなりしものありと雖も今悉く詳にしがたし。各町村青年團は次表の如し。處女會は教育勅語成申詔書の主旨を遵奉し、貞淑温良の徳を養ひ良妻賢母たるべく修養する爲めに組織したる所なり。義務教育修了者學齡超過者にして年齡二十歳以下の未婚女子を會員とす。適宜補習教育を行ひ、講習會講演會展覽會等を開催し、社會奉仕共同作業を行へり。

青年團處女會表 (大正十年)

| 青年團創立年月日 | 同支部數 | 第一班團員 | 第二班團員 | 計 | 處女會創立年月日 |
|----------|----------|-------|-------|-----|------------|
| 海津村 | 大正五、八、一六 | 四 | 三七 | 三八 | 大正一〇、一二、一五 |
| 劍熊村 | 五、八、一六 | 七 | 四六 | 五三 | 四、二、一一 |
| 西庄村 | 五、八、七 | 七 | 七七 | 八四 | 一〇、 |
| 百瀬村 | 三、 | 七 | 四四 | 五一 | 一一、八、一六 |
| 川上村 | 五、 | 一一 | 一〇四 | 一一五 | 一一、 |
| 今津町 | 五、四、二五 | 一一 | 五九 | 七〇 | 二〇、二、 |

| | | | | | | |
|-----|--------|-----|-------|-----|-------|---------|
| 三谷村 | 五、四、? | 八 | 四〇 | 四三 | 八三 | 一一、六、二五 |
| 朽木村 | 五、七、二五 | 一四 | 一三五 | 七〇 | 一〇五 | 一一、四、 |
| 廣瀬村 | 五、六、二五 | 五 | 五七 | 四四 | 一〇一 | 五、 |
| 安曇村 | 四、一、一五 | 一三 | 一〇九 | 九四 | 二〇三 | 九、四、一五 |
| 高島村 | 五、五、一五 | 六 | 四九 | 三九 | 八八 | 一一、四、一五 |
| 大溝町 | 五、五、一三 | 六 | 四一 | 四〇 | 八一 | 九、二、一一 |
| 水尾村 | 五、七、? | 五 | 六四 | 四八 | 一一二 | 六、一、? |
| 青柳村 | 四、三、? | 四 | 五四 | 六二 | 一一六 | 一一、三、二〇 |
| 本庄村 | 五、八、一五 | 六 | 六一 | 一一〇 | 一八一 | 一〇、一〇、一 |
| 新儀村 | 五、四、三〇 | 七 | 一〇八 | 六八 | 一七六 | ? |
| 饗庭村 | 四、一〇、? | 一五 | 一四二 | 二八 | 一七〇 | 七、二、一一 |
| 計 | | 一三八 | 一、二四七 | 九五七 | 二、二〇四 | |

表 (大正十四年三月末現在)

| | | | | |
|-----|----|-----|-------|-------|
| 青年會 | 一七 | 第一班 | 一、五〇九 | 三、九四六 |
| 處女會 | 一七 | 第二班 | 一、一六五 | 八五〇 |
| 計 | | | 一、五一二 | |

(附)報徳會堂用材献木 伏見桃山なる報徳會は明治天皇が下し給ひたる教育に關する勅語を御聖徳を廣く國民一般に周知せしめんと欲して陸軍中佐花田伸之助が創立したるものにして、陸軍歩兵大尉松本七郎は其誠意に感じ、其主旨を體し、同地に報徳會堂勅語奉安殿を建設せんと欲し、先づ其主旨の徹底を建設費の造成を得る爲め全國の巡回を企て、高島郡は近江聖人が發祥の地にして且は同人

が教習歩兵十九聯隊に在勤中饗庭野に往來したる緣故によりて大正十二年十月初に本庄村に來りて同地小學校にて講話を開きたり。彼が建設費の造成方法は日本全國に互りて毎月に教訓古歌集一部(一部五錢)づつ購入を請ひ、其利益を以てせんとするものにして、宿泊費を節する爲め寒暑を厭はず各地に露營して巡回せり。朽木村にて其講演を開きしに、同村民は彼が熱誠奮闘の精神に感動し、其建設費造成方法にては豫算額を得るまでには約四十年の歳月を要するを以て、同村より建築用材一萬五千才を献納することせり。同村の一婦人は感激の餘り、其人柱たらんと申出でしも容れざりしかば、更に頭髮を献じ、同村處女會等の婦人も此婦人の行動に感じて同じく其頭髮を献せり。十三年十二月十五日用材八千才は朽木山より伐採せられて安曇川を流下し船木港に着し、第二回七千才は十四年一月二十二三日の兩日船木港に着し、袋にくみて金丸灣内に繋留し、同月二十九日日本庄尋常高等小學校の運動場に於て官民合同の輸送式を舉行せり。參列者は報徳會よりは堀内少將、花田中佐、松本大尉、桃山陵墓監、陸軍よりは第十六師團長代理安原少將、本縣よりは末松知事、立川社會教育主事、鳥越社會課囑託、本郡にては松山郡長以下郡吏數名、本庄村長以下吏員、小學校長以下教職員十數名、朽木村代表者、郡内各代表、井上大溝警察分署長等其他中學校小學校兒童、在郷軍人、青年團員處女會員、一般町村民總計二千五百十人なり。式は南船木日枝神社々掌松田助藏の修祓ありて後、松山郡長は司會者として開會の挨拶をなし、末松知事、十六師團長代理の祝詞を花田中佐の訓話あり。花田中佐は松本大尉の事業に對する後援を高島郡民が誠意、朽木本庄兩村民の盡力等について感謝し、終りて兩陛下の萬歳を奉祝して式を終れり。用材の袋は南船木の青年乗組みて、會場近く南方湖邊に繋留せられ、修祓を終りて、式の終るを待ち、正午の號砲によりて太湖汽船日吉丸に曳かれて出港す。湖上には十數艘の和船に國威宣揚を記したる數旆の大旗及び吹流しを押し立て、在郷軍人青年團員之に乗船して見送り、湖岸に群がりし群集は各々手にせる國旗を振り揚げ、萬歳聲裡に大津港に向つて出發せり。かくて大津疏水に着し、歩兵第九聯隊兵士の手によりて疏水を下り、三十日伏見桃山に到着せり。朽木谷伐木、船木式場、袋の出發、大津疏水の陸上げ、及び船積、桃山着材等の光景は皆活動寫眞に映寫して、攝政宮殿下の台覽に供し奉れり。

第九章 産業

本郡は古來農業を以て主業とし、湖邊に沿ふと雖も、水産業は副業たるに過ぎず。工業の如きも徳川時代に於て副業として始まりしもの、漸次發達して明治時代に入りて專業となすものあるに至れるなり。明治十四年に於ける各産額を見るに農産物は第一位を占め百參萬九千圓、工産物は拾五萬九千圓、此に繭生糸を加ふるも拾八萬圓に過ぎず。水産業に至つては僅に壹萬圓なり。山林の生産物としては木炭及び油實あり。油實は部々桐實にして其額稱するに足らず。相當産額あるものは木炭の壹萬圓なりとす。其總産額は百貳拾六萬七千參百拾參圓、此を人口に割當れば一人當貳拾六圓拾四錢參厘とす。更に此を大正の今日に對照するに其間大なる増額を見るべし。從て其間に於ける我郡の産業も甚大の發展をなしたるを見とむるを得べし。

| | | | | |
|------|-----|------------|---------|---------|
| 大正七年 | 總産額 | 七、四七四、九九一圓 | 現住人口一人當 | 一五四圓三六二 |
| 同十二年 | 同 | 八、〇八九、五三五圓 | 同 | 一六九圓三六〇 |

左に明治十四年と大正七年十二年の産額を擧げて對照の便に供すべし。

農産物水産物 (明治十四年一月)

| 品名 | 作附反別 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 |
|-----|---------|--------|--------|-------|-------|----|----------|
| 類 | 五二九、四四五 | 八三、〇〇四 | 八六、六〇九 | 五、五二五 | 三〇九 | 蠶種 | 五斤 一〇八 |
| 糯 | 三五七、六七 | 五、五六二 | 五、六七五 | 一五〇 | 四七 | 繭 | 三三、六四五 |
| 大麥 | 三九三、〇二 | 三、六五四 | 一九、三四三 | 五、八一 | 二二七 | 生糸 | 一、二六六 |
| 小麥 | 四二八、九 | 二〇七 | 一、三六六 | 一、〇六三 | 一五三 | 製茶 | 一〇、六三三 |
| 裸麥 | 二九一、七 | 二七六 | 一、九一三 | 二、六二五 | 四、九〇 | 干柿 | 一七〇斤 |
| 粟 | 七三三、三 | 九〇二 | 二、二六四 | 八、四四七 | 九九九 | 楮皮 | 七五〇斤 |
| 黍 | 三六三、三 | 一八六 | 八七六 | 四、四八九 | 一、〇〇二 | 部々 | 一七六斤 |
| 稗 | 三三〇、九 | 一七二 | 四三三 | 三〇斤 | 七五 | 桐實 | 六四 |
| 大豆 | 二六二、九七 | 一、五六五 | 一三、七六〇 | 九 | 八 | 炭 | 一四五、八六六斤 |
| 小豆 | 五二、五 | 一九〇 | 一、九五五 | 八〇 | 九 | | |
| 蕎麥 | 三三三、六 | 一、〇六三 | 六、三四 | 二四四斤 | 一、一七六 | | |
| 蜀黍 | 二六八 | 二三 | 一〇九 | 九五 | 一、〇六四 | | |
| 玉蜀黍 | — | 一三七斤 | — | 三七 | 三三六 | | |
| 菜種 | — | 六、六三三斤 | 四四、三七五 | 一五九 | 五二七 | | |
| 甘藷 | 六六 | 四〇、五二斤 | 四四七 | 一四〇 | 五三三 | | |
| 馬鈴薯 | — | — | — | 一五 | 七九 | | |
| 實綿 | — | — | — | 二五〇羽 | 五五 | | |
| 藍葉 | — | — | — | — | — | | |
| 麻 | — | — | — | — | — | | |

葉煙草 一七、七三四 二、四〇〇
計 一〇、三九七、七五五

一〇、八九六

一一三六

三九、五九五

製造物礦鑛物 (明治十四年一月)

| 品名 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | |
|-----|---------|--------|-----|-------|-------|----|---------|
| 高島縮 | 一二五、五〇三 | 一四六、五七 | 刺刀 | 五、四三三 | 三、八〇七 | 箕 | 八二 |
| 藤布 | 二〇七 | 一六一 | 鋤 | 一三五 | 五四 | 珠數 | 一〇〇連 |
| 麻布 | 一三三 | 一八一 | 備中鋤 | 七六 | 六三 | 計 | 一五九、四四二 |
| 扇子骨 | 三六六、〇〇〇 | 一、九二六 | 鑛 | 五六〇 | 五二 | 石灰 | 一九三、〇〇〇 |
| 硯 | 二五九、〇〇〇 | 六、三七五 | | | | 計 | 一七、六二五 |

農産物

| 品名 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | |
|----|--------|--------|------------------|---------|----------|----|-----------|
| 大麥 | 一三、三〇〇 | 八、二六 | 小麥 | 一、四四四 | 六八、六四二 | 其他 | 一八、一八六 |
| 裸麥 | 一〇、一四九 | 七、五四 | 豆類 | 八五、二〇五 | 一〇、二六〇 | 計 | 三、四七六、三三六 |
| 其他 | | | 果實以上ノ外ノ 食用農産物 | 四〇、五四〇 | 二四一、三〇三 | 計 | 八五三、九〇〇 |
| 菜種 | 五七、三三六 | 二七、九九 | 果實以上ノ外ノ 農産物小計 | 二四一、三〇三 | 三、八七、〇〇八 | | |
| 綠肥 | 二七、九九九 | 一〇、五三二 | 苗木 | 二、七〇二 | 三三、〇七二 | | |
| 繭種 | 三五、九〇一 | 九、〇元 | 其他 | 七三 | 四七、三六九 | | |
| 繭 | 三〇、五三二 | 三、六、五七 | 計 | 二、七三三 | 一三三、二八九 | | |
| 其他 | 一〇、一四九 | 七、五二四 | | | | | |

畜産

| 品名 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 |
|---------|--------|--------|------|--------|---------|---------|
| 家畜生産及屠殺 | 一八、八一〇 | 四、五六〇 | 牛乳 | 一一、一〇六 | 四六、七三〇 | 一三、八〇〇 |
| 牛 | 五、一六二 | 一〇、九七〇 | 家禽生産 | 七、八二六 | 三、六〇〇 | 一六一、九三一 |
| 家禽 | 一〇、九七〇 | 二二、九二四 | 家禽卵 | 三、六〇〇 | 一六一、九三一 | |
| 縣外移出牛 | | | 小計 | | | 九五、〇〇六 |

水産物

| 品名 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 |
|-----|---------|--------|-------|--------|---------|---------|
| 漁獲物 | 一四三、六〇一 | 四二、五五六 | 水産製造物 | 三〇、〇九四 | 一八六、一五七 | 一三九、八〇一 |
| 小計 | 一〇九、七〇七 | 三〇、〇九四 | | | | |

林産物

| 品名 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 |
|-----|---------|---------|----|--------|---------|---------|
| 薪炭材 | 二七九、一六九 | 一三五、九九三 | 竹材 | 三、六二六 | 二八二、九六八 | 七二九、七五六 |
| 其他 | 二五二、〇二七 | 一二五、九二九 | 其他 | 四三、〇八五 | 三八七、八〇九 | 八〇八、八五〇 |
| 小計 | | | | | | |

鑛産物

| 品名 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 | 産額 | 價額 |
|-----|-----|--------|-----|--------|--------|--------|
| 鑛産額 | 四二〇 | 一三、四五七 | 土石類 | 三三、九一一 | 一三、八七七 | 三三、九一一 |
| 小計 | | | | | | |

工業産物

第三編 第九章 産業

一一三七

| | | | | | | | | |
|------|------|---------|--------|-------|-------|---------|---------|---------|
| 大正七年 | 七、七四 | 一、五五、六八 | 五八、六三 | 一、七五〇 | 四七、九五 | 二、五八、八七 | 七、四四、九二 | 一、五四、三六 |
| 同十二年 | — | 一、〇八、〇八 | 七三、八五〇 | 三、三三三 | 八四、八八 | 二、六三、〇〇 | 八、〇九、五五 | 一、九、三六 |

第一節 農業

本郡に於ける工産は近來非常に發達して、其産額貳百六拾萬圓に上れりと雖も、農産は依然首位を占め、四百參拾萬圓に達す。郡民が生業の大部分は農業にあり。大正十二年の現住戸數百に對する農戸は七十八戸餘に當る。猶大正七年十二年の對照數を示せば左の如し。

| | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|------------|----|
| 大正七年 | 同十二年 | 專業 | 兼業 | 計 | 百分比 | | 農家一戸當耕地 | | 現住戸數百に付農戸數 | |
| | | | | | 專業 | 兼業 | 町田 | 町畑 | 町計 | 町計 |
| 五、三九 | 四、八五二 | 二、八〇九 | 二、八〇九 | 八、一三六 | 六、七九 | 〇・七九 | 〇・一一 | 〇・九〇 | 六、二四九 | |
| 二、一八五 | 二、〇六五 | 三、一〇〇 | 二、八五三 | 八、一三六 | 二、六六五 | 二六・六五 | 三六・〇九 | 三五・〇六 | 三、五〇六 | |
| 二、〇六五 | 二、六三二 | 二、九六五 | 七、六六二 | 七、六六二 | 二六・九五 | 三四・三四 | 三六・七一 | — | — | |

又農戸が自作小作の關係を見るに自作の二十七戸に對し小作三十四戸自作小作兼三十八戸の比例なり。猶左に大正七年十二年の對照表を示すべし。

| | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|---------|-----|------|------|---------|-------|------------|----|
| 大正七年 | 同十二年 | 自作農家 | 小作農家 | 自作兼小作農家 | 計 | 百分比 | | 農家一戸當耕地 | | 現住戸數百に付農戸數 | |
| | | | | | | 自作 | 小作 | 町田 | 町畑 | 町計 | 町計 |
| 三、二七 | 二、八六七 | 一、六四〇 | 一、四九〇 | 二、七三 | 一〇〇 | 六、七二 | 四、九七 | 二、四四三 | 二、〇六七 | | |
| 一、六四〇 | 一、五三六 | 一、四九〇 | 二、七三 | 一〇〇 | 二〇 | 六、七二 | 四、九七 | 二、四四三 | 二、〇六七 | | |

農家を其耕地所有別より見る時は五反歩未滿は四割五分を占め、五反歩以上一町歩以下二割五分、一町歩以上は三割とす。大正七年十二年を對照すれば左の如し。

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|---------|-------|------------|--|
| 大正七年 | 同十二年 | 五反歩未滿 | 五反歩以上 | 一町歩以上 | 三町歩以上 | 五町歩以上 | 十町歩以上 | 百分比 | | 農家一戸當耕地 | | 現住戸數百に付農戸數 | |
| | | | | | | | | 五反歩未滿 | 五反歩以上 | 一町歩以上 | 一町歩以上 | | |
| 一、九九四 | 一、九二九 | 三、六六四 | 二、二九七 | 一、七二 | 二 | 八、一三六 | 一三、八九 | 四五・〇二 | 一、六・三三 | | | | |
| 三、六六四 | 三、三三八 | 二、二九七 | 一、七二 | 二 | 八、一三六 | 一三、八九 | 四五・〇二 | 一、六・三三 | — | | | | |

又耕作地反別より見る時は五反歩以上一町歩以下四割三分を占め、一町歩以上は三割、五反歩以下は二割五分とす。而して五町歩以上を耕作するものなし。大正七年十二年を對照すれば左の如し。

| | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|------------|--------|--------|
| 大正七年 | 同十二年 | 自作地 | 小作地 | 計 | 百分比 | | 農家一戸當耕地 | | 現住戸數百に付農戸數 | | |
| | | | | | 自作 | 小作 | 町田 | 町畑 | 町計 | 町計 | |
| 三〇、六四六 | 三三、一六一 | 六、五三三 | 三、七、八〇 | 三三、一七七 | 二、五九三 | 三、四、〇〇 | 六、二、五五 | 九、二、五五 | 七、四、〇〇 | 五、三、〇〇 | 四、八、〇〇 |
| 六、五三三 | 五、七〇六 | 三、七、八〇 | 三、一、四六 | 二、三、九〇 | 三、三、三六 | 六、二、五五 | 八、〇、九六 | 七、〇、〇〇 | 五、三、〇〇 | 四、八、〇〇 | — |

各町村自作地及小作地段別表

| 町村 | 大正十二年 | | | 大正十三年 | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 自作 | 小作 | 計 | 自作 | 小作 | 計 |
| 海津 | 四三〇 | 八七二 | 一、二九七 | 四三二 | 八七五 | 一、二九七 |
| 劍熊 | 一、三四三 | 一、一三三 | 二、四五六 | 一、三四一 | 一、一三三 | 二、四五四 |
| 西庄 | 一、五九〇 | 一、〇九三 | 二、六八三 | 一、五九〇 | 一、〇九三 | 二、六八三 |
| 百瀬 | 一、七二一 | 一、二三七 | 二、九五八 | 一、七六二 | 一、二二五 | 二、九八七 |
| 川上 | 二、一八七 | 二、五〇四 | 四、六九一 | 二、一五八 | 二、五三三 | 四、六九一 |
| 今津 | 二、四一四 | 二、〇五八 | 四、四七二 | 二、四〇八 | 二、一五六 | 四、五六四 |
| 三谷 | 一、二三四 | 一、二四七 | 二、四八一 | 一、二三四 | 一、二〇七 | 二、四四一 |
| 朽木 | 三、四九三 | 一、一九六 | 四、六八九 | 三、四九三 | 一、二〇一 | 四、六九四 |
| 廣瀬 | 一、六五〇 | 二、二九〇 | 三、九四〇 | 一、六六五 | 二、二九九 | 三、九六四 |
| 安曇 | 二、二九六 | 三、二七三 | 五、五六九 | 二、三二一 | 三、二四八 | 五、五六九 |
| 高島 | 一、九一七 | 一、〇三三 | 二、九五〇 | 一、九三九 | 一、〇一三 | 二、九五二 |

| | | | | | | |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 大溝 | 九六一 | 一、三九九 | 二、三六〇 | 九六〇 | 一、四二〇 | 二、三八〇 |
| 水尾 | 二、〇三三 | 二、九六九 | 五、〇〇二 | 二、〇二八 | 二、九七四 | 五、〇〇〇 |
| 青柳 | 一、六六八 | 一、九七八 | 三、六四六 | 一、七二四 | 一、九五五 | 三、六六九 |
| 本庄 | 一、六二二 | 一、四四七 | 三、〇七〇 | 一、一五〇 | 一、七二六 | 二、八七六 |
| 新儀 | 一、六八三 | 三、八〇七 | 五、四八五 | 一、六八四 | 三、八〇二 | 五、四八六 |
| 饗庭 | 二、九二五 | 三、〇六三 | 五、九八八 | 二、九三五 | 三、〇五九 | 五、九九四 |
| 總計 | 三一、一六一 | 三一、二四六 | 六二、四〇七 | 三一、〇五三 | 三一、五八〇 | 六二、六三三 |

地主と小作との關係は圓滿なり。南部地方に於て明治三十年頃より木綿縮製造に従事する方工賃の
 收得多く、耕作をなすもの漸次減少して小作田地を地主に返還するもの増加し、四十年頃には地主の
 多數は田地を自作するもの多く、大正七八年の頃に至りて此傾向最も甚しかりしが、大正九年經濟界
 の激變にて木綿縮製織の業も亦大に衰へ、地主に返戻したる小作地を再び小作人にて耕作するに至れ
 り。又耕作労働雇入は新儀村朽木村等安曇川沿岸の牛馬耕の地にては不足を感ぜざるも、中央以北に
 ては雇入るゝ事多し。雇入には常雇、季節雇、日雇あり。多くは日雇なり。然も今日にては其日雇に
 も不足を感ずるに至れり。三谷村にて従來日雇賃錢男は米四升、女は二升なりしが、明治三十七八年

頃より金銭となり、大正七八年以後は農繁期に於て男は貳圓、女は壹圓、其他の季節にては男壹圓八拾錢、女九拾錢とす。劔熊村西庄村等は猶是より低廉なれども、平野地方は男子貳圓、女子は壹圓五拾錢を普通とす。

裏作は山地方面にては氣候の關係上行はれず。平野地方に於ても漸次減少の傾向なり。裏作は現今主として紫雲英、莖苔を栽培す。大正七年十二年を對照すれば左の如し。

| 年 | 一毛作 | | 二毛以上作 | | 合計 | 百分 | |
|------|--------|-------|--------|--------|--------|------|-------|
| | 普通裏作 | 綠肥裏作 | 普通裏作 | 綠肥裏作 | | 一毛作 | 二毛以上作 |
| 大正七年 | 四一、一九七 | 二〇、九一 | 一〇、二四七 | 二一、一五八 | 六二、三五五 | 六六・一 | 一七・五 |
| 同十二年 | 四三、五八一 | 八、七〇 | 二一、四一八 | 二八、一八六 | 六二、四〇七 | 六九・八 | 一三・九 |

各町村一毛作及裏作田段別表

| 町村 | 大正十二年 | | 大正十三年 | |
|----|-------|-------|-------|-------|
| | 一毛作 | 二毛以上作 | 一毛作 | 二毛以上作 |
| 町村 | 一、〇四九 | 二四八 | 一、〇四八 | 二四九 |
| 海津 | 二、四三〇 | 二六 | 二、四三二 | 二二 |
| 劔熊 | 二、四五六 | 一四四 | 二、四五六 | 一四四 |
| 西庄 | 二、五三六 | 四二二 | 二、五五〇 | 四三五 |
| 百瀬 | 二、七〇八 | 一九八三 | 二、七七一 | 一九二〇 |
| 川上 | 二、七七六 | 一、六九三 | 三、〇四四 | 一、七六〇 |
| 今津 | 一、五七〇 | 一〇 | 一、五七〇 | 一〇 |

| 三谷 | 大正十二年 | | 大正十三年 | |
|----|--------|--------|--------|--------|
| | 一毛作 | 二毛以上作 | 一毛作 | 二毛以上作 |
| 三谷 | 一、五七〇 | 一〇 | 一、五七〇 | 一〇 |
| 朽木 | 四、六三九 | 一、三五〇 | 四、六八九 | 四、六四〇 |
| 廣瀬 | 二、二三九 | 一、三六一 | 二、二三八 | 一、三六二 |
| 安曇 | 一、四四〇 | 四、一二九 | 一、四四〇 | 四、一二九 |
| 高島 | 二、〇六八 | 八八四 | 二、〇六八 | 八八四 |
| 大溝 | 一、八三三 | 五二七 | 一、八三八 | 五四二 |
| 水尾 | 三、四一三 | 一、五八九 | 三、四一一 | 一、五九一 |
| 青柳 | 二、四二四 | 一、二二二 | 二、四四七 | 一、二二二 |
| 本庄 | 二、三四二 | 七二八 | 二、一三一 | 七四五 |
| 新儀 | 三、四八五 | 二、〇〇〇 | 三、四八五 | 二、〇〇一 |
| 饗庭 | 四、一七三 | 一、八一〇 | 四、一八四 | 一、八一〇 |
| 總計 | 四三、五八一 | 一八、八二六 | 四三、七五三 | 一八、八八〇 |

牛馬耕は明治三十二年頃より獎勵せられ、今日の如く普及するに至れり。即ち全耕地の六割五分を占む。大正七年同十二年を對照すれば左の如し。

| 年 | 農作用牛馬計 | | 牛馬耕地反別計 | | 耕地百中牛馬耕地 | |
|------|--------|-----|---------|-------|----------|----|
| | 牛 | 馬 | 畑 | 田 | 畑 | 田 |
| 大正七年 | 七九〇 | 三五六 | 二五、九六五 | 二、六〇八 | 二八、五七三 | 四二 |
| 同十二年 | 一、〇九七 | 三〇一 | 二六、〇一八 | 一、八九五 | 二七、九一三 | 四二 |

耕地整理 大正十二年十二月末日現在、郡内の耕地整理施行認可を受けしもの十三區、内工事完了

したるもの十區とす。即ち左の如し。

| | | | | | | |
|------|----|----|----|-------|-------------------|---------|
| 施行認可 | 地區 | 一三 | 面積 | 五九三・八 | 整理費用 | 五七二、三二四 |
| 工事完了 | 同 | 一〇 | 同 | 二四一・三 | | |
| 換地處分 | 同 | 九 | 同 | 二五一・五 | | |
| 事業修了 | 同 | 三 | 同 | 四七・二 | (縣統計書に據る、次表と一致せず) | |

整理地は左表の如し。

耕地整理表 (大正十四年末現在)

| 町村大字 | 着手年月 | 地區内土地所有者數 | 面積 | | 總額 | 平均反當 | |
|--------|----------------------------|-----------|-------------------|------------------|--------------------|---------------------|--------|
| | | | 民有地 | 國有地 | | | |
| 劍熊在原 | 明治四十四年四月五日 大正四年四月十六日 | 二七 | 二六・九 ^反 | 二・八 ^反 | 四、四五五 ^円 | 一五〇・〇〇 ^円 | |
| 川上福岡 | 明治四十五年四月一日 大正三年四月二十日 | 三六 | 八五・〇 | — | 八五〇 | 四、五八〇 | 五三・八八 |
| *同 北仰 | 大正元年八月一日 | 三五 | 四〇〇・〇 | — | 四〇〇・〇 | 一一、〇〇〇 | 二七・五〇 |
| *同 淡海 | 大正二年六月一日 | 二〇八 | 一、五四〇・〇 | — | 一、五四〇・〇 | 二七四、二七三 | 一七六・四三 |
| 今津梅原 | 明治三十八年四月二十四日 同四十年四月三十日 | 五五 | 一四二・三 | 三・一 | 一四五・四 | 一、四二四 | 九・七三 |
| 同 南梅野原 | 大正十一年八月二十五日 同十二年四月二十日 | 四六 | 八四・九 | — | 八四・九 | 二、三六五 | 二九・〇〇 |
| *同 梅岸原 | 明治四十二年十月一日 | 二九 | 四三・七 | 一五・二 | 四四八・九 | 三七、二二九 | 八二・六九 |
| 同 外蘭二字 | 同四十二年十月七日 大正三年八月十一日 | 一五〇 | 五八〇・〇 | 一八・三 | 五四六・三 | 五五、〇〇〇 | 九五・五三 |
| 朽木岩瀨 | 明治四十年三月十日 大正五年八月十日 | 四三 | 七四九・〇 | — | 七四九・〇 | 三、三三五 | 四三・〇五 |
| 安曇田中 | 明治四十年十月一日 | 四三 | 五〇〇・〇 | — | 五〇〇・〇 | — | — |
| 本庄北船木 | 明治四十二年四月二十日 大正三年十二月二十五日 | 一六三 | 六九一・一 | 四八・五 | 七三九・六 | 二五、一一一 | 三三・九五 |
| 新儀新庄第一 | 明治三十八年十二月十六日 同四十年五月十六日 | 六四 | 二四二・四 | 五・七 | 二四八・一 | 九、一〇〇 | 一八・三五 |
| 同 同第二 | 同四十二年六月二十七日 同四十二年五月三十一日 | 三四 | 五七・二 | 一・八 | 五九・〇 | 五、七〇〇 | 三三・七三 |

○安曇村大字田中耕地整理は事業未着手のまゝ、大正十四年四月十三日認可取消となる。*は未終了に屬す。
○川上村淡海は其地區、大字酒波、日置前、福岡の一部(構)に互れるが故に別に淡海の名を撰びしなり。

以上の内、川上村淡海耕地整理の工事は本郡に於ける第一事業なりとす。其工事状況を擧ぐれば、同村大字日置前、大字酒波、大字福岡の内構の廣漠たる畑地は殆不耗に近きものを以て、有志の間に於て相當の利益を擧げんとするには水田となすにありとし、調査の結果水源を石田川上流赤坂河原谷に求むるを適當なりとせるも、是を引くには延長の大なる隧道を掘鑿するに非れば引水の方法なきを以て、一時中止のまゝなりしを、同村松本彦平其外の有志等共に奔走して漸く村民の同意を得、大正元年九月測量に着手し、年内に設計成り、組合設立認可を受け、二年七月第一着手工事として引水

隧道を兩口より起工したり。工事は晝夜其進行を圖りしも、一日の工程五寸乃至五尺許にして進行に伴ひ、多量の水分を含める軟弱なる岩質に遭遇し、一時に坑内に多量の土砂流出して工事の進行を不可能ならしめしが、土砂の排除に努めて二十餘日の後に漸く復舊し、四年十二月貫通せり。又八十尺餘の堰堤工事に於ては第一築堤の安全を保たため排水隧道を鑿し夫より堤の本掘に着手し、岩層を除去すること二十八尺にして初て完全の層を得、以後漏水の關係上晝夜兼行にて地盤までの羽金を築造すると共に、刃金雜土と築堤工事の進行を圖りしも、其地は山深くして村内よりは程遠きを以て人夫は此に小屋掛にて之に従事し、且又積雪の爲め交通斷ゆるが故に農閑の五ヶ月間は工事中止の止むなき等にて其工事は困難を極め費用は増加したりしが、十二年九月漸く堰堤の完了するを得たり。其他貯水を他區に引水すべき装置、排水隧道の埋込み、餘水吐の工事を起し、大正五年五月の起工より滿七ヶ月を以て十二年十月一日全く溜池を完了せり。地區開田工事は隧道よりの湧出水及び溜池受水池の一部より流下するものを引用する目的にて四年秋より着手し、溜池工事の不能なる毎冬期間に漸次整地し、溜池工事完了の十二年十月には新開田地三十町歩を得たり。猶引續き施行せり。工事終了昭和三年八月三十一日の豫定なり。工事概要を擧ぐれば、

地區總反別

内譯 開墾地反別

百五十五町九反三畝歩
六十三町八反歩

田畑

六十四町一反歩

山林原野

二十八町三畝歩

工事

隧道 延長六百七十二間

巾四尺 高五尺 勾配千二百分ノ一

溜池 最高水面積

十二町一反一畝歩

最高水深

四十尺

周界

二十八町十八間

滿水量

十九萬立坪

有效利用水量

十七萬千六百六十五坪

灌溉反別

九十町歩

受水面積

三百町歩

堰堤 延長五十間

堤高八十尺 堰堤谷巾五間 馬踏巾四間 表法勾配三割 裏同二割五分 土坪一萬五千四百四十立坪(内刃金二千二百二十六立坪、雜土一萬三千三百十四立坪)

排水隧道

延長五十八間 掘鑿斷面巾三尺高四尺 暗渠三十間(内徑一尺五寸長三尺の鐵筋コンクリート土管ヲ埋設す)

餘水吐

放流二十四間 最大流下洪水量千三百六十二立方尺 放流面は厚さ平均五寸のコンクリート張

引水塔

高四十尺 内徑五尺 側壁厚二尺の鐵筋コンクリート 引水装置は内徑十寸の制水瓣二個によるものす

開田工事 六十三町二反八畝歩(内四十町歩終了)南北に通ずる耕作道及び車道を六十間毎に設く

經費

總工事費

四拾八萬貳千貳百四拾貳圓

内譯 隧道費

九萬七百四圓

溜池費

拾參萬八千四百拾九圓

開田費

八萬參千貳百七圓

設備費 壹萬六千百貳拾圓

道路水路費 七千六圓

創業費 貳千六百七拾參圓

其他 拾四萬四千百拾參圓

本工事に對し農林省より助成金拾貳萬壹千四百五拾壹圓、縣補助金六萬九千參百七拾四圓、郡補助金七百九拾壹圓を下給せらる。又借入金は日本興業銀行拾四萬圓、其償却方法は三ヶ年据置き以後十年賦、利率年七分。滋賀縣農工銀行より借入金六萬五千圓償却方法三ヶ年据置き、以後十五ヶ年賦、利率年八分五厘。低利資金一萬五千圓なり。

次に本庄村の工事狀況を記すれば同村大字北船木字永龍の地は土地の傾斜緩なると水路の勾配一定せざるため、其一部は排水不良にして十分の收穫なく、且二毛作も不可能なり。他の一部は灌溉不便にして稻作に利あらず。又曾て堤防缺潰して流入したる土砂を積みし土丘、耕地の一部にあり。東北方湖邊には大なる内湖沼を控へて空地をなせり。仍て村民間に大規模の土地改良の議起りしかば、此機に乗じて耕地整理を施行するに決し、明治四十二年一月二十七日認可を得たり。參加人員百七十二人、整理地區の總反別及び其地目左の如し。

總反別六十八町一反十三步

内譯 田 五十八町七反二畝十二步

畦畔 八反九畝十三步

畑 三町二反六畝五步

畦 四畝五步

山林 二反八畝二十六步

原野 一町八反四畝七步

池沼 二町九反三畝十步

墓地 一反一畝二十五步

工事概要は東南部分約七町步を約六寸床下げを爲し、畑二町一反步を田となすものとし、此二計畫の土を以て池沼二町九反步を埋め立て、其他原野山林及土砂堆積のため不毛となり居れる部分を改善して田とし、新に幅員一間乃至一間二分の耕作道四條を縱横に設けて幹線とし、巾三尺の支線を適宜に布き、用水排水亦此例に依りて巾一間五分乃至二間のもの掘りて幹川とし、舟楫に便にし、支溝數十を分岐せしめて灌排を自由ならしむ。經費豫算は貳萬參百四圓、年賦償還の方法によりて日本勸業銀行及び滋賀縣農工銀行より借入れ充當せり。

副業 農家の副業として各町村に互れるものは養蠶とす。されども安曇村、三谷村等にては盛ならず。製茶も自家用の製造は各村に行はる。明治十年頃より廣瀬村大字下古賀の竹脇富次郎は大規模に製造して京都方面に賣出したりしが、三十年頃業を廢せり。饗庭村より南は安曇村、水尾村、青柳村、

新儀村、本庄村等に互りて機業に従事するもの多く、安曇、水尾、新儀、本庄各村にては扇骨の製造も盛なり。海津村今津町には漁業に従事するもの、海津村には石灰製造に従事するものあり。特種のもものは三谷村の串柿製造とす。同村には柿の生育の適する爲めなるべし。至る所に其栽植を見る。串柿は多くは角川、保坂、追分にて産し、年産約千四百束(一束は十連、一連は百個)にして一束參圓五拾錢内外なれば總價額四千九百圓に上れり。又菓製造品も各地に行はる。劔熊村海津村にては石灰俵なりとす。養鶏も相當に普及せり。

農會 滋賀縣に於ける農會の設立は明治十三年に始る。當時縣にては農會規則を發布し、縣下を六農區に劃して區農會を設け、又別に村農會を置く。其目的事業等は素より現今の農會と日を同うして論ずべからずと雖も、農事改良の必要を唱導し興利の施設を勧め、當時の農業界に裨補したるところ少からず。十七年更に農事規約例を發布し、農業者相互の規約を以て共同の力に依り、農事上の改良事項を遂行せしめんと圖り、一時多少の効果ありしも、年を経るに従ひ自然に實行を怠り、遂に廢止するの止むなきに至れり。二十八年縣令を以て農會準則を發布す。其趣旨たる基礎鞏固の農業團體を系統的に組織して、相互に聯絡を保ち、大に農業の改良進歩を圖らんとするにありて、各町村は此縣令に基き二十九年より三十一年に至る間に於て農會を組織し、同時に郡農會を起し上下農會の聯絡を保たしむることゝなれり。三十二年農會法及農會令發布ありしかば、此に準據して其組織を變更し、

以て今日に至れり。

郡農會 其創立は明治三十一年^{月日不詳}にあり、三十三年農會法によりて組織を變更す。農會創立以來實施又は獎勵したる事項は模範農場、苗圃、蠶業講習所、生繭乾燥場等の設置、各種品評會、農談會、養蠶講話會の開催、稚蠶共同飼育、苗代改良、害虫驅除、菜種改良等の獎勵、蠶種検査、農具共同購入、共同販賣、畜牛販賣の斡旋、町村農會技術員設置獎勵費、牧草獎勵費、畜牛種付去勢獎勵費支出等にして、特に大正十四年度の事業を擧ぐれば、米穀繭の共同販賣の斡旋、採種圃設置、各種獎勵事業として町村農會技術員、採種圃設置、養蠶組合、同郡聯合會、共同桑園、桑苗生産、桑園改良、菜種改良等の獎勵費支出、又副業獎勵として講習講話會等開催し、種禽家禽購入、副業品共同購入販賣、斡旋費支出、副業用器具機械獎勵費、町村農會副業獎勵費支出等なり。農場は明治四十三年十一月今津町大字弘川に設置す。事務所一棟平家建十二坪、納家平家建十五坪附屬田圃六反三畝歩あり。

町村農會 本郡の町村農會は各町村に設置せられしを以て凡て十七農會とす。農業、蠶業、畜産、林業及び各種の副産業に關し、縣郡の獎勵に係るものと上級農會の施設たるを問はず、苟も當業者に施して利あるものは直接指導獎勵して其普及に努め、又町村に於て自ら適切なる事業を企劃して當業者を指導せり。今全町村農會の事業を列擧する能はざれども、大同小異なるを以て其二三を選んで之を擧ぐれば

西庄村農會は明治二十九年六月五日設立、其後の事業は、試作場設置、農談會品評會共進會等の開催、農具改良、種苗交換、農産物共同販賣並に肥料農具共同購入、米質改良組合蠶糸業及茶業聯合會議所に聯絡を通じ、米茶蠶業の改良を圖りし事、植物病害虫驅除、森林の繁殖保護、家畜家禽の改良繁殖、及び傳染病害驅除、農林事業の統計調査、其他官廳諮問の應答、農林事業に必要な施設等なり。

廣瀬村農會は明治二十六年の設立にして第一に種子改良を行ひ、其後の獎勵事項としては明治四十二年七月稻田正條植競技會を、八月短期農事講習會を開催し、又十二月第一回の水稻選穗共進會を開きて後、毎年一回開催し、米質の改良多收を計り、同年より畦畔等整理に着手し、四十四年度に於て全部を整理せり。四十三年三月耕地全部に野鼠驅除を行ひ、其後年一回之を行ひつゝあり。同年八月肥料論講習を開催し、四十四年八月には農業經濟害虫論の講習を開けり。

米 農産物の第一位にあるものは米穀なり。種子は從來各戸隨意のものを播種し來りしが、明治十八年滋賀縣米質改良組合を組織して、初て各町村をして産米改良の必要を認めしめしも未だ普及するに及ばざりしかば、村農會設置以來、品種の改良を獎勵し、優良種を供給するの途を講しつゝありしが、近年に至りて縣農會にて試作獎勵しつゝある神力、壽、善光寺、關取、渡船等の栽培を普及せしむることゝし、特に各村に於て播種田を設置して其村適當の種子を選みて之が供給の途を開きしかば、在來種を播種するものは稀なり。在來種中本郡特有の稻種として高島早稻あり。其名をシラ

ヤと云ふ。四月上旬苗代を整地し、大抵十日前後に播種す。本田移植は五月十二三日頃より二十日までなり。刈取は九月上旬にして、稻實は長程無芒大粒なり。色稍白く、精米とせば一層美麗なり。其味糯米に彷彿たり。植附地の沃瘦に隨ひて多寡ありと雖も、大略三百坪に一石六斗の收穫あり。收穫期早きを以て普通相場の一倍半以上の値を以て京阪地方へ販出せり。生産地は川上村、今津町を中心として専ら其近村に栽培せられしが、品質改良等の影響を受けて今は殆ど絶滅に近きも、尙川上村に於ては幾分の栽培を見る。

明治二十五年頃まで米作に關し施設せられしものなかりしが、村農會組織後鹽水選害虫驅除の獎勵あり。鹽水選も今日に至りては村一般に行はるゝ所あり、一時普く行はれしも今日にては之を行ふもの少きあり。郡一般より見れば普及するに至らざるなり。害虫驅除は明治三十年頃より誘蛾燈により主として二化螟虫其他害虫蛾の捕殺を獎勵し、四十年頃村農會にて螟虫卵蛾を買上げ、郡農會より小學兒童に獎勵金を交付して苗代に於てその捕採に努めしめたり。此事今に各村に於て行ひつゝあれども、朽木村にては四十二年頃より止みたり。

肥料は從來綠肥干草に藁を交へ、或は魚肥石灰を間接肥料として用ひたりしが、次第に金肥を用ひ現今は農會に於て土質を考へ肥料を選択して参考せしめつゝあれば多くは之に據り、鯀、豆粕、過燐酸石灰、藁、綠肥を使用せり。藁苔は饗庭村を主要の産地としたりしが、紫雲英の盛なると共に漸次